

鹿児島県 I P M実践指標 (平成 27 年度版)

鹿児島県農政部
食の安全推進課

I PM実践指標目次

I PM実践指標総論

| | |
|-----------------------------------|----|
| (1) I PMの考え方 | 1 |
| (2) I PMの技術 | |
| ア 発生予察 | |
| (ア) 現場で実施可能な主な発生予察の方法 | 2 |
| (イ) 鹿児島県が実施する病害虫発生予察 | 3 |
| (ウ) 侵入病害虫への対策 | 3 |
| イ 耕種的防除法 | |
| (ア) 健全種苗の使用 | 5 |
| (イ) 抵抗性又は耐病虫性品種(台木)の利用 | 7 |
| (ウ) 土壌の適正管理 | 7 |
| (エ) 健全な土づくりに向けた良質な堆肥の施用 | 8 |
| (オ) 輪作(田畑輪換を含む)の実施及び緑肥作物(対抗植物)の導入 | 12 |
| (カ) 雑草管理 | 12 |
| (キ) その他の耕種的防除法 | 12 |
| ウ 物理的防除法 | |
| (ア) 土壌還元消毒 | 14 |
| (イ) 太陽熱消毒 | 14 |
| (ウ) 気門封鎖剤の利用 | 15 |
| (エ) 防虫ネット又は障壁植物の利用 | 16 |
| (オ) 近紫外線除去フィルムの利用 | 16 |
| (カ) 光反射資材の利用 | 17 |
| (キ) 色彩反応を利用した防除 | 17 |
| (ク) 施設栽培における栽培終了後の蒸し込み | 17 |
| エ 生物的防除法 | |
| (ア) 天敵の種類 | 18 |
| (イ) 天敵の利用法 | 18 |
| (ウ) 天敵の機能を高める方法 | 19 |
| (エ) 生物農薬としての天敵昆虫・ダニ類 | 19 |
| (オ) 生物農薬としての天敵微生物 | 23 |
| (カ) 土着天敵 | 25 |
| (キ) 交信かく乱法 | 27 |
| オ 化学的防除法 | |
| (ア) 農薬の分類(用途別;生物農薬を除く) | 28 |
| (イ) 農薬の化学組成又は作用特性による分類 | 29 |
| (ウ) 農薬の剤型別の分類 | 32 |
| (エ) 選択的農薬 | 34 |
| 付表 | |
| 抵抗性品種 | 35 |
| 選択的農薬 | 69 |

I P M実践指標各論目次

| | |
|-----------|-----|
| ◆水稲 | 72 |
| ◆茶 | 83 |
| ◆野菜 | 94 |
| (果菜類) | |
| いちご | 102 |
| すいか | 106 |
| トマト・ミニトマト | 110 |
| にがうり(施設) | 113 |
| にがうり(露地) | 116 |
| ピーマン | 120 |
| きゅうり(施設) | 123 |
| なす(施設) | 126 |
| オクラ | 129 |
| かぼちゃ | 133 |
| (根菜類) | |
| ごぼう | 137 |
| さといも | 140 |
| しょうが | 144 |
| だいこん | 148 |
| にんじん | 152 |
| ばれいしょ | 155 |
| さつまいも | 159 |
| (葉茎菜類) | |
| アスパラガス | 163 |
| たまねぎ | 167 |
| らっきょう | 171 |
| レタス | 174 |
| 根深ねぎ | 178 |
| こまつな | 183 |
| しゅんぎく | 186 |
| チンゲンサイ | 189 |
| ほうれんそう | 192 |
| みずな | 195 |
| 葉ねぎ | 198 |
| キャベツ | 201 |
| はくさい | 205 |
| ブロッコリー | 209 |

(豆類)

| | |
|------------|-----|
| さやいんげん(施設) | 213 |
| さやいんげん(露地) | 216 |
| そらまめ | 220 |
| 実えんどう | 224 |
| スナップえんどう | 228 |

◆果樹

| | |
|-----------|-----|
| | 232 |
| うめ | 240 |
| すもも | 244 |
| なし | 248 |
| ぶどう | 252 |
| もも | 256 |
| 温州みかん(施設) | 260 |
| 温州みかん(露地) | 263 |
| 不知火(施設) | 267 |
| 不知火(露地) | 270 |
| きんかん(施設) | 274 |
| きんかん(露地) | 277 |
| たんかん | 281 |
| かぼす | 285 |
| 小みかん | 289 |
| なつみかん | 293 |
| ぽんかん | 297 |
| レモン(施設) | 301 |
| レモン(露地) | 304 |
| マンゴー | 308 |
| パッションフルーツ | 311 |

I P M 実践指標総論

(1) I P M の考え方

I P M とは、利用可能なすべての防除技術（耕種的防除，物理的防除，生物的防除，化学的防除）を，経済性を考慮しながら，総合的に講じて病虫害・雑草の発生を抑制する技術であるとともに，農業を取り巻く生態系の攪乱を可能な限り抑制することにより，生態系が有する病虫害及び雑草抑制機能を最大限に引き出すものである。

I P M の導入によって，病虫害・雑草の薬剤抵抗性に左右されない，持続性の高い，安定的な病虫害・雑草の防除が可能になること等が期待される。

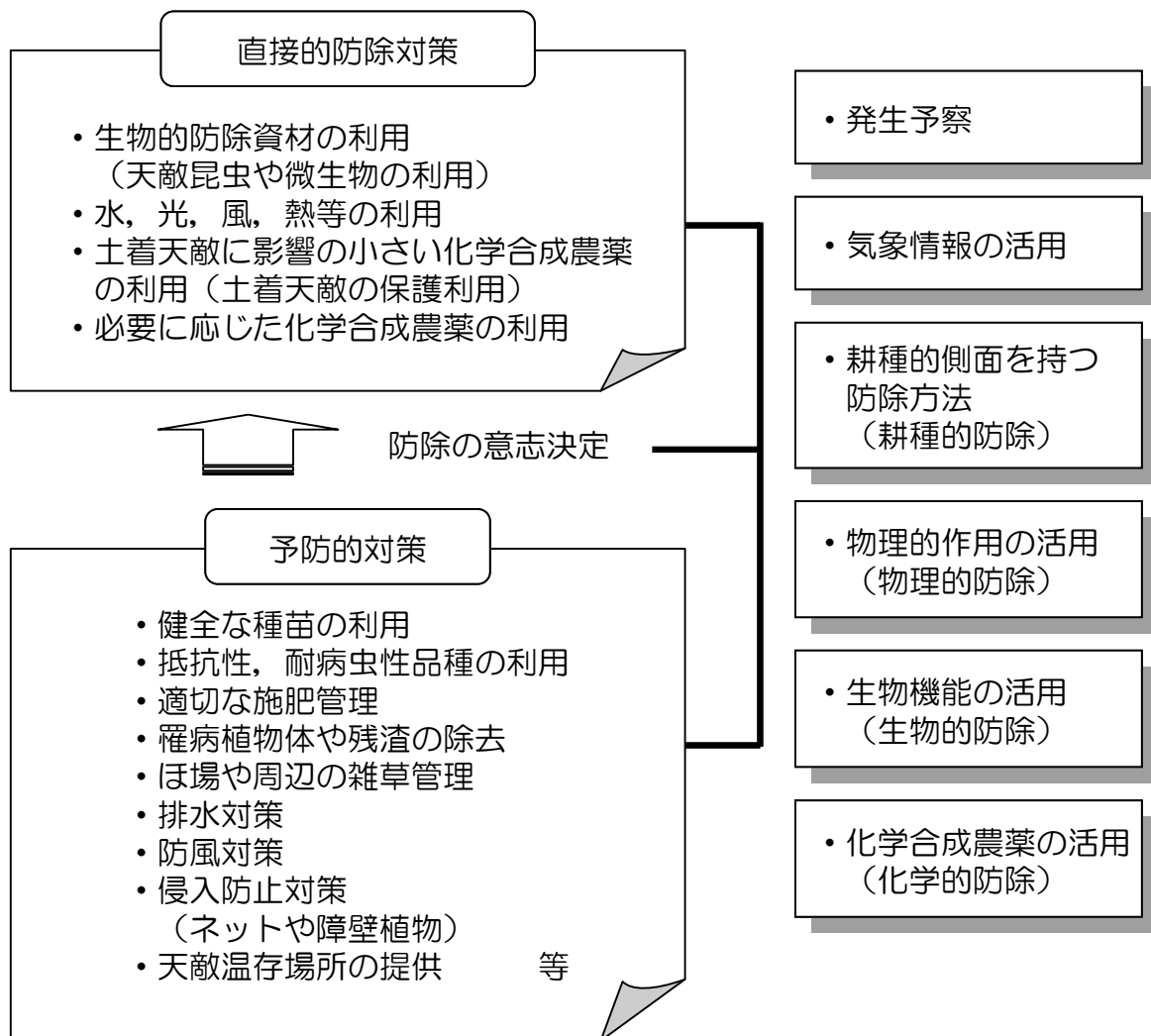


図 I P M の概念

(2) I P M の技術

ア 発生予察及び侵入病害虫への警戒対策

早期発見及び早期対処が病害虫管理の基本であり、このためには発生予察は欠かすことのできない技術である。

(ア) 現場で実践可能な主な発生予察の方法

a 見取り法（直接観察）

害虫、病気及び雑草を直接肉眼で観察する方法。経験的あるいは地理的環境から発生しやすい場所を予め定めておくことで効果的に実施できる。

b 払い落とし法（叩き落とし法）

所定の調査板に手又は棒等により植物体を叩き、調査板に落とされた虫を観察する方法で微小な虫の予察に有効である。

c すくいとり法

捕虫網を振って植物体（寄生部位）に生息する虫を捕獲して観察する方法。一度で広範囲の予察を行う場合や大型の虫の予察に適する。

d 水盤トラップによる方法

黄色に着色した直径 30～60cm、深さ 10cm 前後のトタン製の円形水盤に水を張り、中に飛び込む虫を観察する方法である。水稻のウンカ類やアブラムシ類の発生予察に用いられる。省力的であるが、設置にあたっては一定範囲の場所の確保が必要である。

e 粘着トラップによる方法

粘着剤が塗布された着色板をほ場やほ場周辺に設置し、色に誘引された虫を捕獲して観察する方法である。虫によって好む色が異なるが、一般的に青色と黄色が用いられる。微小な虫の予察に有効である。

一般的に粘着板で予察が行われる虫と各種が好む色

| 黄 色 | 青 色 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類 ・アブラムシ類 ・ハモグリバエ類 ・アザミウマ類 チャノキイロアザミウマ ネギアザミウマ ハナザミウマ | <ul style="list-style-type: none"> アザミウマ類 ヒラズハナアザミウマ ミカンキイロアザミウマ ミナミキイロアザミウマ |

主な粘着トラップの商品名と製造会社

| 商品名 | 製造会社 |
|----------|-----------------|
| ITシート | サンケイ化学（株） |
| スマイルキャッチ | 出光興産（株） |
| バグスキャン | 東海物産（株） |
| ホリバー | アリスタライフサイエンス（株） |
| ムシバンバン | 大協技研工業（株） |

f 性フェロモンを用いた方法

合成性フェロモンを用いて所定のトラップに虫を誘引して観察する方法。鱗翅目害虫を中心にそれぞれの種に対応したフェロモンが発生予察用に販売されている。詳細は(社)日本植物防疫協会のホームページ <http://www.jppe.or.jp/> を参照

(イ) 鹿児島県が実施する病害虫発生予察

各都道府県の病害虫防除所等では、植物防疫法に基づいて特に重要な病害虫の発生予察を実施しており、この結果に基づいて発生予察情報を公開している。

a 鹿児島県で病害虫発生予察を実施している作物

| | |
|------|--|
| 普通作物 | 水稻, さつまいも, だいず, さとうきび |
| 野菜 | トマト, ピーマン, きゅうり, かぼちゃ, ずいか , いちご, キャベツ, オクラ, ばれいしょ, さといも, えんどう類, そらまめ, いんげんまめ |
| 果樹 | かんきつ, なし, ぶどう |
| 工芸作物 | 茶 |
| 花き | きく |

b 性フェロモントラップの設置状況

| 対象害虫 | 設置場所 |
|-------------|--------------------------------------|
| オオタバコガ | 出水市, 南さつま市, 指宿市, 霧島市, 曾於市, 鹿屋市 |
| シロイチモジヨトウ | 出水市, 南さつま市, 指宿市, 霧島市, 曾於市, 鹿屋市 |
| ハスモンヨトウ | 出水市, 南さつま市, 南九州市, 指宿市, 霧島市, 曾於市, 鹿屋市 |
| チャノココクモンハマキ | 南九州市 |
| チャハマキ | 南九州市 |
| チャノホソガ | 南九州市 |

c インターネットによる予察情報の入手方法

病害虫防除所のホームページ <http://www.jpnn.ne.jp/kagoshima/>へアクセス

d 病害虫情報テレホンサービス

099(296)6430, 099(296)6431

e 新聞情報 (月1回)

南日本新聞, 日本農業新聞

(ウ) 侵入病害虫への対策

近年は、物流の多様化等により、海外からの病害虫の侵入リスクが高まっている。これらの中には、植物防疫法上の重要病害虫として位置付けられているものも多く、既に国内の一部で発生しているものも存在する。重要病害虫が、万が一、本県に侵入した場合には、農業生産に及ぼす影響が極めて大きい。

このため、侵入病害虫の発生を未然に防ぐためには、その動向に注意するとともに、これらの寄主植物を発生地域から安易に輸入又は移動させないことが必要である。海外及び国内の一部に生息する病害虫で、発生した場合の被害が極めて大きい種については、輸入及び移動禁止対象種に指定されている。

ア 植物防疫法の概要が掲載されているホームページ

<http://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/index.html>

イ 海外の病害虫情報

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kaigai/index.html

海外の特定の地域から寄主植物の輸入が禁止されている病害虫

| グループ | 病害虫名 |
|-----------|--|
| 甲虫目 | アリモドキゾウムシ、イモゾウムシ：さつまいも等の害虫 コロラドハムシ：ばれいしょ等ナス科植物の害虫 |
| 双翅目（ハエ目） | ウリミバエ、クインスランドミバエ、チチュウカイミバエ、 ミカンコミバエ種群：野菜や果樹等多くの植物の害虫 ヘシアンバエ：ムギ類の害虫 |
| 鱗翅目（チョウ目） | コドリンガ：なしやりんご等の害虫 |
| 糸状菌 | ジャガイモがんしゅ病菌（Synchytrium 属） |
| | タバコベト病菌（Peronospora 属） |
| | イネミイラ穂病菌（Balansia 属） |
| 細菌 | 火傷病菌：なしやりんご等の病原菌（Erwinia 属） |
| | カンキツグリーンング病菌：かんきつ類の病原菌 （Candidatus 属） |
| | イネ条斑細菌病菌（Xanthomonas 属） |
| 線虫 | ジャガイモシストセンチュウ：ばれいしょ、トマト及びなす 等の害虫 |
| | ジャガイモシロシストセンチュウ：ばれいしょ、トマト及び なす等の害虫 |
| | カンキツネモグリセンチュウ：寄主範囲は広く、特に果樹の 害虫 |
| | イネクキセンチュウ |

※病害虫名は、植物防疫法施行規則に準じる。

輸出国の栽培地での検査が義務付けられる病害虫

| グループ | 病害虫名 |
|-------|--|
| 糸状菌 | エンドウ萎ちょう病菌：えんどうの病原菌（Fusarium 属） |
| | サドンオークデス病菌：コナラ属、ツツジ属、ブナ属等の病 病原菌（Phytophthora 属） |
| 細菌 | インゲンマメ萎ちょう細菌病菌：いんげん、えんどう及びだ いず等の病原菌（Curtobacterium 属） |
| | スイカ果実汚斑細菌病菌：すいか、とうがん及びメロン等の 病原菌（Acidovorax 属） |
| | トウモロコシ萎ちょう細菌病菌（Pantoea 属） |
| | トウモロコシ葉枯細菌病菌（Clavibacter 属） |
| ウイルス | ソラマメステインウイルス |
| | ソラマメトウルーモザイクウイルス |
| | ウメ輪紋ウイルス：あんず、うめ及びもも等の病原菌 |
| ウイロイド | ジャガイモやせいもウイロイド：なす科植物の病原菌 |
| 線虫 | コロンビアネコブセンチュウ：てんさい及びばれいしょ等の 害虫 |
| | テンサイシストセンチュウ：あぶらな属植物等の害虫 |
| | ニセコロンビアネコブセンチュウ：いちご、トマト及びばれ いしょ等の害虫 |
| | ニセネコブセンチュウ：トマト及びばれいしょ等の害虫 |
| | バナナネモグリセンチュウ：アボカド、しょうが及びバナナ 等の害虫 |

※病害虫名は、植物防疫法施行規則に準じる。栽培地での検査とは、輸出国の政府機関によりその栽培地で当該病害虫の有無を検査し、付着がない旨を証明するものがなければ輸入できない条件。

移動禁止対象病害虫

| グループ | 病害虫名 |
|------------|---------------------------------------|
| 甲虫目 | アリモドキゾウムシ, イモゾウムシ |
| 双翅目 (ハエ目) | ウリミバエ, ミカンコミバエ種群 |
| 鱗翅目 (チョウ目) | サツマイモノメイガ |
| 半翅目 | ミカンキジラミ:カンキツグリーンング病菌の媒介虫 |
| 細菌 | カンキツグリーンング病菌:かんきつ類の病原菌 (Candidatus 属) |
| その他 | アフリカマイマイ:野菜類等, 多くの植物を加害 |

※病害虫名は、植物防疫法施行規則に準じる。

イ 耕種的防除法

主に栽培管理技術を通じて病害虫及び雑草の管理を図る側面が強く、予防的な対策となる場合が多い。

(ア) 健全種苗の使用

適正な病害虫管理が実施された条件下で育成された種苗を用いることで、ほ場への病害虫の持ち込みを防ぐことは、病害虫管理の基本である。また、国際的な種子流通が活発になるに伴って、種苗を介した新たな病害虫又は系統の侵入が懸念されるため、種苗を購入する場合には、その入手先についても正確に把握しておくことが重要である。

なお、「ばれいしょ」については、植物防疫法において唯一「指定種苗」に指定されており、植物防疫所が所定の病害虫を対象に実施する検査に合格したものでなければ、種苗として移動させることはできない。

ばれいしょの種いも検査の内容

| | |
|-----------|--|
| 対象地域 (道県) | 北海道, 青森県, 岩手県, 福島県, 群馬県, 山梨県, 長野県, 岡山県, 広島県, 長崎県, 熊本県 |
| 対象病害虫 | ジャガイモシストセンチュウ, ジャガイモガ, 青枯病菌, 疫病菌, 黒あざ病菌, そうか病菌, 粉状そうか病菌, ばれいしょウイルス, 輪腐病菌 |

a 種子伝染する主な病害

主なウイルス病

| 作物 | 病原体 |
|----------------------|-------------------------|
| なす科作物 | キュウリモザイクウイルス (CMV) |
| | タバコモザイクウイルス (TMV) |
| | トマトモザイクウイルス (ToMV) |
| | アラビシモザイクウイルス (ArMV) |
| | ジャガイモMウイルス (PVM) |
| | タバコ条斑ウイルス (TSV) |
| | トマト黒色輪点ウイルス (TBRV) |
| | トマトブッシースタントウイルス (ToBSV) |
| | トマト輪点ウイルス (ToRSV) |
| | アルファルファモザイクウイルス (AMV) |
| トウガラシ微斑ルウイルス (PMMoV) | |

次ページへ

主なウイルス病 (前ページ続き)

| | |
|---------|---|
| うり科作物 | スイカ緑斑モザイクウイルス (CGMMV) キュウリモザイクウイルス (CMV) スイカモザイクウイルス (WMV) スカッシュモザイクウイルス (SqMV) ズッキーニ黄斑モザイクウイルス (ZYMV) メロンえそ斑点ウイルス (MNSV) パパイヤ輪点ウイルス (PRSV) |
| アブラナ科作物 | カブモザイクウイルス (TuMV) ダイコン葉縁黄化ウイルス (RYEV) |
| レタス | レタスモザイクウイルス (LMV) アラビスモザイクウイルス (ArMV) トマト黒色輪点ウイルス (TBRV) |
| ほうれんそう | ハウレンソウ潜伏ウイルス (SpTV) ダイコン葉縁黄化ウイルス (RYEV) |
| ねぎ類 | タマネギ萎縮ウイルス (OYDV) |

主な細菌病

| 作物 | 病害 |
|---------|---|
| なす科作物 | 青枯病, かいよう病, 茎えそ細菌病, 斑点細菌病, 斑葉細菌病 |
| うり科作物 | 果実汚斑細菌病, 褐斑細菌病, 斑点細菌病 |
| アブラナ科作物 | 黒腐病, 黒斑細菌病, 斑点細菌病 |
| レタス | 腐敗病, 斑点細菌病 |
| にんじん | 斑点細菌病, <i>Pseudomonas viridiflava</i> |
| オクラ | <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>syringae</i> |

主な糸状菌病

| 作物 | 病害 |
|---------|--|
| トマト | 萎凋病, 疫病, 褐色腐敗病, 苗立枯病, 根腐萎凋病, 輪紋病, 綿腐病 |
| なす | 褐紋病 |
| ピーマン | 萎凋病, 疫病, 炭疽病, 苗立枯病, 斑点病 |
| うり科作物 | 炭疽病, つる枯病, つる割病, 灰色かび病 <i>Lasiodiplodia thebromae</i> , <i>Macrophomina phaseolina</i> |
| アブラナ科作物 | 菌核病, 黒斑病, 根こぶ病, 白斑病, べと病, <i>Mycosphaerella brassicicola</i> |
| だいこん | 炭疽病 |
| はくさい | 黄化病 |
| キャベツ | 根朽病 |
| レタス | べと病, 白絹病 |
| ほうれんそう | 萎凋病, べと病 |
| ねぎ類 | 萎凋病, 乾腐病, 黒斑病, 黒腐菌核病, 炭疽病, 葉枯病, べと病, <i>Fusarium moniliforme</i> var. <i>subglutinans</i> |
| にんじん | 黒葉枯病, 黒斑病, 斑点病 |
| アスパラガス | 立枯病 |
| オクラ | 立枯病 |

(イ) 抵抗性又は耐病虫性品種（台木）の利用

病害虫に対する植物側の反応の強弱により抵抗性（Resistance）又は耐病虫性（Tolerance）という表現が使い分けられている。なお、抵抗性又は耐病虫性品種（台木）の参考資料は、後の付表を参照。病原菌と植物との相互関係の場合、抵抗性は以下の種類に分けられる。

a 抵抗性が機能する段階での違い

- (a) 侵入抵抗（侵入・感染阻止型）
病原菌の侵入及び感染を阻止する。
- (b) 拡大抵抗（増殖抑制型）
侵入及び感染後の、植物体内での病原菌の増殖を抑制する。

b 植物側が有する抵抗性の要因

- (a) 静的抵抗性
植物がもともと備えている抵抗性。ワックスやクチクラ等の疎水的環境，細胞壁の厚さや硬さ，先在性の抗菌物質（フェノール類，サポニン等）等
- (b) 動的抵抗性
病原菌の攻撃により，植物体に新たに誘導される抵抗性。感染阻害因子（カテキン等），ファイトアレキシン（低分子抗菌性物質），特定のたんぱく質の合成，リグニン化等

c 遺伝子が関与する抵抗性

- (a) 真性抵抗性（質的抵抗性）
特定の少数の主働遺伝子によって支配される質的な抵抗性（病気にかかるか否かの抵抗性）
- (b) ほ場抵抗性（量的抵抗性）
主に多数の微動遺伝子によって支配される量的な抵抗性（罹病程度で表される抵抗性）

(ウ) 土壌の適正管理

各作物に適した土壌条件を化学性，物理性及び生物相の面から総合的にバランスよく保持することで，健全な植物体を育成するとともに，特定の病害虫の増殖等を防ぐ。

目標とする土壌条件

| 化学性 | 物理性 | 生物性 |
|---|---|-------------------|
| ①肥力が大きく，緩衝能が大きい ②養分がバランスよく含有され，有害物質がない | ①孔隙が多く，しかも保水性が高い ②土がしまらず，通気性，透水性がよい ③作土が厚く，根群域が深い ④地下水位が低い | ①有用微生物が多く，病害虫が少ない |

(エ) 健全な土づくりに向けた良質な堆肥の施用

- a 腐熟していない堆肥の施用は，病原菌，雑草種子，フェノール類有機成分などの生育阻害物質によって作物生産を阻害する危険性が高いので，十分に発酵が促進されている良質な堆肥を施用する。
- b 炭素率の高い有機物の施用は，微生物体内の構成炭素率と合致しないため，土壌中の微生物が急激に増殖し，窒素飢餓を起こしやすい。このため，過剰施用は避け，施用は作付けの最低2週間前とする。
- c 家畜ふん堆肥など有機物は種類によって，成分含量が異なることから，資材別の特性を熟知する。
- d 窒素成分の高い有機物の施用は，化学肥料との併用によって土壌環境の悪化，地下水等の汚染が懸念されるので，併用する際は施肥設計を十分検討する。
- e 有機物の施用にあたっては，土壌診断結果に基づき，有機物の種類や施用量を決定する。
- f 温暖多雨な気象条件下では，土壌養分の溶脱，分解が速いため，有機物の断続的な施用が必要である。

(オ) 輪作（田畑輪換を含む）の実施及び緑肥作物（対抗植物）の導入

同一作物の連作は、特定の病害虫が増殖するリスクを高めるため、異なる作物や緑肥作物を栽培により、このリスクの低減を図ることができる。

なお、線虫の防除を対象として緑肥作物を利用する場合には、「対抗植物」と呼ばれる。

連作により発生しやすい主な病害及び障害

| 作物 | | 病害と障害 |
|-----|------|------------------------------|
| 葉菜類 | キャベツ | 萎黄病, 菌核病, 黒腐病, 根こぶ病 |
| | はくさい | 黄化病, 菌核病, 根こぶ病, ホウ素欠乏 |
| 果菜類 | いちご | 萎黄病, 根腐病, 濃度障害 |
| | えんどう | 茎腐病, 立枯病 |
| | きゅうり | 立枯性疫病, つる枯病, つる割病, 濃度障害 |
| | すいか | つる割病 |
| | トマト | 青枯病, 萎凋病, 褐色根腐病, 根腐萎凋病, 濃度障害 |
| | なす | 青枯病, 半身萎凋病 |
| 根菜類 | ごぼう | ヤケ症 |
| | さといも | 腐敗病 |
| | だいこん | 萎黄病, 軟腐病, ホウ素欠乏 |
| | にんじん | ホウ素欠乏 |

作物別の線虫の寄生性

| 作物 | 線虫名 | | | | | |
|-----|----------|------|-----|-----------|------|---|
| | ネコブセンチュウ | | | ネグサレセンチュウ | | |
| | サツマイモ～ | ジャワ～ | キタ～ | キタ～ | ミナミ～ | |
| 葉菜類 | キャベツ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ねぎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | はくさい | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ほうれんそう | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | レタス | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 果菜類 | いちご | | ○ | ○ | ○ | |
| | オクラ | ○ | | | | |
| | かぼちゃ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | きゅうり | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | すいか | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| | トマト | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | なす | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ピーマン | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| まめ類 | いんげん | ○ | | | | |
| | えんどう | ○ | | ○ | | |
| 根菜類 | ごぼう | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | さつまいも | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | だいこん | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | たまねぎ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | にんじん | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ばれいしょ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

※表中の○は、各線虫が各作物に対して寄生性を有することを示す。

a 緑肥作物の導入によって期待される効果**(a) 土壌の団粒化促進と物理性の改良**

緑肥のすき込みによって、土壌の団粒化が促進され、土の通気及び通水性や、保水性等が改善される。また、根群形成が旺盛な緑肥を利用すると、下層面に土壌亀裂の形成が進み、湿害等の改善効果が期待できる。

(b) 土壌の化学性の改善

過剰な肥料分を吸収させることで、肥料バランスを適正に保つことができる。イネ科植物は吸肥力が高い。一方、マメ科の緑肥作物は、根粒菌の機能により空気中の窒素固定し、作物へ供給することもできる。

(c) 有害線虫類の抑制及び有用微生物の活性化

緑肥の中には、アレロパシー（他感作用物質）により、線虫類に対して阻害的な作用を有するものがある。また、緑肥作物のすき込みによって、土壌中の炭素量が高まり、微生物の活動が活発になることで、土壌中の微生物層が多様になる。

(d) 草生利用による土壌保全と風食害の抑制

果樹園の草生栽培等、緑肥作物の草生利用により、表土の流出や浸食の防止効果を期待できる。

b 緑肥作物の導入にあたっての留意点

生の状態の緑肥（特にイネ科）植物をすき込むと、難分解性のセルロースやリグニン等の繊維質が高まるため、微生物の窒素要求量が一時的に増加し、窒素飢餓を招きやすい。

一般的に、炭素率が 20 以上の有機物をすき込むと、一時的に無機態窒素が欠乏するため、緑肥作物をすき込んだ後には、夏の期間でも 3～4 週間の腐熟期間を設ける必要がある。

分解促進のために、マメ科の緑肥作物を混植や、すき込み時に窒素質肥料を供給する方法もある。

各種緑肥作物の炭素率

| 緑肥作物名 | 炭素率 |
|-----------|-------|
| イネ科 | |
| エンバク | 15～38 |
| ソルゴー | 34～41 |
| トウモロコシ | 20～35 |
| トウモロコシ（稈） | 約 45 |
| ナギナタガヤ | 約 20 |
| マメ科 | |
| アカクローバ | 10～16 |
| ダイズ | 14～15 |
| ヘアリーベッチ | 10～11 |
| その他 | |
| ヒマワリ | 13～40 |
| シロカラシ | 12～26 |
| (参考) | |
| 稲わら | 48～75 |
| 麦わら | 約 90 |
| モミガラ | 72～80 |

c 主な緑肥作物の特性**【アブラナ科】****(a) シロカラシ**

2～3kg/10a を播種。播種適期は 9～11 月で、開花期にすき込む。

(b) 菜の花 2kg/10a を播種。播種適期は 9～12 月で、開花期にすき込む。

【イネ科】

(c) エンバク

8~10kg/10a を播種。線虫の他、キスジノミハムシの等の密度を抑制する効果がある。播種後、約2か月ですき込む。播種適期は、春まきが3月下旬~5月上旬、秋まきが8~12月。

(d) 大麦及び小麦

8~10kg/10a を播種（間作利用の場合には、2~4kg/10a）。耐暑性が弱いため、4~6月に播種すると、7月以降に地上部は枯死する。夏に栽培する作物でのリビングマルチ等の間作に利用することで、雑草抑制や敷わら効果が期待できる。小麦は大麦よりも枯れが遅いため、持続性に優れる。

(e) ギニアグラス

1~2kg/10a を畦幅30~60cmで条まきする。播種適期は5月下旬~7月下旬。サツマイモネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ及びキタネグサレセンチュウに有効。吸肥力が高いため、クリーニングクロープに向く他、高温期の生育が旺盛である。播種から約2か月後、草丈80cm~出穂始めころにすき込む。

(f) スーダングラス

4~5kg/10a を播種。播種適期は6月上旬~7月下旬。吸肥力が高いため、クリーニングクロープに向く他、高温期の生育が旺盛である。出穂は遅いので、草丈約1.8m（播種後2か月）を目安にすき込む。

(g) ソルゴー

2~4kg/10a を播種。飼料用途を含め、品種が多様であるため、目的に応じて品種を選定する。吸肥力が高いため、クリーニングクロープに向く他、耐倒伏性の品種を選ぶことで、障壁植物としても利用できる。

(h) ヒエ

2~4kg/10a を播種。播種適期は4~7月。耐湿性が高いため、湛水条件下でも栽培できる他、強酸性土壌にも適応できる。草丈1~1.5mを目安にすき込む。湛水とヒエ栽培を組み合わせる技術もあるが、この場合には、最低40日以上栽培期間が必要である。

(i) ライ麦

8~10kg/10a を播種。播種適期は9~12月。耐寒性に優れるため、秋冬季の利用も可能である。

【マメ科】

(j) エビスグサ

3~4kg/10a を播種。播種適期は6~7月。1年生のマメ科植物で、キタネグサレセンチュウ対策及び窒素固定効果の他、根群が地中に深く入るため硬盤破碎効果も期待できる。草丈1~1.5mですき込む。

(k) クローバー類

2~3kg/10a を播種。秋まきの場合には、5月に開花し、春まきの場合には6月に開花する。湿害には弱いため、排水の良いほ場に適する。

(l) クロタラリア

6~8kg/10a を播種（条まきの場合には、2~4kg/10a）。播種適期は6月中旬~7月中旬。サツマイモネコブセンチュウ、キタネコブセンチュウ及びキタネグサレセンチュウに有効。1年生のマメ科植物で、線虫対策及び窒素固定効果の他、根群が地中に深く入るため硬盤破碎効果も期待できる。草丈は1.5~2mに達する。排水不良地には不適である。

(m) セスバニア

4~5kg/10a を播種。播種適期は6月中旬~7月下旬。1年生のマメ科植物で、窒素固定力が高く、根群が地中に深く（1m以上）入るため、高い硬盤破碎効果も期待できる。草丈は3~4mに達する。耐湿性にも優れるため、水田後作でも利用できる。

(n) ヘアリーベッチ

6~8kg/10a を播種。播種適期は、春まきで3~4月、秋まきで9~11月。1年生のマメ科植物で、土壌被覆性が高く、雑草抑制効果が期待できる。

【その他】

(o) ヒマワリ

1～2kg/10a を播種。播種適期は 5～8 月。土壌中の菌根菌密度を高め、後作作物のリン酸吸収を高める効果がある。開花までの日数は播種後約 80 日。

(p) ハゼリソウ

2～3kg/10a を播種。播種適期は、春まきで 2 月下旬～4 月上旬，秋まきで 10 月中旬～11 月中旬。土壌被覆性が高く，雑草抑制効果が期待できる。また，C/N 比も低いため，すき込みやすい。5 月に開花する。

各種線虫に対する緑肥植物作物（対抗植物）の特性

| 作物 | 線虫名 | | | | | |
|-------------------|----------|------|-----|-----------|------|-----------|
| | ネコブセンチュウ | | | ネグサレセンチュウ | | ダズシトセンチュウ |
| | サマ任～ | アレア～ | キタ～ | キタ～ | ミナミ～ | |
| イネ科 | | | | | | |
| エンバク | | | ○ | ○ | | |
| ギニアグラス | ○ | | ○ | ○ | ○ | |
| ソルゴー | ○ | | ○ | | | |
| マメ科 | | | | | | |
| エビスグサ | | | | ○ | | |
| クローバー | | | | | | ○ |
| クロタリヤ (ネギグの場合) | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| キク科 | | | | | | |
| マリーゴールド | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

代表的な緑肥植物作物

| 植物名 | 代表的な品種 (商品名) | 播種時期 |
|---------|---|----------------|
| アブラナ科 | | |
| シロカラシ | キカラシ，地力 等 | 3～4月 9～10月 |
| 菜の花 | | 9～12月 |
| イネ科 | | |
| エンバク | ヘイオーツ，ニューオーツ，エンダックス， ソイルセーバー，スタンドオーツ，ネグサレタイジ 等 | 3～5月 8下～11月 |
| 大麦 | 百万石，てまいらず 等 | 4～6月 |
| ギニアグラス | ナツカゼ，ソイルクリーン 等 | 4～8月 |
| 小麦 | マルチムギ 等 | 4～6月 |
| スーダングラス | ねまへらそう，ベールスーダン等 | 4～9月上 |
| ソルゴー | 元気ソルゴー，つちたろう，スダックス， グリーンソルゴー 等 | 5～8月 |
| ヒエ | グリーンミレット，ホワイトパニック 等 | 4下～8月中 |
| ライムギ | ハルミドリ，ライダックス，ライ太郎 等 | 3～5月 8中～11月 |
| キク科 | | |
| ヒマワリ | キッズスマイル，大地，ハブリッドサンフラワー 等 | 5～8月 |
| マリーゴールド | アフリカントール，プチイエロー 等 | 4～7月 |

次ページへ

代表的な緑肥植物作物（前ページ続き）

| | | |
|---------|------------------------|--------------------|
| ハゼリソウ科 | | |
| ハゼリソウ | アンジェリア, めぐみ 等 | 10 中～11 月中 |
| マメ科 | | |
| エビスグサ | エビスグサ 等 | 6～7月 |
| クローバー | くれない, クリムゾンクローバー 等 | 9 下～11 月中 3～4月中 |
| クロタラリア | ネマキング, ネマコロリ, ネコブキラー 等 | 5～8月 |
| セスパニア | セスパニア 等 | 6～7月 |
| ヘアリーベッチ | まめっこ, まめ助 等 | 9～11月 |

(カ) 雑草管理

a 機械的除草（耕耘, 耕起, 刈り取り）

雑草を引き抜き, 埋没, 断根することにより, 枯殺させる。

b ポリマルチ又は敷わら等の被覆資材の利用

地表面を無生物的に被覆することで, 物理的圧迫と遮光によって雑草を抑制する。

c カバープランツ・カバークロップ（地被又は被覆植物）の利用

主作物の栽培の前後に植えられ, 土壌を被覆することにより, 雑草を抑制する。土壌流亡防止, 有機物の供給及び窒素の供給等の機能も期待できる。

d リビングマルチ

主作物の栽培前又は栽培と同時に植えられ, 主作物の栽培期間中の全期間又は一部の期間にも生存して, 地表面を被覆している植物である。先の「カバープランツ」と厳密に区別されていないが, カバープランツが主作物の栽培時には枯死するものを意味するのに対して, リビングマルチは主作物の生育期間にも植生を維持しているものを意味することが多い。このような観点に基づけば, 果樹の「草生栽培」は, リビングマルチに位置付けられる。

カバープランツに用いられる主な草種

| |
|---|
| アジュガ, エビスグサ, 大麦, シバザクラ, スイートアリッサム, ダイアンサス, ティフブレア, ナギナタガヤ, バーベナ類, バジル類, ハゼリソウ, ヒメイワダレソウ, ヒマワリ, ヘアリーベッチ, ミント類, らい麦 |
|---|

(キ) その他の耕種的防除法

a 整枝及びせん定

整枝及びせん定の目的は, 作物によって異なるが, これらの作業を通じて植物体を健全に保ち, 病害虫の被害の軽減を図る間接的な効果と, ほ場内又は植物体の採光や通風を確保することで病害虫の発生しにくい環境を作ること, 又は病害虫の発生源又は感染源を除去することで病害虫のまん延を防ぐこと等の, 直接的な効果がある。

b 残渣処理

前作の残渣処理は, 感染源を除去し, 次作への影響を避けるという観点から, 基本的な作業である。

必ず残渣処理を行う必要がある病害の例

| 作物 | 病害の種類 | |
|------|-------|--------------------------------------|
| 葉茎菜類 | キャベツ | 萎黄病, 菌核病, 苗立枯病, 軟腐病, 根こぶ病 |
| | たまねぎ | 乾腐病, 菌核病, 苗立枯病, 白色疫病, 紅色根腐病, |
| | はくさい | 黄化病, 菌核病, 黒腐病, 尻腐病, 軟腐病, 根くびれ病, 根こぶ病 |

次ページへ

必ず残渣処理を行う必要がある病害の例（前ページ続き）

| | | |
|-----|-------|---|
| 果菜類 | いちご | 青枯病, 萎凋病, 疫病, 根腐病, 芽枯病 |
| | きゅうり | 疫病, 菌核病, 白絹病, つる割病, 苗立枯病, 灰色かび病, 半身萎凋病, 緑斑モザイク病 |
| | すいか | 緑斑モザイク病, 疫病, 半身萎凋病, 菌核病, 白絹病 |
| | トマト | 青枯病, 萎凋病, 褐色根腐病, 菌核病, 白絹病, 苗立枯病, 半身萎凋病, モザイク病 (TMV) |
| | なす | 青枯病, 褐色腐敗病, 黒点根腐病, 白絹病, 苗立枯病, 半枯病, 半身萎凋病, |
| | ピーマン | 青枯病, 萎凋病, ウイルス病, 疫病, 菌核病, 白絹病, 苗立枯病, 半身萎凋病 |
| 豆類 | いんげん | 青枯病, 菌核病, 白絹病, 根腐病 |
| 根菜類 | さつまいも | 黒あざ病, 黒斑病, 白絹病, 白紋羽病, 小粒菌核病, 立枯病, つる割病, 紫紋羽病 |
| | だいこん | 青枯病, 萎黄病, 菌核病, 黒腐病, 黒点輪腐病, 軟腐病, 根こぶ病, バーティシリウム黒点病 |
| | ばれいしょ | 青枯病, 萎凋病, 乾腐病, 黒あざ病, 黒あし病, そうか病, 象皮病, 軟腐病, 粉状そうか病 |

ウ 物理的防除法

熱、遮断、光、水等の物理的作用を利用した防除方法。

(ア) 土壤還元消毒

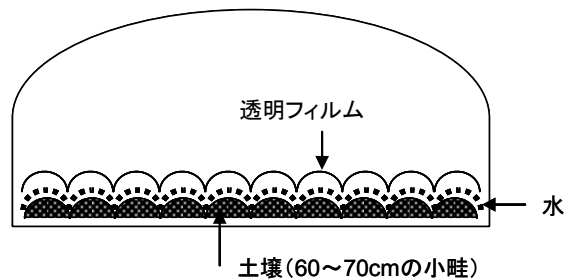
太陽熱、水及び米ぬか（又はふすま）を利用した土壤消毒方法。地温 30℃以上のもので、土に米ぬか（又はふすま）を混和すると、これらを栄養分として土壤微生物が増殖する。このときの微生物による酸素の消費による土壤の還元状態（酸素欠乏）、有機物から生成される酢酸等の有機酸、微生物間の拮抗作用及び太陽熱と発酵熱による高温等の複合的要因によって病害虫に対する防除効果が得られる。

- ①米ぬか（又はふすま）を散布する 2～3 日前までに耕耘し、十分にかん水する。
※米ぬか（又はふすま）混和後の土壤水分が均一になるようにするため。
- ②米ぬか（又はふすま）0.5～1 トン/10a を均一に散布し、2～3 回耕耘
- ③かん水
※水分が土壤に十分に浸透し、水が浮いてくる程度（一時的な湛水状態）が目安
- ④透明フィルムで土壤表面全体を被覆
- ⑤20 日間処理
※開始から 3 日間晴天が続くことが重要であり、約 7 日目で還元臭がすることを確認
- ⑥透明フィルムを除去後耕耘

(イ) 太陽熱消毒

太陽熱、水及び粗大有機物を利用した土壤消毒法。地温 40℃以上のもので、土壤水分量を高め、透明フィルムで被覆することで土壤温度を高め、病害虫に対する防除を図る。

- ①耕耘して有機物を投入し、小畦を作る。
※粗大有機物の分解を促進するために、石灰窒素を 100kg/10a 施用する。
- ②土壤水分が 60%以上になるまでかん水する
- ③透明フィルムで土壤表面全体を被覆
- ④1 か月以上処理
- ⑤透明フィルムを除去後耕耘



太陽熱消毒（ハウス密閉の場合）

土壤還元消毒法と太陽熱消毒法の違い

| 内容 | 土壤還元消毒法 | 太陽熱消毒法 |
|-----------|---------------------|-----------------|
| 主に使用する有機物 | ふすま、米ぬか等 | 稲わら等粗大有機物 |
| かん水量 | 一時的に湛水状態になるまで大量にかん水 | 土壤水分 60%程度までかん水 |
| 必要な地温 | 30℃以上 | 40℃以上 |
| 必要な期間 | 20 日程度 | 1 か月以上 |
| 地表面 | 還元状態にするため平らに整地 | 地温上昇を促すため小畦を作る |

(ウ) 気門封鎖剤の利用

害虫の体表面にある呼吸器官（気門）を塞いで窒息死させる作用をもつ薬剤を気門封鎖剤と呼ぶ。その作用特性上、薬剤抵抗性が発達するおそれが少なく、天敵への影響も比較的小さい。一部の気門封鎖剤は、うどんこ病にも登録がある。

気門封鎖剤一覧

| 主成分 | 商品名 | 対象病虫害 | 対象作物 |
|---------------------|-----------|-------------------------------|-----------------------------------|
| デンブン | 粘着くん液剤 | アブラムシ類, ハダニ類, コナジラミ類 等 | 野菜類, さつまいも, かんきつ, 茶 等 |
| | 粘着くん水和剤 | アブラムシ類, ハダニ類 等 | 果樹類 等 |
| 還元澱粉糖化物 | エコピタ液剤 | アブラムシ類, コナジラミ類, ハダニ類, うどんこ病 等 | 野菜類, いも類, かんきつ 等 |
| | ベニカマイルド液剤 | 〃 | 〃 |
| | あめんこ100 | 〃 | 〃 |
| | キモンブロック液剤 | 〃 | 〃 |
| マシン油 | スピンドロン乳剤 | カイガラムシ類, ハダニ類 等 | 茶, かんきつ, なし 等 |
| | トモノールS | 〃 | かんきつ, なし すもも 等 |
| | グリーンオイル | 〃 | 茶, かんきつ, なし, マンゴー 等 |
| | アタックオイル | 〃 | いちご, きゅうり, 茶 かんきつ, マンゴー 小粒核果類 等 |
| | ハーバストオイル | 〃 | いちご, きゅうり 茶, かんきつ 小粒核果類 等 |
| | ラビサンスプレー | 〃 | いちご, きゅうり 茶, かんきつ 小粒核果類 等 |
| | スプレーオイル | カイガラムシ類, ハダニ類 うどんこ病 等 | いちご, きゅうり 茶, かんきつ, マンゴー なし, すもも 等 |
| | エアータック乳剤 | ミカンハダニ, カイガラムシ類 等 | かんきつ, 茶 等 |
| | トモノール | カイガラムシ類, ハダニ類 等 | かんきつ, 落葉果樹 等 |
| | 機械油乳剤95 | 〃 | 〃 |
| | 特製ハイマシン95 | 〃 | 〃 |
| | マシン油乳剤95 | 〃 | 〃 |
| | キング95マシン | 〃 | 〃 |
| | 高度マシン95 | 〃 | 〃 |
| | 特製スケルシン95 | 〃 | 〃 |
| なたね油 | ハッパ乳剤 | ハダニ類, うどんこ病 等 | きゅうり, かんきつ 等 |
| オレイン酸ナトリウム | オレート液剤 | アブラムシ類, コナジラミ類, うどんこ病 | 野菜類, 果樹類 等 |
| プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル | アカリタッチ乳剤 | ハダニ類, うどんこ病 | 野菜類, いも類, 果樹類 等 |
| ソルビタン脂肪酸エステル | ムシラップ | アブラムシ類, コナジラミ類, ハダニ類, うどんこ病 等 | 野菜類, いも類 等 |
| 脂肪酸グリセリド | サンクリスタル乳剤 | アブラムシ類, コナジラミ類, ハダニ類, うどんこ病 等 | 野菜類, 茶 等 |
| | アーリーセーフ | アブラムシ類, コナジラミ類, ハダニ類, うどんこ病 等 | 野菜類, 茶 等 |

注) ・各種気門封鎖剤は主要対象品目に係る剤を抜粋して掲載
 ・対象病虫害及び作物等は代表的なものを記載しているとともに、更新されることがあるので、登録の内容等については農薬メーカーのホームページ等により確認すること

(エ) 防虫ネット又は障壁植物の利用

害虫侵入防止のためのネットの目合いの目安

| 目合い | 対象害虫の種類 |
|----------|------------------------------|
| 2~4mm | 鱗翅目害虫 (ヨトウ類, タバコガ類, アオムシ) |
| 1.0mm 以下 | 鱗翅目害虫 (コナガ, カブラハバチ) |
| 0.8mm 以下 | アブラムシ類, キスジノミハムシ |
| 0.6mm 以下 | ハモグリバエ類 |
| 0.5mm 以下 | アザミウマ類 |
| 0.4mm 以下 | コナジラミ類 |



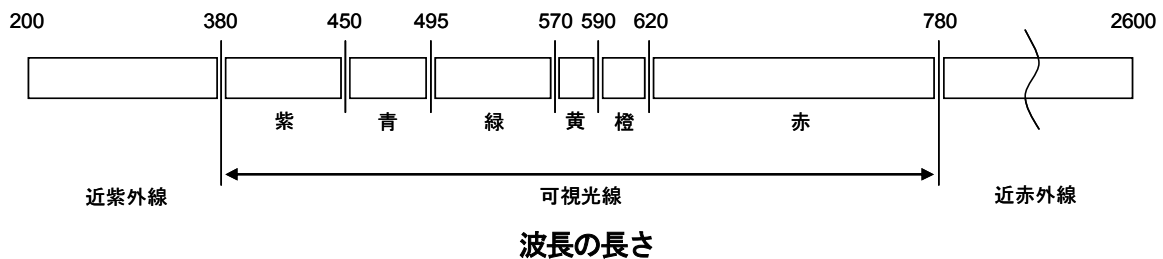
露地栽培での障壁植物の利用

(オ) 近紫外線除去フィルムの利用

人間の可視光域は、概ね 380nm~780nm であるが、昆虫の多くは、近紫外領域 (250~600nm) を視覚で感じる光の波長域として利用しているといわれている。

波長域が 380nm 以下の近紫外線域の波長を透過させない農業用フィルムを、「近紫外線除去フィルム」と呼ぶことが多いが、このフィルムで覆われた条件下は、昆虫にとって暗黒に近い状態になると考えられている。

また、植物病原菌の中でも、紫外線がない条件下では、胞子の形成が阻害されるものが知られている。



近紫外線除去フィルムの効果が見込める病害虫

| 分類 | 種類 |
|----|------------------------|
| 病害 | 灰色かび病, 菌核病 |
| 害虫 | アザミウマ類, アブラムシ類, コナジラミ類 |

(カ) 光反射資材の利用

a 光反射シートの利用

アザミウマ類やアブラムシ類は、背中から太陽光を受けることによって、飛翔時のバランスを保っていると考えられているため、光反射シートをほ場又は周囲に設置して太陽光を反射させ、ほ場周囲に散乱させることで、害虫の飛翔活動を阻害し、侵入防止効果が期待できる。



タイベックシートのマルチ利用

b 炭酸カルシウム微粉末剤の利用

炭酸カルシウム微粉末剤は、「かんきつ」の「チャノキイロアザミウマ」を対象に登録されている農薬で、商品名「ホワイトコート」として市販されている。

本剤を散布すると、炭酸カルシウムの微粉末がカンキツ樹に付着し、反射光の波長組成を大きく変化させ、チャノキイロアザミウマがカンキツ樹を判断できなくなることによって、被害が抑制されると考えられている。



「ホワイトコート」のかんきつ樹への散布

(キ) 色彩反応を利用した防除

a 黄色灯又は緑色灯の利用

ヤガ類等の夜行性の害虫に対して、夜間一定以上の明るさに遭遇させることで、「昼間の状態」であることを認識させ、飛翔、交尾及び産卵等の活動を阻害する。

黄色灯は、夜行性の鱗翅目害虫に対して有効であることが確認されてきたが、日長に対して敏感に反応する「いちご」等の一部の作物については、花芽分化への影響が確認されている。このため、上記のような作物に対しても生育に影響の小さい緑色灯の利用についても現在研究が進められている。

b 色彩反応と防虫ネットを一体化した資材の利用

昆虫が利用しにくい光の波長域である赤色を利用した防虫ネットを利用する。

(ク) 施設栽培における栽培終了後の蒸し込み

アザミウマ類、コナジラミ類及びハモグリバエ類に対しては、栽培終了後、施設内を密閉し、所定期間高温条件を確保することで、施設内に生息する個体を死滅させることが可能である。

蒸し込みにあたっては、施設内の温度を45℃以上で、5～7日間を目安に行う。

なお、短期間で蒸し込みを実施する場合には、残渣を残したまま土壌表面を透明フィルム等で被覆し、3日間以上確保する。

エ 生物的防除法

生物的防除法とは、病害虫に対して寄生又は病害虫を捕食する天敵生物、生物間の拮抗作用、生物が生産する生理活性物質等を利用した防除方法である。

(ア) 天敵の種類

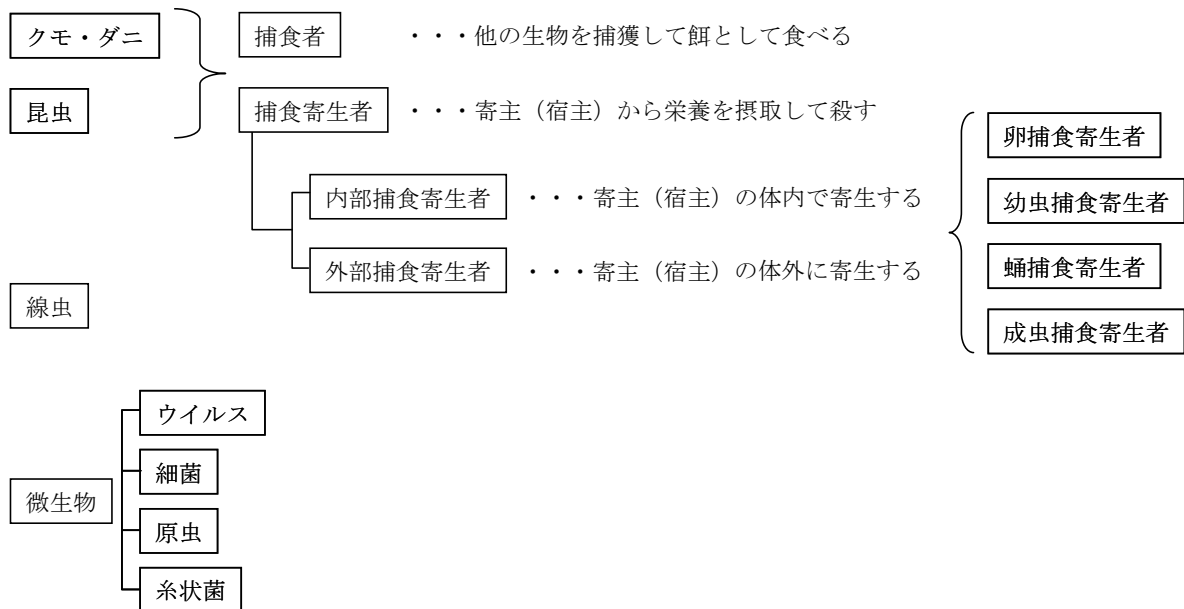
生物的防除法で利用する天敵は、節足動物のうちクモ類、ダニ類、昆虫、線虫及び微生物である。

捕食者は、クモ類及びダニ類の他、昆虫では、ハナカメムシ科、カメムシ科、サシガメ科、オサムシ科、テントウムシ科、ハネカクシ科、クサカゲロウ科、タマバエ科、アリ科が多い。

捕食寄生者は、寄生蜂及び寄生バエに属するものが多い。寄生蜂のグループでは、コマユバチ科、ヒメバチ科、ヒメコバチ科、コガネコバチ科、トビコバチ科、ツヤコバチ科、タマゴコバチ科が多く、寄生バエでは、ヤドリバエ科が多い。

捕食者及び捕食寄生者は、捕食又は寄生の範囲が狭い狭食性のものと、広範囲の餌を捕食又は広範囲の寄主に寄生する広食性（多食性）のものが存在する。

捕食寄生者の中で、1頭の寄主に対して1頭の捕食寄生者が寄生する場合には単寄生性、複数寄生できる場合には多寄生性と呼ぶ。



天敵の種類

(イ) 天敵の利用法

天敵の利用法は、以下の3種類に大別できる。

a 持続的利用

新しい天敵を導入して定着させ、持続的な防除効果を期待する方法であり、主に侵入害虫に対して用いられている。

我が国では、果樹のイセリアカイガラムシに対するベダリアテントウ、果樹のミカントゲコナジラミ及び茶のチャトゲコナジラミに対するシルベストリコバチ、果樹のヤノネカイガラムシに対するヤノネキイロコバチ及びヤノネツヤコバチの利用等が代表的である。

b 放飼増強法

人為的に天敵を放飼又は散布して、病害虫の密度低減を図る方法である。具体的には、生物農薬として販売されている天敵を放飼又は散布する方法、土着天敵を採集して放飼する等をいう。

(a) 大量放飼法

放飼した天敵の直接的な捕食又は捕食寄生による害虫の早急な密度低減を目的とした方法であり、狭食性の天敵で、なおかつ捕食者では捕食量、捕食寄生者では成虫の捕食量及び産卵数が多い種が適する。

(b) 接種的放飼法

害虫の有無に関係なく、少量の天敵を放飼して、ほ場で増殖させながら、長期間にわたり天敵の密度抑制効果をねらう方法であり、広食性で定着性に優れ、増殖率の高い天敵が適する。

c 天敵の保護利用

生態系の中で土着天敵が有している潜在的な病害虫の抑制能力を引き出すとともに、その機能を高める方法である。具体的には、特定の病害虫には効果を有しながら土着天敵には影響の小さい農薬（選択的農薬）を使用する、天敵の生息場所を提供する、天敵へ代替餌を与える等の方法により、土着天敵の保全又は機能強化を図ることである。

(ウ) 天敵の機能を高める方法

a バンカー法

一般的に、狭食性の天敵は、餌（寄主）となる害虫が存在しない条件下では、飢餓により、ほ場で定着又は増殖することが難しい。一方、害虫が発生してから天敵を放飼しても、天敵の密度抑制能力が害虫の増殖に間に合わないため、作物に被害が発生する危険性が高い。

バンカー法は、栽培作物を加害しない代用餌が着生した植物（バンカー植物）をほ場に導入し、この植物上で天敵を定着増殖させる。その後、害虫の発生に伴い、バンカー植物上で増殖した天敵が害虫を捕食（寄生）する方法である。

ワタブラムシやモモアカアブラムシ等の天敵であるコレマンアブラバチを、害虫の発生に先立ってほ場内で増殖及び維持させるため、対象作物の害虫にはならないムギクビレアブラムシをムギ類で増殖させる技術が確立されている。

b インセクタリープラント

天敵が捕食又は捕食寄生する節足動物類に限らず、天敵の餌となるような花粉や蜜源を供給することで、天敵を誘引、定着、増殖させる植物のことをいう。天敵温存植物とも呼ばれる。ほ場周辺に植栽する事例が多いため、餌の供給だけでなく、天敵の隠れ場所となるような空間も提供できる。

主に、花を持つハーブ類やソバ、ソルゴー等が利用されている。

(エ) 生物農薬としての天敵昆虫・ダニ類

現在、農薬として登録されている天敵昆虫・ダニ類は、カブリダニ科で6種、テントウムシ科で2種、シマアザミウマ科で1種、クダアザミウマ科で1種、ハナカメムシ科で1種、クサカゲロウ科で1種、コマユバチ科で2種、ツヤコバチ科で3種、ヒメコバチ科で2種である（次ページ一覧表を参照）。

※土着天敵を採取、増殖して利用する際は、農薬取締法の規制があるので注意を要する。

生物農薬一覧（殺虫剤）

| 資材の種類 | 商品名 | 対象害虫及びセンチュウ | 対象作物 |
|-------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| BT剤 | | | |
| アイザワイ系統 | エコマスターBT | チョウ目 (コナガ、ヨトウ類、オオタバコガ等) | 野菜類 等 |
| | クオークフロアブル | " | 野菜類、果樹類 等 |
| | サブリーナフロアブル | " | 野菜類、いも類 茶 等 |
| | ゼンタリー顆粒水和剤 | " | 野菜類、いも類、 果樹類、茶 等 |
| | チューレックス顆粒水和剤 | " | 野菜類 等 |
| | フーバックDF | " | 野菜類 等 |
| クルスターキ系統 | エスマルクDF | " | 野菜類、果樹類、 茶 等 |
| | トアローフロアブル（水和剤）CT | " | 野菜類、果樹類、 茶 等 |
| | チューリサイド水和剤 | チョウ目 (コナガ、ヨトウ類等) | アブラ科野菜 茶 等 |
| | チューンアップ顆粒水和剤 | チョウ目 (コブノメイガ、コナガ、ヨトウ類、 オオタバコガ等) | 水稻、野菜類、 いも類、果樹類 等 |
| | デルフィン顆粒水和剤 | チョウ目 (コナガ、ヨトウ類、オオタバコガ等) | 野菜類、さつまいも、 果樹類、茶 等 |
| | バイオマックスDF | チョウ目 (ハマキムシ類等) | 果樹類 等 |
| | ファイブスター顆粒水和剤 | チョウ目 (ハマキムシ類等) | 果樹類 等 |
| アイザワイ系統+クルスターキ系統 | ジャックポット顆粒水和剤 | チョウ目 (コナガ、ヨトウ類、オオタバコガ等) | 野菜類 等 |
| | バシレックス水和剤 | " | 野菜類 茶 等 |
| その他 | ブイハンター粒剤 | コガネムシ類幼虫 | さつまいも |
| 天敵昆虫・ダニ | | | |
| キイカブリダニ | キイトップ | アザミウマ類 | なす（施設） |
| ククメリスカブリダニ | ククメリス、メリトップ | アザミウマ類 等 | 野菜類 等（施設） |
| ミヤコカブリダニ | スパイカルEX、ミヤコトップ、 スパイカルプラス | ハダニ類 | 野菜類、いも類、 豆類（種実）、 果樹類 等 |
| チリカブリダニ | チリトップ、カブリダニPP、 スパイデックス、石原チリガブリ、 チリカ・ワーカー | " | 野菜類、いも類、 豆類（種実）、 果樹類 等（施設） |
| スワルスキーカブリダニ | スワルスキー | アザミウマ類、コナジラミ類、 ミカンハダニ 等 | 野菜類、いも類、 豆類（種実）、 果樹類 等（施設） ※但し、なすは露地も 登録有 |
| | スワルスキープラス | アザミウマ類、コナジラミ類、 ミカンハダニ 等 | 野菜類、いも類、 豆類（種実）、 果樹類 等（施設） |
| リモニカカブリダニ | リモニカ | アザミウマ類 | 野菜類（施設） |
| ナミテントウ | ナミトップ、ナミトップ20、テントップ | アブラムシ類 | 野菜類（施設） |
| ヒメカメノコテントウ | カメノコS | " | 野菜類（施設） |
| アリガタシマアザミウマ | アリガタ | アザミウマ類 | 野菜類（施設） |
| アカメガシワクダアザミウマ | アカメ | " | 野菜類（施設） |
| タイリクヒメハナカメムシ | オリスターA、タイリク、 トスパック、リクトップ | " | 野菜類（施設） |
| ヤマトクサカゲロウ | カゲタロウ | アブラムシ類 | 野菜類 等（施設） |
| コレマンアブラバチ | アフィバー、石原コレバハリ、 コレトップ、アブラバチAC | " | 野菜類（施設） |
| チャバラアブラコバチ | チャバラ | " | 野菜類（施設） |
| サバクツヤコバチ | エルカード、サバクトップ | コナジラミ類 | 野菜類（施設） |
| オンシツツヤコバチ | エンストリップ、ツヤトップ、 ツヤコバチEF30、石原ツヤバハリ、 ツヤトップ25 | " | 野菜類 等（施設） |
| イサエアヒメコバチ | ヒメトップ、ヒメコバチDI、 石原イサバハリ | ハモグリバエ類 | 野菜類（施設） |
| ハモグリコマユバチ | コマユバチDS | " | " |
| ハモグリミドリヒメコバチ | ミドリヒメ | ハモグリバエ類 | 野菜類（施設） |
| 昆虫寄生性線虫 | | | |
| スタイナーネマ カーボカプサエ | バイオセーフ | チョウ目、ゾウムシ類 等 | 野菜類、いも類、 豆類（種実）、 果樹類 等 |
| スタイナーネマ グラセライ | バイオトピア | チョウ目、コガネムシ類 等 | 野菜類、いも類、 豆類（種実） 等 |
| 昆虫寄生性糸状菌 | | | |
| パーティシリウム レカニ | マイコタール | コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ | 野菜類 （施設） 等 |
| ベキロマイセス フモソロセウス | ブリファード | コナジラミ類、ワタブラムシ | 野菜類 （施設） |
| ベキロマイセス テヌイベス | ゴッツA | コナジラミ類、アブラムシ類 | 野菜類 （施設） |
| ボーベリア バシアーナ | ボタニガードES | コナジラミ類、アザミウマ類 クワシロカイガラムシ 等 | 野菜類、マンゴー、 茶 等 |
| | ボタニガード水和剤 | コナジラミ類、アザミウマ類 | 野菜（施設） |
| ボーベリア ブロンニアティ | パイオリサ・カミキリ | カミキリムシ類 | 果樹類 等 |
| メタリジウム アニソプリエ | パイレーツ粒剤 | アザミウマ類 | ピーマン 等 （施設） |
| 昆虫寄生性ウイルス | | | |
| チャハマキ顆粒病ウイルス | ハマキ天敵 | チャハマキ、 チャノコカクモンハマキ | 茶 等 |
| リンゴコカクモンハマキ顆粒病ウイルス | ハマキ天敵 | ハマキ天敵 | いちご、キャベツ、 レタス、アスパラガス 等 |
| ハスモンヨトウ核多核体ウイルス (Fu-1株) | ハスモン天敵 | " | " |
| ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス (A9株・C3株) | ハスモンキラー | " | いちご、レタス 等 |
| 線虫寄生性細菌 | | | |
| バスターリア ペネトランス | バスターリア | ネコブセンチュウ | 野菜類 いも類 等 |

注) ・各種生物農薬は主要対象品目に係る剤を抜粋して掲載
 ・BT剤のうち、一般的にアイザワイ系統はヨトウムシ類、クルスターキ系統はコナガ、タバコガ類、アオムシに活性が高いため、作物、対象害虫及び時期等によって選定時の目安とする
 ・天敵昆虫・ダニは同一種でも製品（農薬メーカー）により適用病害虫と適用作物が異なることがある
 ・対象病害虫及び作物等は代表的なものを記載しているとともに、更新されることがあるので、登録の内容等については農薬メーカーのホームページ等により確認すること

主な天敵昆虫・ダニ類の特徴

| 対象害虫 | 天敵の種 | | |
|--------|---|---|--|
| アザミウマ類 | ククメリスカブリダニ | スワルスキーカブリダニ | タイリクヒメハナカメムシ |
| | 国内での生息・分布 | | |
| | 無 (原産地はカナダ) | 無 (原産地は中東地域) | 有 (南方地域由来) |
| | 温度適応性 | | |
| | 低温に比較的強い (発育限界温度は約8℃) | 高温に強い (15℃以下では活動が低下しやすい) | 高温に強い (15℃以下では活動が低下しやすい) |
| | 捕食量 | | |
| | 少 雌成虫はアザミウマ1齢幼虫を3~4頭(ノ日)捕食 | 少 雌成虫はアザミウマ1齢幼虫を5~6頭(ノ日)捕食 | 多 雌成虫はアザミウマ2齢幼虫を約40頭(ノ日)捕食 |
| | ほ場増殖率 | | |
| | 中 | 高 | 低 カブリダニ類に比べて発育日数が約3倍ほど長い |
| | 食性 | | |
| | アザミウマ類やケナガコナダニ、花粉等を食べる。 | アザミウマ類やコナジラミ類、ホコリダニ、ミカンハダニ、花粉等を食べる。 | アザミウマ類を好んで食べる。 |
| | 使用上の注意点 | | |
| | 有機物のふすまや米ぬか等を用いると、これに湧くケナガコナダニを餌として増殖するため、スワルスキーカブリダニが使いにくい作物で使用できる。 農薬の影響はスワルスキーカブリダニとほぼ同程度である。 | 果菜類や果樹類での使用に向く。ナミハダニやカンザワハダニ等に対しては捕食量が劣るので、別途対策が必要である。 なお、トマトでの使用には向かない。 | ほ場での定着率や増殖率はカブリダニ類に比べて劣るが、いったん増殖した後の効果は極めて高い。 使用できる化学合成農薬の種類が極めて限られる。他の病害虫に対しても十分な対策が必要である。 |
| ハダニ類 | ミヤコカブリダニ | チリカブリダニ | |
| | 国内での生息・分布 | | |
| | 有 | 無 (原産地は地中海沿岸、チリ) | |
| | 温度適応性 | | |
| | 高温に比較的強い (活動適温は25~32℃) | 低温に比較的強い (活動適温は20~25℃) | |
| | 捕食量 | | |
| | 少 雌成虫はハダニ雌成虫を1~2頭(ノ日)捕食 | 多 雌成虫はハダニ雌成虫を5~6頭(ノ日)捕食 | |
| | 食性 | | |
| | ハダニ類の他、アザミウマ類や花粉等を食べる。 | ナミハダニやカンザワハダニのグループを専門的に捕食する。 | |
| | 使用上の注意点 | | |
| | 食性の範囲が広いため、ほ場での定着性に優れ、予防的な使用に向く。 一方、ハダニが高密度条件下では効果が劣ることがあるので、作物によってはチリカブリダニとの併用が必要である。 | 食性の範囲が狭いため、ほ場での定着性に欠ける反面、上記のグループのハダニに対しては捕食量が多く効果が高い。 | |

鹿児島県 I P M 実践指標総論

| 対象害虫 | 天敵の種 | | | |
|--|---|--|--|--|
| アブラムシ類 | コレマンアブラバチ | チャバラアブラコバチ | | |
| | 国内での生息・分布 | | | |
| | 無 (原産地は地中海沿岸～中央アジア, インド) | 有 | | |
| | 温度適応性 | | | |
| | 低温に強い (雌成虫の産卵限界温度は約5℃) | 低温に弱い | | |
| | 産卵数 (寄生能力) | | | |
| | 多 (高い) 1日当たり約100卵を産む | 少 (劣る) | | |
| | 捕食・寄生性 | | | |
| | アブラムシ類の体内に産卵することで寄主を死亡させる。 モモアカアブラムシやワタアブラムシには効果が高いが、ヒゲナガアブラムシ類等の大型のアブラムシには使用できない。 | アブラムシ類の体内に産卵することで寄主を死亡させる他、成虫自身も寄主を捕食する (ホストフィーディング)。 モモアカアブラムシやワタアブラムシには効果が劣るが、ヒゲナガアブラムシ類等の大型のアブラムシに使用できる。 | | |
| | 使用上の注意点 | | | |
| アブラムシ類を発見してからの放飼では、十分な効果が得られないことがあるので、バシカープラント法により予め施設内に定着させた方がよい。 | ジャガイモヒゲナガアブラムシやチューリップヒゲナガアブラムシが発生した際に導入する。 | | | |
| ハモグリバエ類 | ハモグリコマユバチ | イサエアヒメコバチ | ハモグリミドリヒメコバチ | |
| | 国内での生息・分布 | | | |
| | 無 | 有 | 有 | |
| | 温度適応性 | | | |
| | 低温に強い | 高温に強い | 高温に比較的強い | |
| | 産卵数 (寄生能力) | | | |
| | 少 (他2種には劣る) | 多 (高い) | 多 (高い) | |
| | 捕食・寄生性 | | | |
| | ハモグリバエ類の幼虫の体内に産卵する (内部寄生蜂) ことで寄主を死亡させる。 | ハモグリバエ類の幼虫の近傍又体表に産卵し、ハチの幼虫は外部寄生しながら栄養を摂取する (外部寄生蜂)。 また、成虫自身も寄主を捕食する (ホストフィーディング)。 | ハモグリバエ類の幼虫の体内に産卵する (内部寄生蜂) ことで寄主を死亡させる。 また、成虫自身も寄主を捕食する (ホストフィーディング)。 | |
| | 使用上の注意点 | | | |
| 低温期でも有効に働くことが特徴であり、予防的な使用に向く。 | 高温期に有効に働くことが特徴であり、産卵数が多くホストフィーディングも行うので、即効的な効果が期待しやすい。 | 国内での優占種であり、自然条件下では様々な作物上で天敵として機能していると考えられる。 増殖速度は早い方ではないので、予防的な使用が必要である。 | | |

(オ) 生物農薬としての天敵微生物

農薬登録されている製剤については、別表を参照

a 微生物殺虫剤**(a) 昆虫病原細菌 *Bacillus thuringiensis***

この菌が芽胞を産生する過程で、菌体内に産生する毒素を有効成分とする殺虫剤が B T 剤である。

この毒素は、昆虫の中腸内に取り込まれた際に活性化し、殺虫効果を示す。

血清型の異なる 3 種類が製剤化されている。

(b) 昆虫病原ウイルス

核多核体病ウイルス (NPV) がハスモンヨトウに対して、顆粒病ウイルス (GV) がチャハマキ等のハマキ類に対して製剤化されている。

(c) 昆虫病原糸状菌

現在 6 種類の昆虫病原糸状菌が製剤化されている。昆虫病原細菌及び昆虫病原ウイルスが経口感染するのに対して、昆虫病原糸状菌は経皮感染する。

(d) 昆虫寄生性線虫

コガネムシ類の幼虫や鱗翅目の幼虫等に寄生する 2 種類の線虫が製剤化されている。これらの線虫は、標的昆虫の口、肛門及び気門等から体内に侵入した後、線虫自身の持つ共生細菌を寄主体内に放出する。この結果、寄主は、敗血症により死に至る。

b 微生物殺菌剤

拮抗微生物を用いた生物的防除のメカニズムは、主に、①拮抗微生物による病原微生物への寄生、②拮抗微生物が生産する抗菌性物質による作用、③拮抗微生物と病原微生物間での感染又は増殖部位、栄養物質等をめぐる競合、④弱毒系統と強毒系統間での干渉作用等によるものと考えられている。

(a) 細菌製剤

Bacillus subtilis 剤は、宿主上において、病原微生物と競合することで、防除効果を発揮する。

一方、*Erwinia carotovora* は、競合による作用の他、自身が生産する抗菌タンパクが植物病原微生物に対して殺菌効果を有する。

(b) 糸状菌製剤

現在 3 種類の糸状菌が製剤化されており、競合による作用の他、*Coniothyrium minitans*, *Talaromyces flavus* は、病原微生物に対して寄生することで効果を発揮する。

(c) ウイルス製剤

ウイルスの弱毒株を利用した製剤は、ズッキーニ黄斑モザイクウイルス及びトウガラシマイルドモットウイルスの各弱毒株がある。

生物農薬一覧（殺菌剤）

| 資材の種類 | 商品名 | 対象病害 | 対象作物 |
|---------------------------------|---------------------------------|--|------------------------|
| ウイルス弱毒株 | | | |
| ズッキーニ黄斑モザイクウイルス弱毒株 | “京都微研” キュービオ Z Y-02 | きゅうりのモザイク症及び萎凋症 (ズッキーニ黄斑モザイクウイルス由来) | きゅうり |
| トウガラシマイルドモットウイルス弱毒株 | グリーンベバー P M | トウガラシマイルドモットウイルスによるモザイク病 | ピーマン, とうがらし類 |
| 細菌 | | | |
| アグロバクテリウム ラジオバクター | バクテローズ | 根頭がんしゅ病 | 果樹類, きく 等 |
| 非病原性エルビニア カロトポーラ | バイオキーパー, エコメイト | 軟腐病, かいよう病 | 野菜類, かんきつ 等 |
| シュードモナス フルオレッセンス | ベジキーパー | 黒腐病, 腐敗病 等 | キャベツ, レタス 等 |
| シュードモナス ロデシア | マスタピース | 軟腐病, かいよう病 等 | 野菜類, いも類, かんきつ 等 |
| バチルス アミロリクエファシエンス | インプレッションクリア | うどんこ病, 灰色かび病 等 | 野菜類 等 |
| バチルス シンプレクス | モミホープ | 苗立枯細菌病, もみ枯細菌病 | 稲 |
| バチルス ズブチリス (MBI600) | ボトキラー | いもち病 うどんこ病, 灰色かび病 等 | 稲 野菜類, かんきつ 等 |
| バチルス ズブチリス (QST713) | インプレッション, セレナーデ | うどんこ病, 灰色かび病 等 | 野菜類, いも類, 豆類 (種実) 等 |
| バチルス ズブチリス (Y1336) | バイオワーク, パチスター | 〃 | 野菜類 等 |
| バチルス ズブチリス (MBI600) | ボトピカ | 〃 | 〃 |
| バチルス ズブチリス (D747) | エコショット | 〃 | 〃 |
| バチルス ズブチリス (HAI-0404) | アグロケア | 〃 | 野菜類, かんきつ 等 |
| パリオボラックス パラドクス | フィールドキーパー | 根こぶ病 | キャベツ, はくさい 等 |
| バチルス ズブチリス (D747) +メバニピリム混合剤 | クリーンフルピカ | うどんこ病 | きゅうり |
| バチルス ズブチリス (D747) +銅混合剤 | クリーンカップ ケミヘル | うどんこ病, 灰色かび病 等 | 野菜類 等 |
| バチルス ズブチリス (D747) +ポリオキシン混合剤 | クリーンサポート | 〃 | きゅうり, トマト, なす 等 |
| ラクトバチルス プランタラム | ラクトガード | 軟腐病 | 野菜類, いも類 |
| 糸状菌 | | | |
| コニオチリウム ミニタンス | ミニタンWG | 菌核病 等 | 野菜類 等 |
| タラロマイセス フラバス (SAY-Y-94-01) | タフブロック | いもち病, 苗立枯細菌病, 苗立枯病 (リゾープス, トリコデルマ, フザリウム), ばか苗病, もみ枯細菌病, 褐条病 | 稲 |
| | タフパール | うどんこ病, 灰色かび病 等 | 野菜類 等 |
| | タフブロック S P | いもち病, 苗立枯細菌病, 苗立枯病 (リゾープス, トリコデルマ, フザリウム), ばか苗病, もみ枯細菌病 | 稲 |
| トリコデルマ アトロビリデ | エコホープ, エコホープドライ, エコホープD J | いもち病, 苗立枯細菌病, ごま葉枯病, 苗立枯病 (リゾープス), ばか苗病, もみ枯細菌病, 褐条病 | 稲 等 |

注) ・各種生物農薬は主要対象品目に係る剤を抜粋して掲載
 ・対象病害虫及び作物等は代表的なものを記載しているとともに、更新されることがあるので、登録の内容等については農薬メーカーのホームページ等により確認すること

(カ) 土着天敵

地域に生息している生物で、農業害虫の天敵となるものをいう。

a アザミウマ類の主な土着天敵

| グループ | 種等 |
|--------------|--|
| 膜翅目 (ハチ目) | アザミウマヒメコバチ |
| 半翅目 (カメムシ目) | ヒメハナカメムシ類 (ナミヒメハナカメムシ, コヒメハナカメムシ, タイリクヒメハナカメムシ), クロヒョウタンカスミカメ, コミドリチビトピカスミカメ, タバコカスミカメ, オオメカメムシ, ヒメオオメカメムシ |
| 鞘翅目 (甲虫目) | ヒメテントウの一種 |
| 総翅目 (アザミウマ目) | アカメガシワクダアザミウマ |
| ダニ目 | カブリダニ類 (キイカブリダニ, コウズケカブリダニ, ヘヤカブリダニ, ニセラーゴカブリダニ等) |

b アブラムシ類の主な土着天敵

| グループ | 種等 |
|----------------|---|
| 双翅目 (ハエ目) | ショクガタマバエ, ヒラタアブ類 |
| 膜翅目 (ハチ目) | アブラバチ類 (ギフアブラバチ, ダイコンアブラバチ, ニホンアブラバチ) アブラコバチ類 (チャバラアブラコバチ, ワタアブラコバチ) |
| 半翅目 (カメムシ目) | ヒメハナカメムシ類 (ナミヒメハナカメムシ, コヒメハナカメムシ, タイリクヒメハナカメムシ), オオメカメムシ, ヒメオオメカメムシ |
| 脈翅目 (アミメカゲロウ目) | ヤマトクサカゲロウ, ヨツボシクサカゲロウ |
| 鞘翅目 (甲虫目) | コクロヒメテントウ, ナナホシテントウ, ナミテントウ, ヒメカメノコテントウ |

c コナジラミ類の主な土着天敵

| グループ | 種等 |
|-------------|---------------------------------------|
| 膜翅目 (ハチ目) | <i>Encarsia</i> 属の寄生蜂 (ヨコスジツヤコバチ等) |
| 半翅目 (カメムシ目) | クロヒョウタンカスミカメ, コミドリチビトピカスミカメ, タバコカスミカメ |
| 鞘翅目 (甲虫目) | ヒメカメノコテントウ |

d ハダニ類の主な土着天敵

| グループ | 種等 |
|--------------|--|
| 双翅目 (ハエ目) | ハダニタマバエ |
| 半翅目 (カメムシ目) | ヒメハナカメムシ類 (ナミヒメハナカメムシ, コヒメハナカメムシ, タイリクヒメハナカメムシ) |
| 鞘翅目 (甲虫目) | キアシクロヒメテントウ, ハダニカブリケシハネカクシ, ヒメハダニカブリケシハネカクシ |
| 総翅目 (アザミウマ目) | ハダニアザミウマ |
| ダニ目 | カブリダニ類 (ケナガカブリダニ, ニセラーゴカブリダニ, ミヤコカブリダニ, コウズケカブリダニ等), ナガヒシダニ類 (コブモチナガヒシダニ等) |

e ハモグリバエ類の主な土着天敵

| グループ | 種等 |
|----------|---|
| 膜翅目（ハチ目） | コマユバチ科，ツヤヤドリタマバチ科，コガネコバチ科，ヒメコバチ科（イサエアヒメコバチ，カンムリヒメコバチ，ハモグリミドリヒメコバチ等） |

f 鱗翅目害虫の主な土着天敵

| グループ | 種等 |
|------------|----------------------------|
| 双翅目（ハエ目） | ヤドリバエ類 |
| 膜翅目（ハチ目） | コマユバチ類，スズメバチ類，タマゴバチ類，ヒメバチ類 |
| 半翅目（カメムシ目） | クチブトカメムシ類 |
| 鞘翅目（甲虫目） | ゴミムシ類 |
| クモ目 | |

(キ) 交信かく乱法

害虫の性フェロモンの一部の成分を含有する交信かく乱剤をほ場に設置することによって、雄成虫が雌成虫の放出する性フェロモンを認識できず、結果として、雌雄間の交尾を阻害して、次世代の発生を抑制する方法である。

効果を高めるためには①広い面積での設置又は閉鎖された環境での設置、②害虫の発生前の設置がポイントとなる。

性フェロモン剤一覧

| 商品名 | 対象害虫 | 対象作物 |
|------------------------|--|---------------------------------|
| アリモドキコール アリモドキコール粒剤 | アリモドキゾウムシ | さつまいも |
| オキメラコン | オキナワカンシャクシコメツキ | オキナワカンシャクシコメツキが加害する 農作物等 |
| オキメラノコール | オキナワカンシャクシコメツキ | さとうきび |
| サキメラノコール | サキシマカンシャクシコメツキ | |
| カシナガコール | カシノナガキクイムシ | なら類（生立木、伐倒木） |
| コナガコン | コナガ、オオタバコガ | コナガ、オオタバコガが加害する 農作物等 |
| コナガコンープラス | コナガ、オオタバコガ、ヨトウガ | コナガ、オオタバコガ、ヨトウガが 加害する農作物等 |
| コンフェューザーG | シバツトガ、スジキリヨトウ | 芝 |
| コンフェューザーN | チャノコカクモンハマキ、チャハマキ リンゴコカクモンハマキ、リンゴモンハマキ モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイ※ | 果樹類 すもも（※のみ対象） |
| コンフェューザーR | ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、 リンゴモンハマキ、モモシンクイガ、 ナシヒメシンクイ | 果樹類 |
| コンフェューザーV | イラクサキンウワバ、タマナギンウワバ、オオタバコガ、 コナガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ | 野菜類、豆類（種実）、 いも類、 花き類・観葉植物 |
| コンフェューザーAA | ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、 リンゴモンハマキ、モモシンクイガ、 ナシヒメシンクイ、キンモンホソガ | 果樹類 |
| コンフェューザーMM | チャノコカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、 モモハモグリガ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ | 果樹類 |
| シンクイコン | モモシンクイガ | 果樹類 |
| スカシバコン | コスカシバ、ヒメコスカシバ | 果樹類、かき、 |
| スカシバコンL | コスカシバ、ヒメコスカシバ | さくら、食用さくら（葉） |
| ナシヒメコン | ナシヒメシンクイ | 果樹類 |
| | スモモヒメシンクイ | すもも |
| ニトルアー ＜アメシロ＞ | アメリカシロヒトリ | 樹木類 |
| ハマキコンーN | チャノコカクモンハマキ※、チャハマキ※、 ミダレカクモンハマキ、リンゴコカクモンハマキ、 リンゴモンハマキ | 茶（※のみ対象）、 果樹類 |
| フェロディンSL | ハスモンヨトウ | いも類、豆類等 |
| ヘタムシコン | カキノヘタムシガ | かき |
| ボクトウコンーH | ヒメボクトウ | 果樹類 |
| ヨトウコンーH | ハスモンヨトウ | ハスモンヨトウが加害する 農作物 |
| ヨトウコンーS | シロイチモジヨトウ | シロイチモジヨトウが加害する 農作物 |
| ヨトウコンーI | イネヨトウ | さとうきび、 飼料用さとうきび |
| ラブストップヒメシン | ナシヒメシンクイ | 果樹類 |

注) ・対象病害虫及び作物等は代表的なものを記載しているとともに、更新されることがあるので、登録の内容等については農薬メーカーのホームページ等により確認すること

オ 化学的防除法

化学合成農薬を用いた防除法。農薬の適正使用を遵守するとともに、周辺への飛散防止対策の実施、薬剤抵抗性の発達を防ぐための必要最小限の使用に努める必要がある。

I P M は、化学合成農薬を全く使用しないものではないので、各種農薬の効果及び特性、使用時の病害虫の発生程度及び気象等を把握した上で、効果的に活用する。

(ア) 農薬の分類（用途別；生物農薬を除く）

a 殺虫剤

狭義には農作物に被害を与える有害昆虫（害虫）を防除する農薬を指すが、広義には殺ダニ剤（農作物に被害を与えるダニ類を防除する農薬）、殺線虫剤（農作物に被害を与える線虫類を防除する農薬）くん蒸剤（十分に拡散させるために揮発性を高くした農薬）も含まれる。

殺虫剤は、昆虫体内への侵入経路により、摂食剤、接触剤、くん蒸剤に大別される。

(a) 摂食剤

殺虫剤を散布した農作物を昆虫が摂食して、薬剤が昆虫体内に侵入して殺虫効果を示す。また、薬剤成分が植物体内に取り込まれることにより、害虫の摂食を通じて殺虫効果を示すものもある。

(b) 接触剤

昆虫表皮から薬剤が昆虫体内に侵入して殺虫効果を示す。

(c) くん蒸剤

昆虫の気門等の呼吸器官から昆虫体内に侵入して殺虫効果を示す。

b 殺菌剤

農作物を植物病原微生物の有害な作用から守る農薬で、ウイルス病防除剤も含む。植物病原微生物は一般に糸状菌（カビ）と細菌とに分類され、殺菌剤は、予防殺菌剤と治療殺菌剤に大別される。

(a) 予防殺菌剤

植物病原微生物を滅殺するのではなく作物体内への菌の侵入を防ぐことにより発病を抑え、比較的広範囲の種類に対して効果を示すものが多い。

(b) 治療剤

一般的に、特定の菌に対して特異的に効果を発現するものが多い。

c 殺虫殺菌剤

農薬の散布労力を軽減するために、殺虫成分と殺菌成分を混合して、害虫と病原微生物を同時に防除する農薬。

d 除草剤

農作物や樹木に有害な作用を与える雑草を防除する農薬。処理方法によって土壌処理除草剤と茎葉処理除草剤に分けられる。

e 植物成長調整剤

植物の発芽、発根、成長、開花、着果等の生理機能を促進又は抑制することにより、農業生産性の向上あるいは農作物の品質を向上させる働きをもつ農薬。植物成長調整剤のなかには、微量で特異的な生理活性を発揮する植物ホルモンやその類縁化合物が多い。現在知られている植物ホルモンは、オーキシン、アブシジン酸、サイトカイニン、エチレン、ジベレリン、ブラシノステロイドの6種類であるが、ブラシノステロイド以外は、それらの関連化合物も含め植物成長調整剤として商業的に利用されている。

f 殺そ（鼠）剤

農作物を食害するネズミ類を防除する農薬。ネズミ類には、ネズミ以外に、野ウサギやモグラも含まれる。

g 展着剤

農薬を水で希釈して散布する際に、有効成分が病害虫又は作物へ付着しやすいように添加する界面活性剤を主成分とする補助剤。

h 忌避剤

農作物に被害を与える哺乳動物、鳥類、害虫を農作物に近づけないようにする農薬。本剤そのものには対象動物等を殺す作用はない。

i 誘引剤

農作物に被害を与える害虫が特定の化学物質の臭いで誘引される性質を利用して、害虫の発生予察や防除に使用される農薬。薬剤そのものに殺虫活性はない。

(イ) 農薬の化学組成又は作用特性による分類

a 殺虫剤

(a) 有機リン系

中枢神経系の機能を阻害する。主に接触毒又は浸透移行により作用する。有機リン系殺虫剤は、アルカリ性で分解するものが多く、アルカリ性の農薬（石灰硫黄合剤、ボルドー液等）とは混用できないものが多い。

概して環境中での分解消失が早く、また、温度により分解速度が異なるものが多い。

(b) カーバメート系

中枢神経系の機能を阻害する。食毒、接触毒及び浸透移行により作用する。有機リン系殺虫剤と比べると、殺虫範囲が狭い。一般的に、熱、光及び酸には安定であるが、アルカリ性下では加水分解して殺虫効果を失うものが多く、アルカリ性の農薬との混用は好ましくない。

(c) ピレスロイド系

ピレスロイドは、シロバナムシヨケギクの花に含まれる主殺虫成分ピレトリンとその類縁化合物の総称であり、ピレスロイド系殺虫剤は、この天然ピレスロイドから誘導され、殺虫範囲の広い殺虫剤として利用されるようになった。

神経系に作用し、反復興奮による異常興奮や興奮伝導の抑制を起し、昆虫はけいれん、ノックダウンの後に麻痺して死に至る。食毒又は接触毒により作用するものが多く、一部には忌避作用を有するものもあり、即効性である。光安定性及び耐雨性に優れる。

(d) ネライストキシン系

中枢神経系の機能を阻害する。海産動物であるイソメが持つ殺虫成分ネライストキシンを利用したもの。食毒又は接触毒により作用する。遅効性である。

(e) ネオニコチノイド系

中枢神経系の機能を阻害する。食毒、接触毒及び浸透移行により作用する。直接的な殺虫作用だけでなく、摂食、吸汁行動、交尾、産卵、飛翔、歩行等を抑制する作用も有する。速効性で残効性も長い。

(f) ジアミド系

筋肉細胞に作用し、体の収縮症状を引き起こして殺虫効果を示す。食毒により作用する。鱗翅目害虫に高い効果を示す。多くの天敵昆虫・ダニ類に対して影響が小さい。

(g) フェニルピラゾール系

中枢神経系の機能を阻害する。食毒及び接触毒により作用する。

(h) マクロライド系

中枢神経系の機能を阻害する。特定の土壌放線菌が産生するマクロライド系化合物を利用した殺虫剤。主に食毒により作用する。環境中において分解が早いのが特徴。

(i) 昆虫成長制御剤 (Insect Growth Regulator ; IGR)

一般的に IGR 剤と呼ばれることが多い。昆虫のキチン合成阻害（脱皮阻害）又は幼若ホルモン様物質を利用することで、脱皮又は変態をかく乱することにより作用する。主に食毒又は摂食毒により作用する。

(j) その他

上記の分類群の、いずれにも属さない殺虫剤は一般的に「その他」として扱われ、近年では、この分類に属する特性の殺虫剤が多くなってきている。

b 殺菌剤

(a) 銅

散布された銅化合物は、植物の表面を覆い、外部からの病原微生物の侵入を防止する。不溶性銅が、水分、空気、植物体の分泌物及び病原微生物の有機酸等によって銅イオンとして溶出し、病原微生物の表面に吸着され、細胞壁を形成するキチン質やタンパク質中の H^+ 、 Mg^{2+} 、 K^+ 等と置換する。無機銅と有機銅があるが、どちらも予防的殺菌剤である。

(b) 無機

無機硫黄剤（石灰硫黄合剤等）、炭酸水素塩剤（炭酸水素ナトリウム、炭酸水素カリウム等）、金属銀が含まれ、予防的殺菌剤である。

(c) 有機硫黄

ジチオカーバメート系殺菌剤とも呼ばれる。呼吸系（糖代謝）におけるSH酵素を阻害することで菌の孢子発芽又は孢子形成を抑制する、予防的殺菌剤である。

(d) 有機リン系

細胞膜の構成成分であるリン脂質の合成を阻害することで、菌の孢子発芽、孢子形成又は菌糸の伸長を抑制する。薬剤によって、予防効果を有するもの又は治療効果まで有するものがある。

(e) メラニン生合成阻害

糸状菌の細胞壁に含まれるメラニンの合成を阻害することで、細胞壁の物理的強度を低下させることによる侵入防止、あるいは、菌の孢子形成を抑制する、主に予防的殺菌剤である。

(f) ベンゾイミダゾール系

ベノミル剤及びチオファネートメチル剤を合わせてベンゾイミダゾール系殺菌剤と称してきたが、現在、チオファネートメチル剤と効果の作用点が同じであると考えられるジエトフェンカルブ剤もこのグループに含めている。菌の有糸核分裂の阻害することで細胞分裂を阻害する。予防効果及び治療効果を有する。

(g) ジカルボキシイミド系

ベンゾイミダゾール系殺菌剤と同様に菌の細胞分裂を阻害する。主に、予防的殺菌剤である。

(h) 酸アミド系

呼吸系（電子伝達系）又は核酸合成の阻害によって、菌の孢子形成や菌糸の伸長等を抑制する。薬剤によって、予防効果を有するもの又は治療効果まで有するものがある。

(i) ステロール生合成阻害剤

細胞膜の構成成分であるエルゴステロール又は類縁のステロールの合成を阻害することから、エルゴステロール阻害剤（E B I 剤）又はステロール阻害剤（S B I 剤）と呼ばれる。幅広い抗菌範囲と治療効果を有する。

(j) ストロビルリン系

きのこの一種が生産する抗かび性抗生物質であるアゾキシストロビンを基に合成された殺菌剤で、ミトコンドリアの電子伝達系を阻害し、菌の孢子形成や菌糸の伸長等を抑制する。予防効果及び治療効果を有する。

(k) その他

殺虫剤と同様に、上記の分類群のいずれにも属さない殺菌剤は一般的に「その他」として扱われる。

c 除草剤

(a) 光合成や呼吸によるエネルギー生成を阻害

・・・・・・例：シマジン、バサグランなど

(b) アミノ酸、タンパク質、あるいは脂質などの生合成を阻害

・・・・・・例：ラウンドアップ、バスタ、ナブなど

(c) 細胞分裂、細胞伸長を阻害

・・・・・・例：トレファノサイド、ゴーゴーサン、クレマートなど

(d) 植物ホルモンの作用を混乱し、植物の生長を阻害あるいは促進することで生育阻害

・・・・・・例：2，4-D

(e) 過剰な活性酵素が生じるような条件を作りだし、その酸化力で植物細胞を破壊

・・・・・・例：プリグロックスなど

d 展着剤

展着剤は、作物や病害虫の付着、拡張、固着を促す目的で農薬散布液に加える補助剤である。

機能面から、ぬれ性（展着効果）を改善するもの、浸透性を高めるなどの機能を有するもの（機能性展着剤）、作物表面への固着性を高めるもの、に大別できる。

防除の対象とする天候、病害虫の特性、散布する農薬及び展着剤の特性等を十分に考慮した上で、展着剤の種類を選定する必要がある。

(a) 非イオン系

表面張力を下げる効果が高く、ぬれにくい虫体や作物に対して付着をよくし、防除効果を高める。しかし、ぬれやすい作物では、かえって付着量が減る場合がある。

(b) 陰イオン系

表面張力を下げる働きが弱い、水和剤やフロアブル剤の薬液の薬剤粒子の分散（懸濁）性を改善する機能がある。

(c) 機能性展着剤

農薬成分の作物体への浸透力を高めるように改善されたもの。浸透性や固着性を高めるために、陽イオン系界面活性剤を用いたものもある。

(d) 固着性展着剤

主成分はパラフィンであり、作物上における散布液の固着性を高め、薬剤の付着期間を延長させる効果をねらったもの。

展着剤の特性

| 分類 | 系統 | 展着剤名 | 湿展性 | 浸透性 | 分散性 | 可溶化力 | 固着性 | 懸垂性 | 備考 |
|-------|----------------------------|---|--------|-----|--------|------|--------|-----|--------------------------------|
| 非イオン系 | | | | | | | | | |
| A | ポリキシエチレンアルキル エーテル系 | アドミックス アルソープ クサリノー クミン グラミン シンダイン ネオエステル ベタリンA | ◎ | ○ | ○ △ | ○ | ○ | ○ | 界面活性剤として古くから登録されている |
| B | ポリキシエチレンアルキル エーテル系 | サーファクタント WK サプライ サントケン 40, 80 バースファテン プラテン 80 レナテン | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | |
| C | ポリキシエチレングリコール アルキルエーテル系 | マイリノー | ○ | △ | △ | ○ | ○ △ | △ | |
| D | ポリキシエチレン 脂肪酸エステル系 | グラミン S ニース ネオエステル ハイテンパワー ラビデシ 3S | ○ ◎ | ○ | △ | ○ | | △ | 乳化、可溶化が主。洗浄作用が強いため固着性（耐雨性）は劣る。 |

次ページへ

展着剤の特性（前ページ続き）

| | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------------|-------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| E | ポリオキシエチレン 樹脂酸エステル系 | ネオエステル K.K.ステッカー | | | △ | △ | ○ | | |
| F | ポリオキシエチレンヘキサン 脂肪酸エステル系 | アプローチ BI | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 他の系統に比べ、高濃度で使用する機能性展着剤で、薬害は少ない。 |
| F1 | ポリビタン脂肪酸 エステル系 | スカッシュ ブラホー | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | ○ | 食品添加物を主成分とした湿展性にも優れた機能性展着剤 |
| G | シリコン系 | まくぴか | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | 薬剤によるよごれ軽減、少量散布に適す。 |
| 陰イオン（アニオン）界面活性剤 | | | | | | | | | |
| H | ナフチルメタンスルホン酸 塩系 | クミテン グーラミン | | | ◎ | | ○ | ◎ | 主として分散性として用いられる。 |
| I | リガニンスルホン酸 塩系 | シンダイン | | | ◎ | | ○ | ○ | 分散性に優れる。 |
| J | アルキルスルホン酸 塩系 | ダイコート ワイドコート | ○ | ◎ | ○ | | | △ | 浸透力は強いが、アルカリに弱く、泡立ちが大きい。 |
| 陽イオン（カチオン）界面活性剤 | | | | | | | | | |
| K | テトラアルキルアンモニウム 塩系 | ニーズ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | △ | 病原菌や害虫の細胞膜に吸着する作用がある。D 組との組み合わせで極めて良好な湿展性を示す機能性展着剤。 |
| その他 | | | | | | | | | |
| L | パラフィン (固着性) | アビオン-E ステックル ヘタンV | | | | | ◎ | | |
| M | D-ソルビット | タマジエット | | | | | | | フオグマシンの農薬希釈剤で薬剤の拡散性と作物への付着性を良くするための剤。 |

(ウ) 農薬の剤型別の分類

a 粉剤

農薬原体を粘土などの鉱物質微粉で希釈し、必要に応じて分解防止剤などを添加し、 $0.45\mu\text{m}$ （微粉）以下の粒径となるように製造化したもの。そのまま使用する製剤を総称して「粉剤」という。慣用的名称として、DL粉剤、FD剤がある。

(a) DL粉剤

ドリフトを軽減するために開発された粉剤で、平均粒径が $20\sim 30\mu\text{m}$ で、凝集剤を添付するなどして $10\mu\text{m}$ 以下の微粉を20%以下となっているもの。

(b) FD剤

飛散を高めてハウスでの効果と散布効率を狙った、平均粒径が $2\mu\text{m}$ 前後に細かくした粉剤。散布後の作業時に粉の舞上がりが多い。

b 粒剤

$300\mu\text{m}\sim 1,700\mu\text{m}$ （細粒）の粒径となるように製造化し、そのまま使用するもの。

c 粉粒剤

微粉、粗粉（ $45\mu\text{m}\sim 106\mu\text{m}$ ）、微粒（ $106\mu\text{m}\sim 300\mu\text{m}$ ）及び細粒が混じり合った製剤を呼ぶ。慣用的名称として、微粒剤、微粒剤F、細粒剤Fなどがある。

(a) 微粒剤

ドリフトを軽減するために開発された粉粒剤で、ドリフトが少なく安全性が高い。

(b) 微粒剤F

粉剤のように作物体への付着がよく効果が高いことと、微粒剤のようにドリフトが少なく安全性が高いことの両方の利点をもった製剤。

(c) 細粒剤F

散布むらが少なく、水利の便が悪い地帯や小規模耕地などで水に希釈しないで利用することを目的に開発された製剤。

d 粉末

粉状の製剤であって、他の剤型に該当しないもの。

e 水和剤

水和性を有し、水に懸濁させて用いる製剤。慣用的名称として、顆粒状の製剤では「顆粒水和剤」、「ドライフロアブル」、「WG」、「WDG」とも呼ばれている。

最初から水に懸濁している「フロアブル剤」、「ゾル剤」や固体原体と液体原体が水に分散している「サスポエマルション剤（SE）」も分類上は水和剤に含まれる。

(a) 顆粒水和剤（ドライフロアブル剤、WG、WDG）

水中において短時間で崩壊、分散する顆粒状の水和剤。分散後の性状はフロアブル剤と同様であるが、中には作物に汚れが残る場合もある。基本的な製剤成分は、農薬原体、増量剤、結合剤、湿潤剤及び分散剤等の界面活性剤。

(b) フロアブル剤（ゾル剤）

水及び有機溶剤に溶けにくい固体原体を、湿式微粉碎して水に懸濁分散させたスラリー状の製剤。農薬原体、界面活性剤（湿潤剤、分散剤）、増粘剤、凍結防止剤、防腐剤及び消泡剤よりなる。

(c) サスポエマルション剤（SE）

懸濁剤（suspension）と乳濁剤（emulsion）が混合された製剤。フロアブル剤（水に不溶な固体原体微粒子）とエマルション製剤（水に不溶な液状原体微粒子）の2つの異なる製剤が同時に存在しているようなもの。

f 水溶剤

水溶性の農薬原体を含む粉末～粒状の固形製剤で、水に溶解して用いるものを「水溶剤」という。農薬原体、界面活性剤、増量剤及び安定化剤等からなる。

g 乳剤

水に溶けにくい農薬原体を有機溶媒に溶かし、乳化剤（界面活性剤）を加えた液体の剤。

(a) 濃厚エマルション剤

乳懸濁剤又はEWとも呼ばれる。水に不溶性の液体原体あるいは原体溶液を乳化剤の作用により水中に乳化分散させた水中油滴型の剤。水及び農薬原体以外の製剤成分として、溶剤、乳化剤、増粘剤、凍結防止剤、防腐剤等が使用される。

h 液剤

水溶性液体の製剤であって、そのまま、又は水に希釈、溶解して用いるものをいう。農薬原体、界面活性剤、凍結防止剤、水溶性有機溶媒などの溶解共力剤のなどを加える。

マイクロエマルション剤（ME）は液剤に分類される。

(a) マイクロエマルション製剤

相溶性のない水と油を混合した液。乳白色のエマルション剤と異なり、橙明～半橙明の安定な水中油型の製剤。外見上は水溶液状である。

i 油剤

農薬原体を水不溶性の有機溶媒に溶解したもの。

j エアゾル

蓄圧充てん物であり、内容物が容器からバルブを通じて霧状に噴出する農薬を総称している。

k マイクロカプセル剤

農薬原体を、高分子でつくった球状の膜の中（マイクロカプセル）に閉じ込めたもの。通常の製品は、増粘剤、凍結防止剤及び防腐剤等を使用して水に懸濁させた状態にある。マイクロカプセルの直径は、数 μm から数百 μm である。

l ペースト剤

糊状の製剤であって、他の剤型に該当しないものをいう。

m くん煙剤

加熱によって有効成分を煙霧化する剤で、発熱剤や助燃剤を製剤中に含んだ自燃式と、外部の熱源を利用する外部式がある。

n くん蒸剤

密閉又はそれに相当する条件下で、常温で有効成分が気化する剤。

o 塗布剤

農作物などの一部に塗布し、又はこれに類似する方法で使用する製剤を総称していう。

p ジャンボ剤

水田用除草剤の投げ込み剤のことをいう。水中発泡性錠剤と水溶性パックの2種類が存在する。

q サーフ剤

乳剤あるいは油剤で水田の数か所に滴下するだけで自然に水田全面に拡散する剤。農薬原体、界面活性剤及び溶剤からなる。

(エ) 選択的農薬

「選択的農薬」の明確な定義はないが、一般的に、「特定の病害虫に対して効果を有し、天敵に対しては影響が小さい、選択性の高い農薬」のことを呼ぶ。

施設作物において天敵を利用した場合には、導入した天敵の種類に対して影響の小さいものを選ぶ必要がある。一方、露地作物においても、地域に生息する土着天敵に対して影響が小さいものを防除体系の中に取り入れるよう配慮する必要がある。

主要な天敵に対する各種農薬の影響については、後の付表を参照。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 うり科台木品種の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 台木品種 | 品種名 | 穂木適用 | | | つる割病 | | | 萎凋病 | 急性萎凋病 | 青枯萎凋病 | 青枯症状 | えそ斑点病 | 炭疽病 | 立枯病 | うどんこ病 | フザリウム | センチュウ | 出典 (商社名) | |
|----------|-----------|------|------|-----|------|------|-----|-----|-------|-------|------|-------|-----|-----|-------|-------|-------|-------------------------|---------------|
| | | すいか | きゅうり | メロン | すいか | きゅうり | メロン | | | | | | | | | | | | |
| かぼちゃ | アクア新土佐 | ○ | ○ | ○ | 強 | 強 | 強 | | | | | | | | | | | ナント種苗(株) (株)久留米原種育成会 | |
| | 胡坐 | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 少 | (株)久留米原種育成会 |
| | 雲竜1号改良R型 | | ○ | | | | | | 強 | | | | | | | | | | (株)久留米原種育成会 |
| | エイブル | | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | おやこ黒だね | | ○ | | | | | | 強 | | | | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| | 改良新土佐一号 | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| | かがやき | ○ | | | | 耐 | | | 強 | | | | | | | | | | (株)萩原農場 |
| | 神田小菊 | | | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | (株)神田育種農場 |
| | 輝太郎 | | ○ | | | | | | 強 | | | | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| | 強力南瓜 | ○ | | | | 抵 | | | 抵 | 抵 | | | | | | | | | (株)神田育種農場 |
| | 強和 | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | | ナント種苗(株) |
| | 清光 | ○ | | | | 強 | | | 強 | | | | | | | | | | (株)萩原農場 |
| | きらめき | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | キング輝虎 | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | ナント種苗(株) |
| | グリップ | | ○ | ○ | | | 耐 | 耐 | | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | 黒ダネ | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| | 黒タネ南瓜 | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | 黒ダネ南瓜 | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | ナント種苗(株) |
| | 剛力 | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| | さきもり南瓜 | ○ | | | | | 抵 | | | | | 抵 | | | | | | | (株)神田育種農場 |
| | シェルパ | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | ジャスト | | ○ | ○ | ○ | | 耐 | 耐 | | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | 純正新土佐 | | ○ | ○ | ○ | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | | | | (株)神田育種農場 |
| | 親交 | | ○ | | | | | | | 強 | | | | | | | | | ナント種苗(株) |
| | 新土佐 | | ○ | ○ | | | 抵 | 抵 | | 耐 | | | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| | 新土佐一号 | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| | スターク | | ○ | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | 耐 | | | タキイ種苗(株) |
| | つやかEX | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| | スーパーつやか | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| | 鉄かぶと | | ○ | ○ | ○ | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | ぞっこん | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | 耐 | ときわ研究場 |
| | 闘魂(白ダネ) | | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | ときわ研究場 |
| | ときわGT-II | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | 耐 | ときわ研究場 |
| ときわパワーZ | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | 耐 | ときわ研究場 | |
| ときわパワーZ2 | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | 耐 | ときわ研究場 | |
| ひかりパワーG | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | | ときわ研究場 | |
| ビッグパワー | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | | ときわ研究場 | |
| No.8南瓜 | | ○ | | | | 抵 | | | 抵 | | 抵 | | | | | | | (株)神田育種農場 | |
| バター | | ○ | | | | | | | 強 | | | | | | | | | カネコ種苗(株) | |
| はやぶさ南瓜 | | ○ | | | | | | | | | 抵 | | | | | | | (株)神田育種農場 | |
| はやぶさ2号 | | ○ | | | | 抵 | | | 抵 | | 抵 | | | | | | | (株)神田育種農場 | |
| フォルテ | | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | 耐 | | | タキイ種苗(株) | |
| すいか | 強剛 | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | 抵 | (株)サカタのタネ | |
| | 健康 | ○ | | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株)神田育種農場 | |
| | 根ダクター | ○ | | | | 強 | | | 強 | | | | | | | | | (株)大和農園 | |
| | 友宝2号 | ○ | | | | 耐 | | | | | | | | | | | | (株)萩原農場 | |
| とうがん | アトム冬瓜 | ○ | | | | 抵 | | | | | 抵 | | | | | | | 強 | (株)神田育種農場 |
| | ベスト冬瓜2号 | ○ | | ○ | | 強 | | | 強 | 強 | | | | | | | | 強 | (株)萩原農場 |
| | ライオン | ○ | | ○ | | | | | | 強 | | | | | | | | | ナント種苗(株) |
| メロン | EM1016 | | | ○ | | | | | | | | 抵 | | | | | | | (公財)園芸植物育種研究所 |
| | FR-2 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 横浜植木(株) |
| | UA-902 | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 横浜植木(株) |
| | UA-909 | | | ○ | | | | | | | | 抵 | | | 耐 | | | | 横浜植木(株) |
| | えそシャット | | | ○ | | | | | | | | 耐 | | | | | | | 朝日工業(株) |
| | ガイア | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | (株)萩原農場 |
| | ダブルガード | | | ○ | | | | | | | | 耐 | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| | ダブルガードパワー | | | ○ | | | | | | | | 耐 | | | | | 比較的強 | 耐 | タキイ種苗(株) |
| | ダブルガードEX | | | ○ | | | | | | | | 耐 | | | | | 比較的強 | 耐 | タキイ種苗(株) |
| | メロンパートナー | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | (株)神田育種農場 |
| | ワンツシャット | | | ○ | | | | | | | | 耐 | | | | | | | 朝日工業(株) |
| | ワンツダブル | | | ○ | | | | | | | | 耐 | | | | | | | 朝日工業(株) |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 うり科台木品種の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 台木品種 | 品種名 | 穂木適用 | | | つる割病 | | 萎凋病 | 急性萎凋病 | 青枯萎凋病 | 青枯症状 | えそ斑点病 | 炭疽病 | 立枯病 | うどんこ病 | フザリウム | センチュウ | 出典 (商社名) |
|----------|-----------|------|------|-----|------|------|-----|-------|-------|------|-------|-----|-----|-------|-------|-----------|--------------|
| | | すいか | きゅうり | メロン | すいか | きゅうり | | | | | | | | | | | |
| ゆうがお | FRダッカ | ○ | | | | | | | 抵 | | | | | | 抵 | | (株) 久留米原種育成会 |
| | FR-ダントツ | ○ | | | 耐 | | | 耐 | | | | | | | 耐 | | ナント種苗 (株) |
| | FR-ヘコタレン | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | ナント種苗 (株) |
| | FR-ベ-スマイカ | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | ナント種苗 (株) |
| | かちどき2号 | ○ | | | 耐 | | | 強 | | | | | | | | | (株) 萩原農場 |
| | 強勢かんびょう | ○ | | | | | | | | 強 | | 強 | | | | | (株) 神田育種農場 |
| | ごうけつ | ○ | | | 強 | | | | | | | | | | | | みかど協和 (株) |
| | 耐病FR10 | ○ | | | 強 | | | 強 | | | | | | | | | ナント種苗 (株) |
| | 台丈夫 | ○ | | | 強 | | | | | | | | | | | | みかど協和 (株) |
| | 大地かんびょう | ○ | | | | | | 強 | | | | | | | | | (株) 神田育種農場 |
| | ダイハード | ○ | | | 耐 | | | 耐 | | | | | | | | | 丸種 (株) |
| | 台力 | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | 丸種 (株) |
| | タフガイ | ○ | | | 強 | | | 強 | | | | | | 強 | | | (株) 萩原農場 |
| | つわもの | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | (株) 萩原農場 |
| | 鉄壁 | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | (株) 萩原農場 |
| | トップガン | ○ | | | 強 | | | 強 | | | | | | | 耐 | | ナント種苗 (株) |
| | ドンK | ○ | | | | | | | | 抵 | | | | | 抵 | | (株) 久留米原種育成会 |
| | フレンド | ○ | | | 耐 | | | | | | | | | | | | タキイ種苗 (株) |
| | ボンドK | ○ | | | 強 | | | 強 | | | | | | | | | みかど協和 (株) |
| | れんしかんびょう | ○ | | | 抵 | | | | | | | | | | | | (株) 神田育種農場 |
| れんしかんびょう | ○ | | | 抵 | | | 強 | | | | | | | | | カネコ種苗 (株) | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載
原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。
穂木摘要欄の○は親和性があることを示し, メロンつる割病の該当欄中のアルファベット及び数値はレース名を示す。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 レタスの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | べと病 | 軟腐病 | 腐敗病 | 根腐病 | 斑点細菌病 | すそ枯病 | 霜害 | ビッグベイン | 出典 (商社名) |
|-------------|-----|-----|-----|-----------|-------|------|----|--------|-------------|
| 結球レタス | | | | | | | | | 朝日工業(株) |
| ディーン | | | | R2耐 | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | |
| カットマン | | | | R2耐 | | | | | |
| AL-308 | | | | R1～3耐 | | | | | |
| ユーカット | | | | 強 | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| ゲット | | | | | | | | | |
| サンバレー | | | | R1耐 | 強 | | | | |
| ジュディ | | | | R1耐 | | | | | |
| テンション | | | | | | | | | |
| トリガー | | | | | | | | | |
| バージオン | | | | R1強耐、R2中耐 | | | | | |
| ファイングリーン | | | 耐 | | 強 | | | | |
| V(ヴィ)レタス | | | 強 | R1耐 | | | | | |
| ミッション | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | |
| アーリースパン | | | | | | | | | |
| Jレタス | | | | | | | | | |
| グリーンズパン | | | | | | | | | |
| ブラックローズ | | | | | | | | | |
| レッドコーラル | | | | | | | | | |
| レッドスパン | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| エムラップ231 | | | | | | | | | |
| オーディブル | | | | | | | | 耐 | |
| サリナス88 | | | | | | | | | |
| シグマ | | | | | | | | | |
| フリフリッカー | | | | R1耐 | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | |
| なんそうべに | | | | | | | | | |
| にしなべに | | | | | | | | | |
| レッドウェーブ | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | 山陽種苗(株) |
| グレートレックス366 | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | |
| 赤縮緬チシャ | | | | | | | | | |
| フレッシュレッド | 強 | | | R1強 | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | 住化農業資材(株) |
| ブラノ | 耐 | | 強 | | 発生少 | | 強 | 発生少 | |
| デジェロ | | | | | | | | 強耐 | |
| ジョルト | 耐 | | | | 強 | | | 発生少 | |
| エルガー | 耐 | | | | 発生少 | | | | |
| モデナ | 耐 | | | | 発生少 | | | | |
| ミーノ | | | | | | | | | |
| アスレ | | | | | | | | | |
| シルル | | | | | | | | | |
| マイヤー | | | 強 | | | | | | |
| デローサ | 耐 | | | R1耐 | 強 | | | | |
| メルカド | | | | R2耐 | 発生少 | | | 発生少 | |
| 結球レタス | | | | | | | | | |
| バスポート | | | | R1～2耐 | | | | | |
| オアシス | | 発生少 | | R1～2耐 | 発生少 | | | | |
| シーカー | | | | R2耐 | | | | | |
| サーマルスター | | | | R2耐 | | | | | |
| クールガイ | | | | | | | | | |
| スターレイ | | | | R1強 | | | | | |
| ウィザード | | | | | | | | | |
| サウザー | | | | | | | | | |
| マリーナ | | | | | | | | | |
| マリア | | | | | | | | | |
| ビッグガイ | | | | | | | | 強 | |
| シスコピバ | | | | | | | | 強 | |
| ウィンレー | | | | | | | | 強 | |
| レグナム | | | | | | | | | |
| レイヤード | | | | | | | | | |
| シスコF | | | | | | | | | |
| フルバック | | | | | | | | | |
| ランサー | | | | | | | | | |
| 極早生シスコ | | | | | | | | | |
| パークレー | | | | | | | | | |
| シスコ | | | | | | | | | |
| レガシー | | | | | | | | | |

(次ページへ)

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

(前ページ続き)

付表 レタスの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | べと病 | 軟腐病 | 腐敗病 | 根腐病 | 斑点細菌病 | すそ枯病 | 霜害 | ビッグベイン | 出典 (商社名) |
|----------------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|----|--------|-------------|
| 非結球レタス | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| グリーンジャケット | | | | | | | | | |
| ダンシング | | | | | | | | | |
| グリーンウェーブ | | | | | | | | | |
| サマールージュ | | | | | | | | | |
| サマーサージ | | | | | | | | | |
| レッドフェルダー | | | | | | | | | |
| レッドファイヤー | | | | | | | | | |
| 晩抽 レッドファイヤー | | | | | | | | | |
| マザーグリーン | | | | | | | | | |
| マザーレッド | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | ツルタのタネ(株) |
| アモーレ | | | | | | | | | |
| エクセル | | | | | | | | | |
| オータム | | 強 | 強 | | | | | | |
| クイック | | | | | | | | | |
| コーチ | 強 | 強 | | | 強 | | | | |
| ゴジラ | | | | | | | | | |
| コンスタント | | | | | | | | | |
| サマー | | 強 | 強 | | | | | | |
| シニア | | | | | なりにくい | | | | |
| シャープリー | | | | | | | | | |
| シャトー | | | | | | | | | |
| スティンガー | | | | | | | | | |
| ステディ | | | | | | | | | |
| ステディ クラシック | | | | | | なりにくい | | | |
| スピーディ | | | | | | | | | |
| スプリング | 強耐 | | 強耐 | | | 強耐 | 強耐 | | |
| スプリングW | | | | | | | | | |
| チーア | | | | | | | | | |
| ツララ | | | | | | | 強 | | |
| ダイヤモンド | 強耐 | | 強耐 | | | 強耐 | 強耐 | | |
| トップギャランW | 強耐 | | | | | | 強耐 | | |
| ネージュ | | | | | | | | | |
| バーナル | | | | 強 | 強 | | | | |
| フレスコ | | | | R1~2強 | | | | | |
| フロント | | | 強 | | | | | | |
| ヘジラ | | | | | | | | | |
| ベラノ | | | | R1~2強 | 強 | | | | |
| マイルド | | | | | | | | | |
| ユニバース クラシック | | 強 | 強 | | | | | | |
| ラウンド | | | | | | | | | |
| 早生ステディ | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | |
| ウォーム | | | | R2強 | | | | | |
| ウォームM | | | | R1~2強 | | | | | |
| クール | | | | R1~2強 | | | | | |
| 克蘭チ | | | | | | | | | |
| グリーンリーフ2号 | | | | | | | | | |
| コールド | | | | R2強 | | | | | |
| ニュースター | | | | | | | | | |
| バラエティ赤 | | | | | | | | | |
| バラエティ濃赤 | | | | | | | | | |
| 晩抽ムッター | | | | | | | | | |
| ホット | | | | R2強 | | | | | |
| ユニーク2号 | | | | R1~2強 | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | (株) トーホク |
| OG R326 | | | | | | | | | |
| グリーンゴール | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | |
| ファインレッド | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | 日東農産種苗(株) |
| すわ1935 | | | | R1~2強 | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | 日本アグリ(株) |
| ハミングチャウ | | 強 | | | | | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 レタスの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | べと病 | 軟腐病 | 腐敗病 | 根腐病 | 斑点細菌病 | すそ枯病 | 霜害 | ビッグベイン | 出典 (商社名) | | |
|---------------|-----|-----|-----|-------|-------|------|----|--------|-------------|-----------|---------|
| 結球レタス | | | | | | | | | 丸種（株） | | |
| ブレストージ | | | | | | | | | | | |
| ステップ | | | | | | | | | | | |
| サマーオンワード | | | | | | | | | | | |
| からさわ | | | | | | | | | | | |
| みずさわ | | | | | | | | | | | |
| ルーチェ | | | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | | みかど協和（株） | |
| バリグリーン | | | | | | | | | | | |
| バリレッド | | | | | | | | | | | |
| レネット | | | | | | | | | | | |
| サラグリーン | | | | | | | | | | | |
| 都サラダ | | | | | | | | | | | |
| グリーンノート | | | | | | | | | | | |
| オークリーフ | | | | | | | | | | | |
| レディ | | | | | | | | | | | |
| 青ちりめんちしゃ | | | | | | | | | | | |
| 赤ちりめんちしゃ | | | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | 横浜植木（株） | | |
| オリンピア | | | | | | | | | | | |
| インカム | | | | | | | | | | | |
| アーリーインカム | | | | | | | | | | | |
| オーガスター | | | | | | | | | | | |
| ユーレイクス | | | | | | | | | | | |
| みかどレイクス | | | | | | | | | | | |
| 鴨川12 | | | | | | | | | | | |
| 袖ヶ浦 | | | | | | | | | | | |
| D.I.ジョイグリーン | | | | | | | | | | | |
| レオグランド | | | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | | (株) 渡辺採種場 | |
| アーリーインパルス | | | | | | | | | | | |
| レッドインパルス | | | | | | | | | | | |
| グリーンインパルス | | | | | | | | | | | |
| レッドエース | | | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | 渡辺農事（株） | | |
| 郷 | | | | | | | | 耐 | | | |
| アラバマ | | | | | | | | 耐 | | | |
| スーパー102 | | | | | 比較的強 | | | | | | |
| ブリザード | | | | | | | | | | | |
| 菊川102 | | | | R2耐 | | | | | | | |
| 菊川103 | | | | | | | | | | | |
| しずか | | | | | | | | | | | |
| キャスパー | | | | | | | | | | | |
| ラブトル | | | | | 比較的強 | | | | | | |
| バレイ | | | | R1,2耐 | | | | | | | |
| ランディ | | | | R1,2耐 | | | | | | | |
| サマーランド | | | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | 渡辺農事（株） | | |
| キュアグリーン1号 | | | | R1,2耐 | | | | | | | |
| マリノ | | | | | | | | | | | |
| ノーチップ | | | | | | 発生少 | | | | | |
| ロザンナ | | | | | | | | | | | |
| ハワイ2号 | | | | | | | | | | | |
| ハリウッド | | | | | | | | | | | |
| 晩抽サーフレッド | | | | | | | | | | | |
| キュアレッド1号 | | | | R1,2耐 | | | | | | | |
| キュアレッド2号 | | | | R1,2耐 | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | | 渡辺農事（株） | |
| 早生サリナス | | | | | | | | | | | |
| コロラド | | | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | 渡辺農事（株） | | |
| トロピグリーン | | | | | | | | | | | |
| ボンジュール2号 | | | | | | | | | | | |
| 結球レタス | | | | | | | | | | | 渡辺農事（株） |
| エステス | | | | | | | | | | | |
| スパーク | | | 強 | | | | | | | | |
| ワトソン | | | | | | | 強 | | | | |
| グリーンレーク2B61 | | | | | | | | | | | |
| カーチス | | | | R1強 | | | | | | | |
| ユニット | | | | | | | | | | | |
| 非結球レタス | | | | | | | | | | 渡辺農事（株） | |
| アフロ | | | | | | | | | | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載
原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 だいこんの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | ウイルス病 | パーティシウム黒点病 | 黒斑細菌病 | 軟腐病 | 出典 (商社名) |
|---------|-----|-------|------------|-------|-----|-------------|
| 勲章 | 耐 | | 強 | | | 朝日工業(株) |
| ちいさい根 | | | | | | |
| 夏麒麟 | | | | | | |
| はこいり娘 | 耐 | | | | | |
| 栄福二号 | △ | △ | | | ○ | カネコ種苗(株) |
| 辛味199 | | △ | | | ○ | |
| 寒仕込み | | ◎ | | | ○～◎ | |
| かんどころ | ◎ | ○ | | | ○ | |
| 生粹 | | ◎ | | | △ | |
| 初夏美人 | ○ | ○～◎ | | | ◎ | |
| 新人総太り | ○ | △ | | | ○～◎ | |
| 夏風 | ◎ | ◎ | | | ◎ | |
| 夏味115 | ○ | ○～◎ | | | ◎ | |
| 夏ロマン | ○ | ○～◎ | | | ◎ | |
| 春みのり | ○～◎ | ○ | | | ○ | |
| 春美人 | △～○ | ○ | | | ○ | |
| 晩抽直春 | ○ | △ | | | ○ | |
| 冬美人 | ○～◎ | ○ | | | ○ | |
| 冬だより | ○～◎ | ○ | | | ○ | |
| 冬の浦 | ○ | ○ | | | ○ | |
| 文太 | ◎ | ◎ | | | ○～◎ | |
| 美春 | ◎ | ○～◎ | | | ○ | |
| Y R直秋 | ○～◎ | ○ | | | ○ | |
| Y R夏大慶 | ◎ | ○ | | | ○ | |
| 猷夏青首 | 耐 | 強 | | | 強 | (株)サカタのタネ |
| 猷夏37号 | 耐 | 強 | | | | |
| 秋みね | | | | | | |
| 辛吉 | | | | | | |
| 青源三浦 | | 強 | | | | |
| つくし春 | | | | | | |
| 天翠 | | | | | | |
| 天寶 | | | | | | |
| 夏の守 | 耐 | 耐 | | | | |
| 夏のきざし | 耐 | | | | | |
| はっかい | 耐 | 強 | | | | |
| 濱さかり | | | | | | |
| 濱のはる | 耐 | | | | | |
| 紅化粧 | 耐 | | | | | |
| 冬しぐれ | | | | 強 | | |
| 冬自慢 | | | | | | |
| 冬みね | | | | 強 | | |
| 冬みね2号 | | | | 強 | | |
| 冬みねセブン | | | | | | |
| 雪美人 | | | | | | |
| 竜神三浦2号 | | | | | | |
| ころっ娘 | | 強 | | | 強 | |
| 秋健大根 | 強 | 強 | | | 強 | 山陽種苗(株) |
| 秋グルメ大根 | | | | | | |
| 栄葉大根 | | | | | | |
| おでん大根 | | | | | | |
| 春明大根 | 強 | 強 | | | 強 | |
| 秋明大根 | 強 | 強 | | | 強 | |
| 大丸聖護院大根 | | | | | | |
| 宮重総太り大根 | | | | | | |
| 陽青大根 | | 強 | | | 強 | |
| トップランナー | ◎ | | | | | タキイ種苗(株) |
| 初神楽 | ○ | | | | | |
| 春神楽 | ○ | | | | | |
| つや風 | ◎ | | | | | |
| 藤風 | ◎ | | | | | |
| 大師 | | | | | | |
| おしん | | | | | | |
| 夏の翼 | ○ | | | | 強 | |
| 秋の翼 | ○ | | | | | |
| 千都 | ○ | | | | | |
| 白肌美人 | ○ | | | | | |

(次ページへ)

(前ページ続き)

付表 だいこんの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | ウイルス病 | バーティシウム黒点病 | 黒斑細菌病 | 軟腐病 | 出典(商社名) |
|-----------|-----|-------|------------|-------|-----|----------|
| YRくらま | ○ | 強 | | | | タキイ種苗(株) |
| 耐病総太り | | | | | | |
| 緑輝 | | | | | | |
| 関白 | ◎ | 耐 | | | | |
| 耐病宮重 | | | | | | |
| 冬どり大蔵 | | | | | | |
| おふくろ | | | | | | |
| 夏みの早生三号 | ◎ | 強 | | | | |
| 早太り聖護院 | | | | | | |
| 冬どり聖護院 | | | | | | |
| 秋神楽 | ○ | | | | | |
| 健白 | ○ | | | | | |
| 白槍 | | | | | | |
| 新八州 | 強 | 強 | | | | |
| 白秋 | | | | | | |
| 耐病干し理想 | 強 | 強 | | | | |
| 干し理想 | | | | | | |
| 三太郎 | ○ | | | | | |
| 辛之助 | | | | | | |
| 青長大根 | | | | | | |
| 紅心大根 | | | | | | |
| エベレスト | | | | | | |
| 黒葉系みの早生 | | | | | | |
| 平安すしらず聖護院 | | | | | | |
| 宮重大長 | | | | | | |
| 打木源助 | | | | | | |
| 白首宮重尻丸 | | | | | | |
| 大蔵 | | | | | | |
| 和歌山 | | | | | | |
| 平安早太り時無 | | | | | | |
| おでん太郎 | | | | | | トキタ種苗(株) |
| おてごろ大根2号 | | | | | | |
| D-51 | | | | | | |
| YR彩太郎 | 強 | 強 | | | | |
| YR勝太郎 | 強 | | | | | |
| 夏つかさ | ○ | | ○ | | ○ | (株) トーホク |
| 夏つかさ「旬」 | ○ | | ○ | | ○ | |
| 夏つかさ「快」 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | |
| 粋なやつ | ○ | | | | | |
| 白進 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | |
| 秋峠 | ○ | | | | | |
| 広重 | ○ | | | | | |
| 俊才 | ○ | | | | | |
| 英才 | △ | | | | | |
| 蒼春 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| 春のいぶき | ◎ | | | | | |
| 晩抽春のいぶき | ◎ | | | | | |
| 冬どり三浦 | ○ | | | | | |
| 早つまり大蔵 | ○ | | | | | |
| 干し一番 | ○ | | | | | |
| 香漬の助 | ○ | ○ | | | | |
| 早生聖護院 | | | | | | |
| ビタミン大根 | | | | | | |
| まことちゃん | ○ | | | | | |
| 味辛大根 | | | | | | |
| 良菜 | ○ | | | | | |
| ティアルージュ | ○ | | | | | |
| 早生ながはる | ○ | ○ | | | | 中原採種場(株) |
| 春つまり | ◎ | ◎ | | | | |
| 春いずみ | ◎ | ○ | | | ○ | |
| 棲切伝蔵 | 強 | 強 | 強 | | 強 | ナント種苗(株) |
| 夏の砦 | | | | | 強 | |
| スーパー夏信 | | 強 | 強 | | 強 | |
| 夏千楽 | 強 | 強 | 強 | | | |
| 秋の砦 | 耐 | | | | 耐 | |
| 健志総太り | 耐 | | | | | |
| 冬人88 | | | | | | |
| 優等生 | | | | | | |
| 夏さかり | 耐 | | | | | |

(次ページへ)

(前ページ続き)

付表 だいこんの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | ウイルス病 | ハートシリウム黒点病 | 黒斑細菌病 | 軟腐病 | 出典(商社名) |
|-------------|-----|-------|------------|-------|-----|---|
| 秋千楽 | 強 | 強 | | | | ナント種苗(株) |
| 春慶 | | | | | | |
| 桜の砦 | | | | | | |
| 冬千楽 | | | | | | |
| 春楽 | | | | | | |
| 春の砦 | | | | | | |
| Y R - 春人 | 耐 | | | | | |
| Y R - 桜坂 | 強 | | | | | |
| Y R - 鉄人 | 強 | 強 | | | | |
| 蒼の砦 | | | | | | |
| N R - 3 3 6 | | | | | | |
| 春陽 | | | | | | |
| 長形春富 | | | | | | |
| 役者仙人 | 強 | 強 | | | | |
| YR春ろまん | 抵 | 強 | | | | 丸種(株) |
| YR春大地 | | | | | | |
| YR萌ひびき | | | | | | |
| 味わらべ | | | | | | |
| 春総 | | | | | | |
| 味辛 | | | | | | |
| YR郷ひびき | | | | | | |
| YR健勝2号 | | | | | | |
| 冬ひびき | | | | | | |
| 輝ひびき | | | | | | |
| YR健勝 | | | | | | |
| YR健雄 | | | | | | |
| 源光 | | | | | | |
| 本丸聖護院 | | | | | | |
| YR味づくり | 抵 | 強 | | | | |
| 天津青長 | | | | | | |
| 新大丸聖護院 | | | | | | |
| 国富 | | | | | | |
| 白上り京大根 | | | | | | |
| コウシダイコン | | | | | | |
| アオナガダイコン | | | | | | |
| 春雅 | | | | | | |
| 春漫遊 | | | | | | |
| 夏みの早生 | | | | | | |
| 中長聖護院大根 | | | | | | |
| 青首長太宮重大根 | | | | | | |
| 青首総太り大根 | | | | | | |
| 打木総太り大根 | | | | | | |
| 阿波新晩生大根 | | | | | | |
| 方領大根 | | | | | | |
| 和歌山大根 | | | | | | |
| 大蔵 | | | | | | |
| 時無 | | | | | | |
| 初嘗 | ○ | | | | ○ | みかど協和(株) ◎: 特に優れる ○: 優れる △: 普通 |
| 作得 | △ | | | | △ | |
| 貴嘗 | ○ | | | | ○ | |
| 福嘗 | ○ | | | | ◎ | |
| 夢嘗 | ○ | | | | ○ | |
| YR春大星 | ○ | | | | ○ | |
| ミニコン415 | | | | | ○ | |
| 晩抽大吉 | ○ | | | | ○ | |
| 夏得 | ○ | | | | ○ | |
| 春手柄 | | | | | | |
| 春らんまん2号 | | | | | | (株) 武蔵野種苗園 |
| 秋の舞 | 強 | | | | | |
| 味子役 | | | | | | |

(次ページへ)

(前ページ続き)

付表 だいこんの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | ウイルス病 | パーティリウム黒点病 | 黒斑細菌病 | 軟腐病 | 出典(商社名) | |
|--------|-----|-------|------------|-------|-----|-----------|---------|
| YR夏伝説 | ◎ | ◎ | | | | (株) 大和農園 | |
| 旭山 | | | | | | | |
| あじまるみ | ○ | ○ | | | | | |
| YRあきしの | ○ | ○ | | | | | |
| あきしの | ○ | ○ | | | | | |
| 新貴聖 | ○ | ○ | | | | | |
| YR聖者 | ○ | ○ | | | | | |
| 優春 | ○ | | | | | | |
| ふるさと | | ○ | | | | | |
| 紀和 | | ○ | | | | | |
| 耐病沢庵 | | ○ | | | | | |
| 薬師丸 | | ○ | | | | | |
| 早太り聖護院 | | ○ | | | | | |
| 夏蒔美濃早生 | | ○ | | | | | |
| YS大蔵 | ○ | ○ | | | | | |
| 冬伝説 | ○ | ○ | | | | | |
| 春座 | | | | | | | |
| 夏座 | | | | | | | |
| 冬座 | | | | | | | |
| YR春伝説 | ◎ | ◎ | | | | | |
| 喜太一 | 極強 | | | | | 雪印種苗(株) | |
| 清音 | | | | | | 横浜植木(株) | |
| 貴宮 | 強 | | | | 強 | (株) 渡辺採種場 | |
| 市の宮 | 強 | 強 | | | | | |
| 里の宮 | 強 | | | | | | |
| 本宮 | 強 | | | | 強 | | |
| 天宮 | 強 | 強 | | | | | |
| 春山理想 | 強 | 強 | | | | | |
| 立山理想 | 強 | 強 | | | | | |
| 蔵の宮 | | | | | | | |
| 名取理想 | | 強 | | | | | |
| 幸の宮 | | | | | | | |
| 新貞山理想 | | | | | | | |
| 若宮二号 | | | | | | | |
| 清宮 | 強 | | | | | | |
| 詩岬 | | | | | | | 渡辺農事(株) |
| 冬岬 | | | | | | | |
| 夢岬 | | | | | | | |
| 夏若 | | 強 | | | | | |
| ともしび | | | | | | | |
| Y R 拓洋 | 強 | 強 | | | | | |
| Y R 秋岬 | 強 | 強 | 強 | | | | |
| 富長 | | | 強 | | | | |
| かつみ | | | | | | | |
| さとみ | | 強 | | | | | |
| 彩岬 | | | | | | | |
| 春岬 | | | | | | | |
| Y R 海洋 | 耐 | | | | | | |
| 仙水 | | 強 | | | | | |
| WN8339 | 強 | | | | 強 | | |
| 富美勢 | | | | | | | |
| お徳 | | | | | | | |
| 若桜 | | | | | | | |
| 味岬 | | | | | | | |
| 四季姫2号 | | | | | | | |
| 紅岬 | | | | | | | |
| 丸岬聖護院 | | | | | | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載
原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M 実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 根深ねぎの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 黒斑病 | さび病 | べと病 | 白絹病 | 軟腐病 | ウイルス病 | 出典 (商社名) |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|--------------------|
| 石倉葱エース | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| 晩生塩原 | | | | | | | |
| 錦蔵 | 極強 | | | | | | |
| 群翠 | | | | 強 | 強 | | |
| 下仁田葱 | | | | | | | |
| SUKIYAKI | | | | | | | |
| せなみ | | | | | | | |
| 夏黒一号 | | | | | | | |
| 夏場所 | | 強 | | | 強 | | |
| 西田 | | 強 | | | | 強 | |
| ぬくもり | 強 | | | | | | |
| 冬場所 | | 強 | | | 発生少 | | |
| 冬若 | | 強 | | | | 強 | |
| 湘南一本 | | | | | | | (株)サカタのタネ |
| 夏扇パワー | 強 | 強 | 強 | | | | |
| 夏扇2号 | 強 | 強 | 強 | | | | |
| 夏扇3号 | 強 | 強 | 強 | | | | |
| 夏扇4号 | 強 | 強 | 強 | | | | |
| 春扇 | | | | | | | |
| 冬扇2号 | 強 | 強 | 強 | | | | |
| 冬扇3号 | | | | | | | |
| のどか一本葱 | | | | | | | 山陽種苗(株) |
| ホワイトソード | | 強 | 強 | | | | タキイ種苗(株) |
| ホワイトスター | | | | | | | |
| ホワイトタイガー | | 強 | 強 | | | | |
| ホワイトツリー | | | | | | | |
| 一文字黒昇り | | | | | | | |
| 清滝 | | | | | | | |
| ふゆわらべ | | | | | | | |
| 葵の剣 | | | | | | | トキタ種苗(株) |
| 十国一本太 | | 強 | | | | 強 | |
| 天の剣 | | | | | 強 | | |
| 東京夏黒2号 | | | | | | | |
| 光の剣 | | | | | | | |
| 緑の剣 | | | | | | | |
| 東京冬黒一本太 | | | | | | | |
| 森の奏で | | | | | | | |
| T S X-516 | | | | | | | |
| T S X-518 | | | | | | | |
| T S X-511 | | | | | | | |
| T S X-513 | | | | | | | |
| 関羽一本太 | ○ | | ○ | | ○ | | (株)トーホク ○：耐病性あり |
| 羽緑一本太 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 全州21号 | | | | | | | みかど協和(株) |
| 長悦 | | | | | | | |
| 長宝 | | | | | | | |
| 金長 | | | | | | | |
| 金長3号 | | | | | | | |
| 明彦 | | | | | | | |
| 霜耐 | | | | | | | |
| 長寿 | | | | | | | |
| 三春 | | | | | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 根深ねぎの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 黒斑病 | さび病 | べと病 | 白絹病 | 軟腐病 | ウイルス病 | 出典 (商社名) |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------------|
| 吉宗 | | | | | | | (株) 武蔵野種苗園 |
| 秀雅 | | | | | | | |
| 秀艶 | | | | | | | |
| 秀逸 | 強 | 強 | 強 | | | | |
| MSI-856 | | | | | | | |
| MSI-953 | | | | | | | |
| 元蔵 | | | | | | | |
| 吉蔵 | | | | | | | |
| 龍まさり | | | | | | | 横浜植木 (株) |
| 龍ひかり1号 | | | | | | | |
| 龍ひかり2号 | | | | | | | |
| 龍翔 | | | | | | | |
| 龍輝 | | | | | | | |
| 華青楼2号 | | | | | | | |
| 龍帝 | | | | | | | |
| 味十八番 | | | | | | | |
| 白妙 | | | | | | | (株) 渡辺採種場 |
| 白矢 | | | | | | | |
| 白林 | | | | | | | |
| 早太り一本 | | | | | | | |
| 余目一本 | | | | | | | |
| 輝光 | | | | | | | 渡辺農事 (株) |
| 夏一心 | | | | | | | |
| 冬一心 | | | | | | | |
| 美白 | | | | | | | |
| 東京晩生 | | | | | | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載
原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M 実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 キャベツの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | 黒腐病 | 根こぶ病 | 菌核病 | 株腐病 | 尻腐病 | バーティシウム萎凋病 | 黒斑細菌病 | べと病 | 軟腐病 | 出典 (商社名) |
|---------------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------------|-------|-----|-----|-------------|
| しずはま1号 | 抵 | 強 | | | | | | | | | (有)石井育種場 |
| しずはま2号 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 麗峰1号 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 岳陽 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 味よし | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| あまだま | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R 泰山 | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R しぶき | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| Y R しぶき2号 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 冬駿河 | | | | | | | | | | | |
| 順風 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 松波 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| Y R 冬系609 | 抵 | 中 | | 中 | | | | | | | |
| しおさい2号 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 早生大御所 | | | | | | | | | | | |
| 大御所 | | | | | | | | | | | |
| 寒太鼓 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 耐寒大御所 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 豊光 | | | | | | | | | | | |
| 青龍345 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 春汐 | | | | 強 | | | | | | | |
| はるなぎエース | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 如春 | | | | | | | | | | | |
| Y R 春いろ | 抵 | | | | | | | | | | |
| 一陽 | | | | | | | | | | | |
| 秋蒔極早生 732号 | | | | | | | | | | | |
| はるね | | | | | | | | | | | |
| 秋蒔中早生 | | | | | | | | | | | |
| 秋蒔中早生3号 | | | | | | | | | | | |
| グリーンキッド | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R 早生豊峰 | 抵 | | | | | | | | | | (株)カイヤ採種場 |
| Y R 武勇 | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R いさみ | 抵 | | | | | | | | | | |
| 豊玉3号 | | | | | | | | | | | |
| 寒玉1925 | | | | | | | | | | | |
| Y R 2244 | | | | | | | | | | | |
| 春ごろも | | | | | | 強 | | | | | |
| 中早生1788 | | | | | | | | | | | |
| 天光5号 | | | | | | | | | | | |
| 天光2号 | | | | | | | | | | | |
| Y R ふくそめ | 抵 | | | 強 | | | | | | | |
| Y R 2283 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 夏峰 | | | | | | | | | | | |
| Y R 沖峰 | 抵 | 耐 | | | | 耐 | | | | 耐 | |
| はるそめ | | | | | | | | | | | |
| K V 2328 | 抵 | | | | | 強 | | | | | |
| K V 2423 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| K V 2437 | 抵 | | | | | | | | 強 | | |
| Y R 天馬 | | | | | | | | | 強 | | |
| いろどり | 抵 | 強 | | | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| いそかぜ | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 恋風 | 抵 | 耐 | | | 耐 | | 耐 | | | | |
| みくに | 抵 | 耐 | | | | | 耐 | | | | |
| 金風712 | | | | | | | | | | | |
| 金風 | | | | | | | | | | | |
| すこやか | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 キャベツの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | 黒腐病 | 根こぶ病 | 菌核病 | 株腐病 | 尻腐病 | パーティシウム萎凋病 | 黒斑細菌病 | べと病 | 軟腐病 | 出典 (商社名) |
|-----------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------------|-------|-----|-----|-----------------------|
| 冬くぐり | | 強 | | | | | | | | | カネコ種苗（株） |
| Y R 夏晴 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| K A - 783 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| つまみどり | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| ふゆあま | | | | | | | | | | | |
| 迎春 | | 耐 | | | | | | | | | |
| 爽月 | | | | | | | | | | | |
| 爽月 2 号 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 蘭丸 | 抵 | 強 | | | | 強 | | | | | |
| K A - 780 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| レアーボール | | 耐 | | | | | | | | | |
| はやどり甘藍 | | | | | | | | | | | 小林種苗（株） |
| 新藍 | 抵 | 耐 | 耐 | | | | | | | | （株）サカタのタネ |
| 藍天 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| 冬藍 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| 青琳 | 抵 | | | | | | 強 | | | | |
| かおるだま | 抵 | | | | | | | | | | |
| 金系201号 | | | | | | | | | | | |
| 金系201E X | | | | | | | | | | | |
| 金春 | | | | | | | | | | | |
| 涼嶺 4 1 号 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 来陽 | | | | | | | | | | | |
| みさき | 抵 | | | | | | | | | | |
| 中早生二号 | | | | | | | | | | | |
| アーリーボール | 抵 | | | | | | | | | | |
| アーリータイム | | | | | | | | | | | |
| 冬王 | | 強 | | | | | | | | | |
| Y R のどか | 抵 | | | | | | | | | | |
| 金宝 | | | | | | | | | | | |
| グリーンボール | | | | | | | | | | | |
| 五月晴甘藍 | | | | | | | | | | | |
| 凜甘藍 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 新中早生甘藍 | | | | | | | | | | | |
| 早生秋宝甘藍 | | 強 | | | | | | | | | |
| 夏早生甘藍 | | | | | | | | | | | |
| 新青二号甘藍 | | | | | | | | | | | |
| 冬青一号甘藍 | | | | | | | | | | | |
| やよい甘藍 | | | | | | | | | | | |
| エンペラー | | | | | | | | | | | |
| 彩里 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | タキイ種苗（株） ※圃耐：圃場耐病性 |
| 初秋 | | | | | | | | | | | |
| 秋徳 S P | 抵 | | | | | | 耐 | | | | |
| 彩峰 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| Y R 楽山 | 抵 | | | | | | | | | | |
| おきな | 抵 | | | | | | | | | | |
| 若峰 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 彩風 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| 郷ひかり S P | 抵 | | | | | | 耐 | | | | |
| あさしお | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 湖月 S P | | | | | | | | | | | |
| 彩ひかり | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| 夢舞台 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 彩音 | 抵 | 耐 | | | | | | | | | |
| 夢ごろも | 抵 | 圃耐 | | | | | | | | | |
| 四季穫 | | | | | | | | | | | |
| 恋岬 S P | 抵 | | | | | | | | | | |
| 星岬 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 浜岬 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 潮岬 | 耐 | | | | | | | | | | |

（次ページへ）

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 キャベツの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | 黒腐病 | 根こぶ病 | 菌核病 | 株腐病 | 尻腐病 | パーティシウム萎凋病 | 黒斑細菌病 | べと病 | 軟腐病 | 出典 (商社名) | |
|-------------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------------|-------|-----|-----|-----------------------|----------|
| 輝岬 | | | | | | | | | | | タキイ種苗（株） ※圃耐：圃場耐病性 | |
| 湖水 | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 春波 | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 味春 | | | | | | | | | | | | |
| 春ひかり七号 | | | | | | | | | | | | |
| 秋蒔 極早生二号 | | | | | | | | | | | | |
| 北ひかり | | | | | | | | | | | | |
| 春のかほり | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 初夏のかほり | 抵 | | | | | | | | | | | |
| Y R 春空 | 抵 | | | | | | | | | | | |
| Y R 天空 | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 秋蒔早生 一号 | | | | | | | | | | | | |
| 涼音 | 抵 | | | | | | 耐 | | | | | |
| コーラス | 抵 | | | | | | | | | | | |
| ジャンヌ | | | | | | | | | | | | |
| レンヌ | 抵 | 強 | | | | | | | | | | |
| サボイエースSP | | | | | | | | | | | | |
| T S X - 204 | 抵 | 耐 | | | | | | 耐 | 耐 | | | トキタ種苗（株） |
| Y R 愛藍 | 抵 | 耐 | | | | | | 耐 | 耐 | | | |
| Y R 彩藍2号 | 抵 | 強 | | | | | | 強 | | 強 | | |
| 冬おもい | 抵 | 耐 | | | | | | 耐 | | 耐 | | |
| 55ボール | 抵 | 強 | | | | | | 強 | | | | |
| ミニキャベ | | 強 | | | | | | 強 | | | | |
| リッチボール | 抵 | | | | | | | 強 | | | | |
| 浜の舞 | | 強 | | 強 | | | | 強 | | | | |
| 秋の舞 | | | | | | | | | | | | |
| 超大球 | | | | | | | | | | | | |
| ポイントワン | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 初恋 | 抵 | 強 | | | | | | 耐 | | | (株) トーホク | |
| 愛輝 | 抵 | 強 | | | | | 耐 | | | | | |
| 錦恋 | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 恋路 | 抵 | | | | | 強 | | | | | | |
| 稜山2号 | 抵 | 耐 | | | 耐 | 耐 | | | | | | |
| 飛鳥三季穫り | 強 | 強 | | | | | | | | 強 | ナント種苗（株） | |
| サトウくん | | | | | | | | | | | | |
| はやかぜ | 抵 | 強 | | | | | | | | | (株) 日本農林社 | |
| Y C R 夢いっぽ | 抵 | | 抵 | | | | | | | | | |
| 八宝 | 抵 | 強 | | | | | | | | | | |
| うめ吉 | | | | 強 | | | | | | | | |
| さつき王 | | | | | | | | | | | | |
| さつき女王 | | | | | | 強 | | | | 強 | | |
| フルツキャベツ | 抵 | | 抵 | | | | | | | | | |
| Y C R げっこう | 抵 | | 抵 | | | | | | | | | |
| Y C R 多恵 | 抵 | | 抵 | | | | | | | | | |
| Y C R 理念 | 抵 | | 抵 | | | | | | | | | |
| 早生藍宝つばさ | 抵 | 中 | | | | | | | | | | |
| Y R 藍宝 | 抵 | 強 | | | | | | | | 強 | | |
| 藍宝2号 | 抵 | 強 | | | | | | | | 強 | | |
| 輝吉 | 抵 | 強 | | | | | | | | | | |
| 晩生藍宝ひかり | 抵 | 強 | | | | | | | | | | |
| 藍春ゴールド | | | | | | | | | | | | |
| ニューボール | 抵 | 強 | | | | | | | | | | |
| トンガリボウシ | 抵 | | | | | | | | | | | |
| 新北斗 | | | | | | | | | | | | |

(次ページへ)

鹿児島県 I P M 実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 キャベツの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | 黒腐病 | 根こぶ病 | 菌核病 | 株腐病 | 尻腐病 | パーティシウム萎凋病 | 黒斑細菌病 | べと病 | 軟腐病 | 出典 (商社名) |
|-----------|-----|-----|------|-----|-----|-----|------------|-------|-----|-----|-------------|
| 秋みどり | 抵 | | | | | | | | | | (株) 日本農林社 |
| Y R 藍寿 | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R 藍陽 | 抵 | | | | | | | | | | |
| C-51 | 抵 | | 抵 | | | | | | | | |
| NC-65 | | | | | | | | | | | |
| NC-53 | 抵 | | 抵 | | | | | | | | |
| 冬のぼり | 抵 | 強 | | | | | | | | | (株) 野崎採種場 |
| 冬武将 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 冬まどか | 抵 | | | | | | | | | | |
| 玉輝155 | | | | | | | | | | | |
| 強力まどか | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 初秋取 | | | | | | | | | | | |
| はつだより | 抵 | | | | | | | | | | |
| 輝助 | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| クラインボール | 強 | 強 | | | | | | | | | |
| 夏のぞみ | 抵 | | | | | | | | | | |
| いしづえ | 抵 | 強 | | | | | | | | | |
| 秀秋 | 強 | | | | | | | | | | |
| 春喜 | | | | | | | | | | | |
| リンクル | | | | | | | | | | | |
| メインボール | | | | | | | | | | | |
| クラスター | | | | | | | | | | | |
| 野崎中生かんらん | | | | | | | | | | | |
| 野崎夏蒔かんらん | | | | | | | | | | | |
| YR早どり錦秋 | 抵 | | | | | | | | | | (株) 増田採種場 |
| YR錦秋強力152 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 寒玉6号 | | | | | | | | | | | |
| 春よし | | | | 強 | 強 | | | | | | 丸種(株) |
| 寒太郎 | | | | | | | | | | | |
| Y R 楽匠 | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R 楽匠2号 | 抵 | | | | | | | | | | |
| ミニックス40 | | | | | | | | | | | |
| Y R 味トップ | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R 優緑 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 冬吉郎 | 耐 | 強 | | 強 | | | | | | 強 | |
| エムスリー | | | | | | | | | | | |
| 青嵐 | | | | | | | | | | | |
| ニュートップ | | | | | | | | | | | |
| トップ | | | | | | | | | | | |
| 強力トップ | | | | | | | | | | | |
| 特急 | | | | | | | | | | | |
| Y R 新冬 | | | | | | | | | | | |
| 宇治一号 | | | | | | | | | | | |
| 四季取 | | | | | | | | | | | |
| 峰月 | | | | | | | | | | | |
| Y R かぎろひ | 強 | 強 | | | | | | | | | (株) 大和農園 |
| Y R 梁山泊 | 強 | 強 | | | | | | | | | |
| ボールランナー | 強 | 強 | | | | | | | | | |
| 王座 | 耐 | | | | | | | | | | |
| Y R 翠藍 | 耐 | 耐 | | | | | | | | | |
| 桜春EL | 強 | 強 | | | | 発生少 | | | | | |
| Y R 春気分 | 強 | 強 | | | | 発生少 | | | | | |
| 柳生 | | | | | | | | | | | |
| 金力 | | | | | | | | | | | |
| 桜春AS | | | | | | | | | | | |
| 春一 | | | | | | | | | | | |
| ハイボール | 強 | 強 | | | | | | 強 | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 キャベツの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | 黒腐病 | 根こぶ病 | 菌核病 | 株腐病 | 尻腐病 | バクテリア萎凋病 | 黒斑細菌病 | べと病 | 軟腐病 | 出典 (商社名) |
|-----------|-----|-----|------|-----|-----|-----|----------|-------|-----|-----|-------------|
| 祝園 | 抵 | | | | | | | | | | (株) 渡辺採種場 |
| Y R 青春 | 抵 | | | | | | | | | | |
| Y R 青春二号 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 好菜堂 | 抵 | 強 | | | | | | 強 | 強 | | |
| マイベース | 抵 | | 強 | | | | | | | | |
| 楽園 | | | | | | | | | | | |
| 冬穫B号 | | | | | | | | | | | |
| スピードボール2号 | | | | | | | | | | | |
| シティ | | | | | | | | | | | |
| 渡辺早春 | | | | | | | | | | | |
| 渡辺成功 | | | | | | | | | | | |
| 渡辺早生丸 | | | | | | | | | | | |
| 舞みどり | 抵 | | | | | | | | | | 渡辺農事(株) |
| たちかぜ | 抵 | | | | | | | | | | |
| 舞にしき | 抵 | | | | | | | | | | |
| 冬の舞 | 抵 | | | | | | | | | | |
| 来宴 | | | | | | | | | | | |
| きよらか | 抵 | | | | | | | | | | |
| 来喜 | 抵 | | | | | | | | | | |
| あまかぜ | | | | | | | | | | | |
| 味珠 | 抵 | | | | | | | | | | |
| ベスト | | | | | | | | | | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載

原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 はくさいの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 根こぶ病 | べと病 | 白斑病 | 軟腐病 | ウイルス病 | 芯腐れ | ゴマ症 | 縁腐れ症 | 出典 (商社名) | |
|----------|-----------------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|------|--|----------|
| CR 清雅65 | CR | | | | | 強 | | | (有)石井育種場 ※CR：抵抗性 CR ² ：さらに強い 抵抗性 | |
| CR 清雅75 | CR | 強 | 強 | | | 強 | | | | |
| 千寿 | | | | | | 強 | 強 | | | |
| 緑雲 | | | | | | | | | | |
| ときめき85 | CR ² | | | | | | | 強 | | |
| 冴黄90 | CR ² | | | | | 強 | 強 | | | |
| 黄波90 | CR ² | | | | | 強 | 強 | | | |
| 黄将 | 強耐 | 強 | | 強 | | 発生少 | 発生少 | | | カネコ種苗（株） |
| 黄望峰65 | 強耐 | 強耐 | | 強耐 | | 発生少 | 発生少 | | | |
| 黄望峰80 | 強耐 | 強耐 | | 強耐 | | 発生少 | 発生少 | | | |
| 黄望峰90 | 強耐 | 強耐 | | | | 発生少 | 発生少 | | | |
| 勝黄 | 強耐 | 強耐 | | | | 発生少 | 発生少 | | | |
| 板東 | | | | | | | | | | |
| 耐寒仲春 | | 強 | | 強 | | | | | | |
| 萌黄 | 強耐 | | | 強耐 | | 発生少 | 発生少 | | | |
| 栄黄 | | | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| かすみ | | | | | | | | | | |
| 極意 | | | | 強耐 | | | | | | |
| 耐病のぞみ60日 | | | | 強 | 強 | | | | | |
| のぞみ60日 | | | | | | | | | | |
| 黄月77 | 強耐 | 強耐 | | | | 発生少 | 発生少 | | | |
| 黄月90 | | | | | | | | | | |
| ちよぶき70 | ◎ | やや強 | | 強 | | 強 | 強 | | (株)サカタのタネ ※根こぶ病の強さ ◎>○ | |
| ちよぶき85 | ◎ | 強 | | | | 強 | 強 | | | |
| ゆめぶき502 | ○ | | | | | 強 | 強 | | | |
| ゆめぶき506 | ○ | | | | | 強 | 強 | | | |
| さとぶき613 | ○ | | | | | 強 | 強 | | | |
| さとぶき622 | ○ | | | | | | | | | |
| みねぶき505 | ○ | 極強 | | | | 強 | 強 | | | |
| 富風 | | 強 | 強 | 強 | 強 | | | | | |
| 豊風 | | | | | | | | | | |
| タイニーシュシュ | | | | | | 強 | | | | |
| 黄味小町 | | 強 | | | | | | | | |
| 緑塔紹菜 | | | | | | | | | | |
| CR 健黄白菜 | 強 | | | | | | | | | 山陽種苗（株） |
| 詩姫白菜 | | | | | | | | | | |
| 心美白菜 | | | | | | | | | | |
| 風雪白菜 | | 強 | | 強 | 強 | | | | | |
| 晴黄60 | | 耐 | | 強 | 強 | | | | タキイ種苗（株） | |
| 晴黄65 | | 耐 | | 強 | 強 | 発生少 | | 発生少 | | |
| 晴黄75 | | 耐 | | | | 発生少 | | 発生少 | | |
| 晴黄85 | | 耐 | | | | 発生少 | | 発生少 | | |
| 晴黄90 | | 耐 | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| きらぼし90 | 耐 | | | | | 発生少 | | 発生少 | | |
| きらぼし65 | 耐 | | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| きらぼし77 | 耐 | | | | | | | | | |
| きらぼし80 | 耐 | | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| きらぼし85 | 耐 | | | | | 発生少 | | 発生少 | | |
| 黄ごころ65 | | | | | | | | | | |
| 黄ごころ75 | | | | | | | | | | |
| 黄ごころ80 | | | | | | | | | | |
| 黄ごころ85 | | | | | | | | | | |
| 黄ごころ90 | | | | | | | | | | |
| オモニ75 | 強 | 強 | | 強 | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| オレンジクイン | | | | | | | | | | |
| 耐病六十日 | | | | | | | | | | |
| 無双 | | | | | | | | | | |
| 錦秋 | | | | | | | | | | |
| 金将二号 | | | | | | | | | | |
| 王将 | | | | | | | | | | |
| ほまれ二号 | | | | | | | | | | |

(次ページへ)

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 はくさいの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 根こぶ病 | べと病 | 白斑病 | 軟腐病 | ウイルス病 | 芯腐れ | ゴマ症 | 縁腐れ症 | 出典 (商社名) | |
|-------------|------|-----|-----|-----|-------|------|-----|------|-------------|------------------------------------|
| 冬峠 | | | | | | | | | タキイ種苗（株） | |
| 晩輝 | | | | | | | | | | |
| 春ひなた | | | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 春笑 | | | | | | 発生少 | | 発生少 | | |
| 晴舞台65 | | 強 | | | | | | | | |
| 勝春 | | | | | | | | | | |
| C Rお黄にいり | 強 | 強 | | | | | | | | |
| プチヒリ | | 強 | | | | | | | | |
| 新あづま | | | | | | | | | | |
| 京都三号 | | | | | | | | | | |
| 花心白菜 | | | | | | | | | | |
| 野崎二号 | | | | | | | | | | |
| 大福 | | | | | | | 発生少 | | | (株) トーホク ※根こぶ病に 対する強さ ◎>○ |
| 大福75 | | 強 | | 極強 | 強 | | 発生少 | 発生少 | | |
| 大福234 | ○ | | | 極強 | 強 | 発生少 | | | | |
| 大福206 | ○ | | | | | | 発生少 | 発生少 | | |
| 大福209 | ○ | | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 黄楽60 | ○ | | | 極強 | 強 | 発生極少 | | | | |
| 黄楽70 | ◎ | 強 | | 極強 | 強 | 発生極少 | | | | |
| 黄楽80 | ○ | 強 | 強 | | | | 発生少 | 発生少 | | |
| 黄楽90α | ◎ | 強 | 強 | | | | | 発生少 | | |
| 結福78 | ◎ | | | | | 発生極少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 結福 | ◎ | | | | | 発生極少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 菊錦 | | | | | | | | | | |
| 春到来 | ○ | | | | | | 発生少 | | | |
| キムさん75 | | 強 | | 中 | 中 | | 強 | 強 | ナント種苗（株） | |
| めだか | | | | 強 | 強 | | | | | |
| C R威風GOGO | 耐 | 耐 | | | 耐 | 強 | | 強 | | |
| C R金鯨75 | 抵 | | | 発生少 | 発生少 | | | | | |
| C R金鯨85 | 抵 | 発生少 | | 発生少 | 発生少 | | | | | |
| 耐病アボロ60 | | | | | | | | | | |
| 野崎二号白菜 | | | | | | | | | | |
| 松島新二号白菜 | | | | | | | | | | |
| 京都三号白菜 | | | | | | | | | | |
| 紫奏子 | | | | | | | | | | |
| N C-075 | | | | | | | | | | |
| あきめき | 特◎ | 強 | | | 強 | | | | | (株) 日本農林社 |
| 秋理想 | ○ | 強 | | | 強 | | | | | |
| 春理想 | ○ | | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 寒次郎 | | | | | | 強 | | 強 | | |
| 寒みどり | | | | | | | 発生少 | | | |
| スーパーC R新理想 | ◎ | | | | | | | | | |
| スーパーC R秋にしき | ◎ | | | | | | | | | |
| ミニ白菜黄芯さやか | | | | | | | | | | |
| 秋福 | | | | | | 強 | | | | |
| 黄福65 | ◎ | | | | | | | | | |
| 黄久娘65 | | | | | | | | | | |
| C R歡喜No.100 | ○ | | | 強 | | 強 | | | | |
| 黄久娘70 | | | | | | | | | | |
| 黄苑75 | ◎ | | | | | | | | (株) 日本農林社 | |
| 秋理想M6 | ○ | | | | | | | | | |
| 新理想めぐみ | | | | | | | | | | |
| 黄苑80 | ◎ | | | | | | | | | |
| 黄久娘80 | | | | | | 強 | | | | |
| 新理想 | | | | | | | | | | |
| E Xキング山東菜 | | | | | | | | | | |
| まいこ | 強 | | | | | | | | (株) 野崎採種場 | |
| 栄春 | 強 | | | | | 発生少 | | | | |
| 冬の恵 | 強 | 強耐 | | | | 発生少 | | | | |
| 輝黄 | 強 | | | | | | | | | |
| 華黄 | | | | | | | 発生少 | 発生少 | | |
| レタサイ | | | | | | | | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 はくさいの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 根こぶ病 | べと病 | 白斑病 | 軟腐病 | ウイルス病 | 芯腐れ | ゴマ症 | 縁腐れ症 | 出典 (商社名) | |
|-----------|------|-----|-----|-----|-------|-----|-----|------|-------------|----------|
| ちっちゃイ菜 | | | | | | | | | (株) 野崎採種場 | |
| 双美黄 | | | | | | | | | | |
| 野崎123 | | | | | | | | | | |
| 野崎白菜二号 | | | | | | | | | | |
| 二号 | | | | | | | | | | |
| めぐみ二号 | | | | | | | | | | |
| 味栄 | | | | | | | | | | |
| 早生栄豊 | | | | | | | | | | |
| 一号 | | | | | | | | | | |
| 三号 | | | | | | | | | | |
| 野崎春蒔白菜一号 | | | | | | | | | | |
| 頼黄65 | 強 | 強 | | 強 | 強 | | | | | 丸種 (株) |
| 黄作60 | | | 耐 | 耐 | | | | | | |
| ミニ黄作50 | | | | | | | | | | |
| ミニ頼黄50 | 強 | | | 強 | 強 | | | | | |
| 新はやぶさ | | | | | 強 | | | | | |
| CR京たから80 | 抵 | | | | | | | | | |
| 力 | | | | | | | | | | |
| 強力六十日 | | | | | | | | | | |
| 王様 | | | | | | | | | | |
| 京都三号白菜 | | | | | | | | | | |
| 野崎二号白菜 | | | | | | | | | | |
| 春黄作 | | | | | | | | | | |
| 頼黄90 | 強 | 強 | | | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 頼黄80 | 強 | 強 | | 強 | | 発生少 | 発生少 | 発生少 | | |
| 黄作80 | 強 | | 強 | 強 | 強 | | | | | |
| 夏一番 | | | | | | | | | (株) 武蔵野種苗園 | |
| 秋の祭典 | 強 | 強 | | 強 | | | 発生少 | | (株) 渡辺採種場 | |
| 黄愛90 | 強 | | | | | | | | | |
| 黄愛65 | 強 | 強 | | | | | 発生少 | | | |
| 黄愛75 | 強 | | | | | | | | | |
| 黄皇65 | 強 | | | | | | | | | |
| 黄皇 | 強 | | | | | | | | | |
| 黄皇85 | 強 | | | | | | | | | |
| ストロングCR75 | 強 | | | | | | | | | |
| CRオリンピア | 強 | | | | | | | | | |
| 聖徳 | | | | | | | | | | |
| 仲秋 | | | | | | | | | | |
| 晩秋 | | | | | | | | | | |
| オリンピア | | | | | | | | | | |
| めんこい | | | | | | 発生少 | | | | |
| 愛姫 | | | | | | | | | | |
| 夏蒔50日 | | | | | | | | | | |
| 新六号 | | | | | | | | | | |
| 松島純二号 | | | | | | | | | | |
| スプリンター | | | | | | | | | | |
| 春秋 | | | | | | | | | | |
| 松島新二号 | | | | | | | | | | |
| クリーム2号 | | | | | | | | | | |
| 春の祭典 | 強 | | | | | | | | | |
| はるさかり | | | | | | | | | | |
| 強黄 | | | | | | 発生少 | | | | |
| 冬到来75 | 抵 | | | | | 強 | 強 | | | 渡辺農事 (株) |
| 冬到来90 | 抵 | | | | | 強 | 強 | | | |
| 若獅子2号 | | | | | | | | | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載

原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 ブロッコリーの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 萎黄病 | 根こぶ病 | 黒腐病 | べと病 | 軟腐病 | 花腐病 | 花蕾腐敗病 | 黒斑細菌病 | 出典 (商社名) |
|-------------|-----|------|-----|-----|-----|------|-------|-------|-------------|
| おはよう | | | | | | | | | (株) サカタのタネ |
| グリーンキャノン | | | | | | | | | |
| グランドーム | | | | | | | | | |
| ピクセル | | | | | | | | | |
| 沢ゆたか | | | | | | | | | |
| ハートランド | | | | | | | | | |
| 緑嶺 | | | | | | | | | |
| 緑帝 | | | | | | | | | |
| ブロッコリー ショパン | | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | 山陽種苗(株) |
| シャスター | | | | | | | | | タキイ種苗(株) |
| ハイツSP | | | | | | | | | |
| トップギア | | | | | | | | | |
| フォレスト | | | | | | | | | |
| グリーンパラソル | | | | | | | | | |
| キャッスル | | | | | | | | | |
| グリーンビューティ | | | | | | | | | |
| メガドーム | | | | | | | | | |
| エンデバーSP | | | | | | | | | |
| チャレンジャー | | | | | | | | | |
| 玉麟 | | | | | | | 強 | | トキタ種苗(株) |
| 翠麟 | | | | | | | | | |
| 恵麟 | | | | | | | | | |
| 陽麟 | | | | | | | | | |
| 彩麟 | | | | 強 | | | 強 | 強 | |
| 瑞麟 | | | | | | | | | |
| T S X-0788 | | | | | | | | | |
| ミニッコリー | | | | | | | | | |
| 夢ひびき | | | | | | | 発生少 | | ナント種苗(株) |
| N B R-18 | | | | | | | | | |
| N B R-21 | | | | | | | | | |
| 丸緑80 | | | | | | | | | 丸種(株) |
| 丸緑90 | | | | | | | | | |
| 早生グリーンポート | 抵 | | | | | | | | |
| 中早生グリーンポート | 抵 | 強 | | | | | | | |
| 中生グリーンポート | 抵 | 強 | | | | | | | |
| ビッグトップ | | | | | | 発生極少 | | | |
| 緑山 | | | 耐 | 耐 | | | | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載

原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 きゅうりの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | うどんこ病 | べと病 | 疫病 | 褐斑病 | 炭そ病 | つる割れ病 | つる枯病 | ウイルス病 | 出典 (商社名) |
|------------|-------|-----|----|-----|-----|-------|------|-------|--------------|
| ほっきこう113 | 強 | | | | | | | | カネコ種苗(株) |
| 風神 | 強 | | | | | | | | |
| ほっきこう J P | | | | | | | | | |
| ほっきこう | | | | | | | | | |
| 四川 | | | | | | | | | |
| 四川2号 | | | | | | | | | |
| ピノキオ | | | | | | | | | |
| みやま地這 | | | | | | | | | |
| 夏しぐれ | | | | | | | | | |
| ラリーノ | 抵 | | | | | | | | |
| ラリーノPro | 抵 | | | | | | | | |
| ラリーノホワイト | 抵 | | | | | | | | |
| いろどり | 強 | 強 | | | | | | | |
| おとおみHG | | | | | | | | | |
| はるさき | | | | | | | | | |
| あおい節成地這 | | | | | | | | | |
| 夏秋の峰 | | | | | | | | | |
| おとおみAD | | | | | | | | | |
| あおい節成 | | | | | | | | | |
| あおい半促成 | | | | | | | | | |
| 近成あおい | | | | | | | | | |
| あおい中長 | | 抵 | | | | | | | |
| あおい抑制 | | | | | | | | | |
| 節成理想みどり | | 抵 | 抵 | | | | | | |
| 王朝 | | | | | | | | | |
| 東京みどり | | | | | | | | | |
| 夏3エース | | | | | | | | | |
| 短型半白節成 | | | | | | | | | |
| 神田四葉 | | | | | | | | | |
| アルファー | 中 | 強 | | 強 | | | | | (株) 久留米原種育成会 |
| アルファー節成 | 中 | 中 | | 中 | | | | | |
| 輝世紀 | 中 | 強 | | 強 | | | | | |
| 翠星節成2号 | 中 | 強 | | 強 | | | | | |
| きゅう太郎 | | | | | | | | ZTMV | |
| フレスコ100 | 中 | 強 | | 中 | | | | | |
| カレラ | 3 | 3 | | 4 | | | | | |
| 千秀2号 | 3 | 3 | | 4 | | | | | |
| 光神1 | 3 | 3 | | 3 | | | | | |
| 光神2 | 3 | 3 | | 3 | | | | | |
| ちなつ | 3 | 3 | | 5 | | | | | |
| エクセレント353 | 3 | 3 | | 3 | | | | | |
| マジカル1 | 3 | 3 | | 4 | | | | | |
| マジカル2 | 3 | 3 | | 5 | | | | | |
| 極光 | 3 | 3 | | 5 | | | | | |
| フリーダムハウス1号 | 極強 | 強 | | | | | | | (株) サカタのタネ |
| フリーダムハウス2号 | 極強 | 強 | | | | | | | |
| フリーダムハウス3号 | 極強 | 強 | | | | | | | |
| フリーダム露地1号 | 極強 | 強 | | | | | | | |
| 味さんご | 極強 | 強 | | | | | | | |
| 夏さんご | 強 | 強 | | | | | | | |
| 黒さんご | 極強 | 強 | | | | | | | |
| よしなり | 極強 | 極強 | | 耐 | | | | | |
| さつきみどり | 極強 | 強 | | | 強 | | 強 | | |
| サラ | 強 | 強 | | | | | | | |
| リル | 強 | 強 | | 耐 | | | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 きゅうりの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | うどんこ病 | べと病 | 疫病 | 褐斑病 | 炭そ病 | つる割れ病 | つる枯病 | ウイルス病 | 出典 (商社名) |
|-----------|-------|-----|----|-----|-----|-------|------|-------|---|
| 時無みどり胡瓜 | | | | | | | | | 山陽種苗（株） |
| 夏王みどり二号胡瓜 | | 強 | | | | | | 強 | |
| サマーエース胡瓜 | | | | | | | | | |
| 上高地5号 | 強 | | | | | | | | (財) 自然農法国際 研究開発センター |
| 上高地 | 強 | 強 | | | | | | | |
| パテシラズ3号 | 強 | 強 | | 強 | | | | | |
| パテシラズ2号 | 強 | 強 | | | | | | | |
| パテシラズ | 強 | 強 | | | | | | | |
| 今井節成 | 強 | 強 | | | | | | | |
| イボ美人 | 強 | | | | | | | | |
| 耐病四葉 | 強 | 強 | | | | | | | |
| 白黄ウリ | | | | | | | | | |
| 耐病露知らず | | | | | | | | | |
| 若緑地這 | 強 | 強 | | | | | | | |
| Vシャイン | 耐 | 耐 | | | | | | 強 | タキイ種苗（株） ※ 強耐：強い耐病性 中耐：中程度の耐病性 |
| Vアーチ | 耐 | 耐 | | 耐 | | | | 耐 | |
| Vロード | 耐 | 耐 | | | | | | 耐 | |
| 夏のめぐみ | 強 | 強 | | | | | | | |
| 夏ばやし | 強 | 強 | | | | | | | |
| つや太郎 | 強 | 強 | | | | | | | |
| V R 夏すずみ | 強 | 強 | | | | | | 中耐 | |
| 夏すずみ | 強耐 | 強耐 | | | | | | | |
| シャキット | 強 | 強 | | | | | | 強 | |
| つばさ | 強 | 強 | | | | | | | |
| 北進 | | | | | | | | | |
| 南進 | | | | | | | | | |
| スライス | 強 | 強 | | | | | | 強 | |
| 鈴成四葉 | | | | | | | | | |
| さちかぜ | | | | | | | | | |
| あさかぜ | | | | | | | | | |
| 京しずく | | | | 強 | | | | | |
| 半白節成 | | | | | | | | | |
| 青長系地這 | 強 | 強 | | | | | | | |
| 霜知らず地這 | 強 | 強 | | | | | | | |
| つやみどり | 強 | 強 | | | | | | | |
| 彩みどり | | | | | | | | | |
| バリQ | | | | | | | | | |
| ミニQ | | | | | | | | | |
| ミドルQ | | | | | | | | | |
| ナノQ | | | | | | | | | |
| ピコQ | | | | | | | | | |

（次ページへ）

（前ページ続き）

付表 きゅうりの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | うどんこ病 | べと病 | 疫病 | 褐斑病 | 炭そ病 | つる割れ病 | つる枯病 | ウイルス病 | 出典 (商社名) |
|----------|-------|-----|----|-----|-----|-------|------|-------------------|-------------|
| コレクト | 耐 | 発生少 | | 耐 | | | | | (株) ときわ研究場 |
| アグニ | 耐 | 発生少 | | 耐 | | | | | |
| クラージュ | 耐 | 発生少 | | 耐 | | | | | |
| クラージュ2 | 耐 | 強 | | 耐 | | | | | |
| グランツ | | | | | | | | | |
| アドニス | 耐 | 発生少 | | | | | | | |
| アドニスK | 耐 | 発生少 | | 耐 | | | | | |
| ディソール | 耐 | 発生少 | | 耐 | | | | | |
| ボルタ | 耐 | 発生少 | | | | | | | |
| インスパイヤー | | | | | | | | | |
| エテルノ | | | | | | | | | |
| モンドール | | | | | | | | | |
| はるか | | | | | | | | | |
| アンコール8 | | | | | | | | | |
| アイリス | | | | 耐 | | | | | |
| ズバリ163 | | | | | | | | | |
| プロジェクトX | | | | | | | | | |
| モア | 耐 | 強 | | | | | | | |
| ときわ888 | | | | | | | | | |
| インパクト | | | | | | | | | |
| アンコール10 | | | | | | | | | |
| オペラ | | | | | | | | | |
| ときわ節成 | | | | | | | | | |
| 光琳 | | | | | | | | | |
| 光耀 | 耐 | 発生少 | | 発生少 | | | | 耐 | |
| 光望 | 耐 | 発生少 | | | | | | 耐 | |
| 大望I | 耐 | 発生少 | | | | | | 耐 | |
| パイロット | | | | | | | | | |
| 南極1号 | | | | | | | | | |
| ときわ光明 | 耐 | 強 | | 強 | | | | 耐 | |
| ときわ333 | 耐 | | | | | | | | |
| 金星 | 耐 | 発生少 | | | | | | | |
| パイロット103 | | | | | | | | | |
| プロスパー1 | | | | 強 | | | | | |
| プロスパー2 | | | | 強 | | | | | |
| 新北星 | | | | | | | | | |
| 艶香 | 耐 | 発生少 | | 強 | | | | 耐 | |
| 光の季 | 耐 | 発生少 | | 発生少 | | | | 耐 | |
| 光のしずく | 耐 | 耐 | | | | | | 耐 | |
| ベランダきゅうり | 耐 | | | | | | | | |
| うぐいす | | | | | | | | | |
| プチット | 耐 | | | | | | | | |
| ターキーグリーン | 極強 | 極強 | | 強 | | | | 強(ZYMV) 中(CMV) | (株) トーホク |
| マイルドターキー | 極強 | 極強 | | 強 | | | | 強(ZYMV) 中(CMV) | |
| 北斗星 | 強 | 強 | | | | | | 中(CMV) | |
| あおば節成 | 強 | 強 | | | | | | | |
| 新ときわ | 強 | 強 | | | | | | | |
| なるなる | 強 | 強 | | | | | | | ナント種苗(株) |
| ケンシロウ | 耐 | 耐 | | | | | | ZYMV耐 | |
| 八重成り四葉 | | | | | | | | | |
| 大和三尺きゅうり | | | | | | | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 きゅうりの抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | うどんこ病 | べと病 | 疫病 | 褐斑病 | 炭そ病 | つる割れ病 | つる枯病 | ウイルス病 | 出典 (商社名) |
|----------------|-------|-----|----|-----|-----|-------|------|-------|-------------|
| ホワイトィ25 | | | | | | | | | (株) 大和農園 |
| 飛竜 | 強 | 強 | | | | | | | |
| あずま3号 | | | | | | | | | |
| 巨大太丸 | | | | | | | | | |
| 新竜 | | | | | | | | | |
| 好男子 | | | | | | | | | |
| 八重成山東 | | | | | | | | | |
| にっぽん | | | | | | | | | |
| リザーブ | | | | | | | | | |
| 全国四葉 | | | | | | | | | |
| きゅう太郎 | | | | | | | | | 丸種(株) |
| ぼりっ娘 | | | | | | | | | |
| 味一角 | 強 | | | | | | | | |
| 永緑 | | | | | | | | | |
| 星光 | | | | | | | | | |
| 雄飛 | | | | | | | | | |
| つるぎ五号 | | | | | | | | | |
| 近成山東 | | | | | | | | | |
| 近成四葉 | | | | | | | | | |
| 山東四葉 | | | | | | | | | |
| 四葉 | | | | | | | | | |
| 聖護院節成 | | | | | | | | | |
| 相模半白節成 | | | | | | | | | |
| ときわ青長地這 | | | | | | | | | |
| 加賀青長節成胡瓜 | | | | | | | | | |
| 夏秋みどり106 | | | | | | | | | (株) 渡辺採種場 |
| 夏元気 | 強 | 強 | | | | | | | |
| 豊算四葉 | | | | | | | | | |
| 青函白いぼ | | | | | | | | | |
| 光風 | | | | | | | | | 渡辺農事(株) |
| 光風促成1号 | | | | | | | | | |
| 光風3号 | | | | | | | | | |
| ニュー涼風 | 強 | | | | | | | | |
| 濃緑新ときわ | | | | | | | | | |
| N X - C X 1401 | 強 | 強 | | 強 | | | | ZTMV耐 | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載

原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M 実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 ほうれんそうのべと病及び萎凋病に対する抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | べと病抵抗性 | 萎凋病 | 出典 (商社名) | |
|-------------|-----------------------------|-----|-------------|-----------|
| 団十郎 | R1～10 | | 朝日工業(株) | |
| マイスター | R1～7 | | | |
| ウルトラスター | R1～7 | 強 | | |
| 秋つくり | R1～7 | | | |
| アステアセブン | R1～7 | | | |
| アデル | R1～7 | | | |
| 七之助 | R1～7 | | | |
| スーパースター | R1～5 | 強 | | |
| 大繁盛 | R1～7 | 強 | | |
| ヘビー級 | R1～7 | | | |
| 雄星 | R1～7 | 強 | | |
| グリーンホープ | R1～8 | | カネコ種苗(株) | |
| サマーズ | R1～8 | 強耐 | | |
| サンパワー | R1～5 | | | |
| サンピア | R1～4 | | | |
| サンピア10 | R1～4 | | | |
| サンホープセブン | R1～8 | | | |
| サンフレッシュ | R1～7 | | | |
| ハイサンピア | R1～8 | | | |
| ハンター | R1～7 | | | |
| パドック | R1～7 | | | |
| 晩抽サンホープ | R1～5, 8 | 強 | | |
| アクティブ | R1, 3 | 強 | | |
| アグレッシブ | R1～7 | | | (株)サカタのタネ |
| アスパイアー | R1～5 | | | |
| アトラス | R1 | | | |
| アトランタ | R1～4, (5, 7) ※R5, 7には耐病性 | | | |
| オシリス | R1～10 | | | |
| カイト | R1～8 | 耐 | | |
| クロノス | R1～7 | | | |
| ソロモン | R1, 3 | | | |
| トリトン | R1～8 | 耐 | | |
| トラッド | R1～5 | | | |
| トラッド7 | R1～7 | | | |
| パレード | R1 | | | |
| パンドラ | R1～4, (5, 7) ※R5, 7には耐病性 | | | |
| ブライトン | R1～4 | 耐 | | |
| ブラトン | R1～4, (5, 7) ※R5, 7には耐病性 | | | |
| プログレス | R1～8 | | | |
| まほろば | R1, 3 | | | |
| ミストラル | R1～5, 8(7) ※R7には耐病性 | | | |
| ミラージュ | R1～7 | 強耐 | | |
| リビエラ | R1～5 | | | |
| 晩抽バルク | R1 | | | |
| サンライト | R1, 3 | | | |
| ディンプル | R1, 3 | | | |
| 赤茎ミンスター | R1～4 | | 山陽種苗(株) | |
| おいしい次郎丸法蓮草 | | | | |
| サマードリーム法蓮草 | R1～5 | 耐 | | |
| サマードリーム7法蓮草 | R1～7 | 耐 | | |
| ファイヤー7法蓮草 | R1～7 | | | |
| ワンダー7法蓮草 | R1～7 | | | |
| サンダー7法蓮草 | R1～7 | | | |
| イーグル10法蓮草 | R1～10 | | | |
| アドリブ11法蓮草 | R1～11 | | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 ほうれんそうのべと病及び萎凋病に対する抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | べと病抵抗性 | 萎凋病 | 出典 (商社名) |
|------------|--------------------|-----|-------------|
| アクセラ | R1~7 | | タキイ種苗（株） |
| アンナ | | | |
| エリナ | R1~7 | | |
| おてもやん | R1, 3 | | |
| 強力オーライ | R1, 3 | | |
| サマースカイ R 7 | R1~8 | | |
| デュエル | R1~8 | | |
| ニューアンナ R 4 | R1~4 | | |
| 晩抽サマースカイ | R1~7 | | |
| 弁天丸 | R1~10 | | |
| 牛若丸 | R1~10 | | |
| メガトン | | | |
| トライ | | | |
| オーライ | | | |
| おかめ | | | |
| 早生サラダあかり | | | |
| 次郎丸 | | | トキタ種苗（株） |
| T S X-606 | R1~7 | | |
| エルサ | R1~11, 13 | | |
| 寒味 | R1~7 | | |
| クラウド | R1~11, 13 | | |
| ジョーカー | R1~4 | 耐 | |
| ジョーカーセブン | R1~7 | 強 | |
| スパイダー | R1~7, 9, 11, 13 | | |
| スーパーヴィジョン | R1~9, 11~13 | | |
| プリウスアーリー7 | R1~7 | | |
| プリウスセブン | R1~7 | | |
| ビリーブ II | R1~7 | | |
| 丸粒日本 | R1~9, 11, 12 | | (株) トーホク |
| サブライズ | R1~5, 8, 9, 11, 12 | 耐 | |
| サブライズ7 | R1~12 | 耐 | |
| 耐病ニュー豊葉 | R1~5, 8, 9, 11, 12 | 耐 | |
| スーパーアーリーナ7 | R1~12 | 耐 | |
| フォルティシモ | R1~12 | 強 | |
| クライム | R1~12 | | |
| モデラート | R1~12 | 耐 | |
| ネオサイクロン | R1~12 | | |
| アイルトン9 | R1~9, 11~14 | | ナント種苗（株） |
| プロースト11 | R1~11, 13, 15 | | |
| シューマツハ11 | R1~11, 13, 15 | | |
| ガリレオ7 | R1~7 | | |
| ゴーゴーサマー7 | R1~7 | | |
| サマーガッツ | R1, 3 | | |
| スクープ | R1~4 | | |
| タキシード7 | R1~7 | | |
| パスワード7 | R1~7 | | |
| パワーアップ7 | R1~7 | | |
| ベストイレブン | R1~11, 13, 15 | | |
| マルス | | | |
| 万葉 | | | |
| N S P-96 | R1~11, 13, 15 | | |
| ミッキー7 | R1~7 | | (株) 日本農林社 |
| シールド7 | R1~7 | | |

(次ページへ)

（前ページ続き）

付表 ほうれんそうのべと病及び萎凋病に対する抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | べと病抵抗性 | 萎凋病 | 出典 (商社名) |
|---------------|-------------|-----|-------------|
| プレミオ8 | R1~8 | | 丸種（株） |
| 赤茎味サラダほうれんそう | R1~10 | | |
| アジア | | | |
| 味サラダほうれんそう | R1~4 | | |
| シズラー | R1~5 | | |
| 次郎丸 | | | |
| 新日本 | | | |
| スーパー大緑 | R1~3, 5 | | |
| スパルタ | R1~3 | | |
| トライアスロン | R1~7, 9 | | |
| 夏用味サラダほうれんそう | R1~9 | | |
| ひかり | | | (株) 武蔵野種苗園 |
| イーハセブン | R1~7 | | |
| 赤軸サラダ | R1~10 | | |
| ブレード10 | R1~10 | | (株) 渡辺採種場 |
| スーパートニック | R1~7 | | |
| サマービクトリー7 | R1~7 | | |
| アクセント | R1~7 | | |
| サマービクトリー | R1~5 | | |
| バルチック7 | R1~7 | | |
| 朝霧7 | R1~7 | | |
| 朝霧 | | | |
| ビレネー | R1, 3 | | |
| 冬霧7 | R1~7 | | |
| アーバイン | R1~10 | | |
| 晩抽食彩 | R1~10 | | |
| ピクシー | R1~7, 9, 11 | | |
| サムライ | R1~7, 9, 11 | | |
| ニューブリッジ | R1~7, 9, 11 | | |
| プライド | R1~7, 9, 11 | | |
| シナジー7 | R1~7, 9, 11 | | |
| マーメイド7 | R1~7, 9, 11 | | |
| マグワイヤ | R1~4 | | |
| メリット86 | R1~3 | | |
| 食彩プレミアム | R1~11 | | |
| N X - S P 440 | R1~11 | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載

原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

べと病の欄のRはレースの略, 数値はレース名を示し, 所定のレースに対して抵抗性又は耐病性を有することを示す。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 トマト、ミニトマト及び台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 青枯病 | 萎凋病 | | | 根腐萎凋病 | 半身萎凋病 | ネブセンチュウ | 葉かび病 | 斑点病 | 褐色根腐病 | 輪紋病 | 黄化えそ病 | 黄化葉巻病 | TMV (遺伝子型) | 出典 (商社名) | |
|-------------|-----|-----|----|----|-------|-------|---------|-----------|-----|-------|-----|-------|-------|------------|------------------------|-------------------------------|
| | | R1 | R2 | R3 | | | | | | | | | | | | |
| 大玉トマト | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 朝日和あい | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | 朝日工業(株) | |
| 朝日和もえか | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 朝日和10 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| アニモTY-10 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| アニモTY-12 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| ビットリオ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| カネコ種苗(株) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| いちふく | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | cf9 | | | | | | Tm-2a | カネコ種苗(株) | |
| S R彩福 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | cf9 | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| 甘福 | | 耐 | | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| 至福 | | 耐 | | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| C f 優福 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | cf9 強耐 | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| 招福 | | 耐 | | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| 征福 | | 耐 | | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| 耐病竜福 | 中耐 | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | cf9 強耐 | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| 招福パワー | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| サンロード | △ | ○ | | | ○ | △ | 耐 | △ | ○ | | | | | Tm-2 | | (株) サカタのタネ ※○：抵抗性 △：耐病性 |
| 秀麗 | △ | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | △ | | Tm-2a | | |
| りんか409 | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| ルネッサンス | | ○ | | | ○ | | | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| ごほうび | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| バルト | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| マイロック | △ | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 麗夏 | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 麗旬 | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | ○ | ○ | | | △ | | Tm-2a | | |
| 麗容 | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| ろくさんまる | | ○ | ○ | | ○ | 耐 | 耐 | △ | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 山陽種苗(株) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 南光二号トマト | | 抵 | | | | | | | | | | | | | (財) 自然農法国際 研究開発センター | |
| 紅旬 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2a+耐 | | |
| 南桜2号 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2a+耐 | | |
| 妙紅 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2a+耐 | | |
| メニーナ | | 耐 | | | 耐 | 耐 | | | | | | | | Tm2+耐 | タキイ種苗(株) | |
| 桃太郎 | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | Tm-1 | | |
| ハウス桃太郎 | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| CFハウス桃太郎 | | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎ギフト | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎グランデ | △ | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎ゴールド | | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎サニー | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎セレクト | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎なつみ | | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| CF桃太郎はるか | | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎ピース | | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | Ty-3a | | Tm-2a | | |
| 桃太郎ファイト | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf4 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| CF桃太郎ファイト | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎ヨーク | | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf4 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| CF桃太郎ヨーク | | ○ | ○ | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎8 | △ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| CF桃太郎J | | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 桃太郎T93 | △ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| 強力米寿 | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | Tm-1 | | |
| サターン | | ○ | | | | | | | ○ | | | | | Tm-1 | | |
| ホーム桃太郎 | △ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | Tm-2a | | |
| ホーム桃太郎EX | △ | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | | | | | | Tm-2a | | |
| トキタ種苗(株) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 豊作祈願1102 | | 抵 | 抵 | | | | | 抵 | 耐 | | | | 耐 | Tm-2a | | |
| 豊作祈願1103 | | 抵 | 抵 | | | | | 抵 | 耐 | | | | 耐 | Tm-2a | | |
| おおみや163 | | 抵 | | | 抵 | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| 彩果 | | 抵 | | | 抵 | 抵 | | | 耐 | | | | | Tm-2a/+ | | |
| ナント種苗(株) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 風林火山 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| 風林火山セブン | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| 大安吉日 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| 大安吉日零四 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| 大安吉日零五 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | Tm-2a | | |
| R A F I T O | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | Tm-2a | | |

(次ページへ)

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 トマト、ミニトマト及び台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 青枯病 | 萎凋病 | | | 根腐萎凋病 | 半身萎凋病 | ネコフセンチュウ | 葉かび病 | 斑点病 | 褐色根腐病 | 輪紋病 | 黄化えそ病 | 黄化葉巻病 | TMV (遺伝子型) | 出典 (商社名) |
|-------------|-----|-----|----|----|-------|-------|----------|------|-----|-------|-----|-------|-------|------------|-------------|
| | | R1 | R2 | R3 | | | | | | | | | | | |
| 大玉トマト | | | | | | | | | | | | | | | |
| 華美 | 強 | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | cf9 | 耐 | | | | | | Tm-2a | 丸種 (株) |
| 優美 | | 耐 | | | 耐 | 耐 | | 耐 | | | | | | Tm-2a | |
| 秀美 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 強力みのり | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大型福寿 | | | | | | | | | | | | | | | |
| みそら | | ○ | ○ | | ○ | △ | | ○ | | | | | | Tm-1 | みかど協和 (株) |
| みそら64 | | 抵 | 抵 | | 抵 | 強 | | 抵 | | | | | | Tm-2a | |
| TY902トマト | | | | | | | | | | | | | | | |
| TY902トマト | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 耐 | 耐 | 抵 | | | | | 耐 | Tm2a | (株) むさし育種農場 |
| おおひめ | 抵 | 抵 | 抵 | 耐 | 抵 | 抵 | R1~3 | | | | | | | Tm/+ | |
| 甘太郎 Jr. | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm/+ | |
| 甘太郎 | | 抵 | | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm/+ | |
| 841トマト | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2a | |
| 823トマト | | 抵 | 抵 | | 抵 | 耐 | 強 | 抵 | | | | | | Tm2a | |
| 玉三郎 | | 抵 | | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm/+ | |
| 大王 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | | | | | | | | | Tm/+ | |
| 大吉 | 抵 | 抵 | | | 抵 | 抵 | | | | | | | | Tm/+ | |
| 木熟麗玉2号 | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | | | | | | | | Tm/+ | |
| 木熟麗玉 | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | | | | | | | | Tm/+ | |
| 木熟桃玉2号 | | 抵 | 抵 | | 抵 | 耐 | | | | | | | | Tm | |
| 木熟桃玉 | | 抵 | | | 抵 | 抵 | | | | | | | | Tm/+ | |
| レリッシュ・セブン | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | | | | 耐 | | | | | Tm2a /+ | |
| いちひめ | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm | |
| 旭こまち | 耐 | 抵 | 抵 | 耐 | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm | |
| 大助 | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | | 抵 | | | | Tm2a | |
| 強力改良大型東光 | | 抵 | | | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | Tm | |
| 強力麗玉VC | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | | | | | | | | Tm | |
| 強力旭光 | | 抵 | | | | 抵 | 抵 | 抵 | | 抵 | | | | | |
| 玉光デリシャス | | 抵 | | | | | | 抵 | | 抵 | | | | Tm2a | |
| ファーストタム502 | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm2a | |
| 強力ワスファースト天光 | | 抵 | | 抵 | | | | 抵 | | 抵 | | | | Tm2a | |
| 強力日光2号 | | 抵 | | | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | |
| 強力光玉 | | 抵 | | 耐 | | 抵 | 抵 | | | 抵 | | | | Tm2a | |
| アニモTY-10 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | cf9 | 耐 | | | | 耐 | | Tm-2a | (株) 武蔵野種苗園 |
| アニモTY-12 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | cf9 | 耐 | | | | 耐 | | Tm-2a | |
| AMS-009 | | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | cf9 | 耐 | | | | 耐 | | Tm-2a | |
| セレナーデ | | 耐 | | | | | | 耐 | | | | | | Tm-2a | |
| CF北王 | | | | | | | cf9 | | | | | | | | (株) 渡辺採種場 |

(次ページへ)

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 トマト、ミニトマト及び台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 青枯病 | 萎凋病 | | | 根腐萎凋病 | 半身萎凋病 | ネコフセンチュウ | 葉かび病 | 斑点病 | 褐色根腐病 | 輪紋病 | 黄化えそ病 | 黄化葉巻病 | TMV (遺伝子型) | 出典 (商社名) | |
|-------------|-----|-----|----|----|-------|-------|----------|--------|-----|-------|-----|-------|-------|------------|-------------------------------|----------|
| | | R1 | R2 | R3 | | | | | | | | | | | | |
| 中玉～ミニトマト | | | | | | | | | | | | | | | | |
| AMS-100 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | | | | ○ | Tm-2a | 朝日工業(株) | |
| AMS-101 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | ○ | | | | ○ | Tm-2a | | |
| リトルジェムダブル | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | | | | | Tm-2a | | |
| リトルジェムTY | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | cf9 | | | | | ○ | Tm-2a | | |
| ドルチェ | | 抵 | | | | | | | 抵 | | | | | Tm2a | (公財) 園芸植物育種研究所 | |
| CFドルチェ | | | 抵 | | | | | cf9 | | | | | | Tm2a | | |
| ネネ | | 抵 | | | | | | | 抵 | | | | | Tm2a | | |
| CFネネ | | | | | | | | cf9 | | | | | | Tm2a | | |
| ブラレ | | | | | | | | cf9 | | | | | | Tm2a | | |
| ベにすずめ | | 抵 | 抵 | | | 抵 | | cf9 | | | | | | Tm2a | | |
| イエローオーレ | | | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | カネコ種苗(株) |
| イエローミミ | | 耐 | | | | | | | | | | | | Tm-2 | | |
| オレンジオーレ | | | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| キャンドルライト | | 抵 | 抵 | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| スイートルビー | | 耐 | 耐 | | | 耐 | 耐 | cf9 | | | | | | Tm-2a | | |
| パスタ | | | | | | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| バルチェ | | 耐 | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| ルビーラッシュ | | | | | | 耐 | 耐 | cf9 | | | | | | Tm-2a | | |
| レッドオーレ | | 耐 | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| レッドホープ | | 耐 | 耐 | | | | 耐 | cf9 強耐 | | | | | | Tm-2a | | |
| レッドボーイ | | 耐 | 耐 | | | 耐 | 耐 | cf9 強耐 | | | | | | Tm-2a | | |
| レッドボレロ | | 耐 | 耐 | | | | 耐 | cf9 強耐 | | | | | | Tm-2a | | |
| レッドルビー | | 耐 | 耐 | | | 耐 | 耐 | cf9 強耐 | | | | | | Tm-2a | | |
| シンディースイート | | ○ | ○ | | △ | | 耐 | △ | ○ | | | | | Tm-2a | (株) サカタのタネ ※○：抵抗性 △：耐病性 | |
| シンディーオレンジ | | ○ | ○ | | | ○ | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| アイコ | | ○ | ○ | | | | | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| イエローアイコ | | | | | | | | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| イエローキャロル | | | | | | | | | △ | | | | | Tm-2 | | |
| オレンジキャロル | | | | | △ | | | | △ | | | | | Tm-2 | | |
| キャロル7 | | ○ | ○ | | | △ | 耐 | | △ | | | | | Tm-2a | | |
| キャロル10 | | ○ | | | | | 耐 | cf9 | △ | | | | | Tm-2a | | |
| キャロルクイーン | | ○ | | | | △ | 耐 | | △ | | | | | Tm-2a | | |
| キャロルスター | | ○ | | | ○ | | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2 | | |
| キャロルパッション | | ○ | | | ○ | | 耐 | cf9 | ○ | | | | | Tm-2 | | |
| ミニキャロル | | | | | | | | | △ | | | | | Tm-2 | | |
| カンパルトマト | | 耐 | | | | 耐 | | | | | | | | Tm-2 | | 山陽種苗(株) |
| こくあじトマト | | | | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| シシリアンルージュ | | 耐 | | | | 耐 | | | | | | | | Tm-1 | | |
| トスカーナバイオレット | | 耐 | | | | 耐 | | | | | | | | Tm-1 | | |
| ナイアガラスイート | | | | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| ピッコラカナリア | | | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| サンティオ | | 耐 | | | | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2/+耐 | | |
| チャコ | | 耐 | 耐 | | | | 耐 | | | | | | | Tm2耐 | (財) 自然農法国際 研究開発センター | |
| ハートハート | | 耐 | 耐 | | | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2/+耐 | | |
| ブラジルクック | | 抵 | | | | 抵 | | | | | | | | | | |
| ブラジルミニ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ボニータ | | 耐 | | | | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm2/+耐 | | |
| CFココ | | ○ | | | | | ○ | cf9 | △ | | | | | Tm-2a | | |
| 千果 | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | Tm-2a | | |
| 千果99 | | ○ | | | | | ○ | cf9 | △ | | | Ty-2 | | Tm-2a | タキイ種苗(株) | |
| オレンジ千果 | | ○ | | | | | ○ | cf9 | △ | | | | | Tm-2a | | |
| CF千果 | | ○ | | | | | ○ | cf9 | △ | | | | | Tm-2a | | |
| クックゴールド | | ○ | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| イエローピコ | | | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| フルティカ | | | | | | | ○ | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| ペペ | | ○ | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| ルイ60 | | ○ | ○ | | | | ○ | cf9 | ○ | | | | | Tm-2a | | |

（次ページへ）

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 トマト、ミニトマト及び台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 青枯病 | 萎凋病 | | | 根腐萎凋病 | 半身萎凋病 | ネフセンチュウ | 葉かび病 | 斑点病 | 褐色根腐病 | 輪紋病 | 黄化えそ病 | 黄化葉巻病 | TMV (遺伝子型) | 出典 (商社名) | |
|---------------|-----|-----|----|----|-------|-------|---------|------|-----|-------|-----|-------|-------|------------|-------------|-----------|
| | | R1 | R2 | R3 | | | | | | | | | | | | |
| 中玉〜ミニトマト | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サングレーブ | | | | | | | | | | | | | | Tm-1 | トキタ種苗 (株) | |
| サングレーブ108 | | | | | | | | 強 | | | | | | Tm-2a | | |
| サングレーブ109 | | | | | | | | 強 | | | | | | Tm-2a | | |
| サンチェリー-エキストラ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンチェリー-スマイル | | 抵 | | | | | 抵 | 抵 | | | | | | Tm-2a | | |
| サンチェリー-ピュア | | 抵 | | | | | | 抵 | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| サンチェリー-ピュアプラス | | 抵 | | | | | | 抵 | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| サンチェリー-プレミアム | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サンチェリー-250 | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| TYボンジョールノ115 | | 抵 | 抵 | | | 抵 | 抵 | | | | | 耐 | | Tm-2a | | |
| TSX-110 | | | | | | | | 抵 | | | | | | Tm-2a | | |
| サンゴールド | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| チェリーゴールド | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm-2a/+ | | |
| リヨピンボン | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | Tm-2a | | ナント種苗 (株) |
| ピンキーカクテル | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | Tm-2a | | |
| TY花鳥風月 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | Tm-2a | | |
| TY百果繚乱 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | Tm-2a | | |
| NMT-032 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | Tm-2a | | |
| NMT-022 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | Tm-2a | | |
| NMT-033 | | | | | | | | | 耐 | | | 耐 | | Tm-2a | | |
| プチキュア | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | Tm-2a | | |
| ピンキー | | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | Tm-2a | | |
| きら〜ず | | 耐 | | | | | | | | | | | | Tm-2a | | |
| ティンカーベル | | 耐 | | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| カナリーベル | | 耐 | | | | | 耐 | 耐 | | | | | | Tm-1 | | |
| TYまなつレッド | | 抵 | 抵 | | | | | | | | | 耐 | | Tm-2a | (有) フタバ種苗卸部 | |
| グラッセレッド | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| グラッセオレンジ | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| TYグラッセレッド | | 抵 | | | | | | | | | | 耐 | | Tm-2a | | |
| TYグラッセオレンジ | | 抵 | | | | | | | | | | 耐 | | Tm-2a | | |
| キャンディーレッド | | | | | | | | | | | | 耐 | | Tm-2a | | |
| 甘っこ | | | | | | | | | | | | | | | 丸種 (株) | |
| ワンダーボール50 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| なつめっ娘 | | 耐 | | | | | | cf9 | | | | | | Tm-2a | | |
| オレンジなつめっ娘 | | 耐 | | | | | | cf9 | | | 耐 | 耐 | | Tm-2a | | |
| おずこま | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ちびっこ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小鈴SP | | 抵 | | | | | | 強 | | | | | | Tm-2a | みかど協和 (株) | |
| 鈴姫 | | 抵 | | | | | | 強 | | | | | | Tm-2a | | |
| ラブリー藍 | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 強 | 抵 | | | | | | Tm-2a | | |
| ラブリーさくら | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 強 | 抵 | | | | | | Tm-2a | | |
| Cf小鈴 | | 抵 | | | | | | 強 | 抵 | | | | | Tm-2a | | |
| サンレッド | 耐 | 抵 | | | | 抵 | | | | | | | | Tm2 | | |
| プチオレ | | 抵 | | | | 抵 | | 耐 | | | | | | Tm2 | (株) むさし青種農場 | |
| 811ミニトマト | | 抵 | | | | | | 強 | | | | | | Tm-2 | | |
| 813ミニトマト | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm2a | | |
| 814ミニトマト | | 抵 | | | | | | | | | | | | Tm | | |
| AMS-100 | | | | | | | | | | | | 耐 | | | (株) 武蔵野種苗園 | |
| ホームルビー | | | | | | | | | | | | | | | (株) 大和農園 | |
| ノエル | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フェロー | | | | | | | | | | | | | | | | |
| サブレ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| なつのこま | | 抵 | | | | 抵 | | | | | | | | | | |
| チャペル | | | | | | | | | | | | | | | | |
| にたきこま | | 抵 | 抵 | | | 抵 | | | | | | | | | | |
| Mr. 浅野のけっさく | | | | | | | | | | | | | | Tm-1 | (株) 渡辺採種場 | |
| ミニルック | | | | | | | | 強 | | | | | | Tm-2a | | |
| CFプチぶよ | | | | | | | | cf9 | | | | | | Tm-1 | | |

(次ページへ)

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

（前ページ続き）

付表 トマト、ミニトマト及び台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 青枯病 | 萎凋病 | | | 根腐萎凋病 | 半身萎凋病 | ネコフセンチュウ | 葉かび病 | 斑点病 | 褐色根腐病 | 輪紋病 | 黄化えそ病 | 黄化葉巻病 | TMV (遺伝子型) | 出典 (商社名) | |
|-----------|-----|-----|----|----|-------|-------|----------|------|-----|-------|-----|-------|-------|---------------|---|---|
| | | R1 | R2 | R3 | | | | | | | | | | | | |
| 台木 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| がんばる根 | 8 | ○ | △ | | ○ | △ | ○ | | | 3 | | | | Tm-2 | 愛三種苗 (株) | |
| がんばる根3号 | 6 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 6 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根11号 | 7 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 6 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根トリパー | 8 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 7 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根バクト | 9 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 5 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根フォルテ | 9.8 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 6 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根クリフ | 7 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 8 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根バルテ | 7 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 6 | | | | Tm-2 | | |
| がんばる根カリス | 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 5 | | | | Tm-2 | | |
| スパイク | 5 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 9 | | | | Tm-2 | | |
| スパイク23 | 5 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 9 | | | | Tm-2 | | |
| ティームワン | 5 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 3 | | | | Tm-1 | | |
| あいぼう | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | Tm-2a | | 朝日工業(株) |
| あおおに | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | Tm-2a | | |
| あかおに | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | Tm-2 | | |
| いいしごと | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | Tm-2a | | |
| 台木命 | ◎ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | Tm-2a | | |
| 根くらべ | 強耐 | 耐 | 強耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2 Tm-2a | カネコ種苗 (株) | |
| 助人 | 耐 | 耐 | 耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | 耐 | | | | | Tm-2 Tm-2a | | |
| スーパー良縁 | 強耐 | 耐 | 強耐 | | 耐 | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-2 Tm-2a | | |
| 良縁 | 強耐 | 耐 | | | 耐 | | 耐 | | | | | | | Tm-2 Tm-2a | | |
| リリーフェース | 耐 | 耐 | 耐 | | | 耐 | 耐 | | | | | | | Tm-1 | | |
| サポート | 強耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | (株) サカタのタネ | |
| ジョイント | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 耐 | 耐 | | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| バックアタック | 耐 | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | 耐 | | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| ブロック | 耐 | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | 耐 | | 耐 | | | | | Tm-2a | | |
| フレンドシップ | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 耐 | | 強耐 | | | | | Tm-2a | | |
| マグネット | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 耐 | | 強耐 | | | | | Tm-2a | | |
| レシーブ | 強耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 耐 | | | | | | | Tm-2a | | |
| グリーンフォース | 8 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 7 | | | | Tm-2a | | |
| グリーンセーブ | 9 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 7 | | | | Tm-2a | タキイ種苗(株) ※表中1~9の数値は 強弱の程度を示す (弱1←→強10) | |
| アンカーT | 6 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 1 | | | | Tm-2a | | |
| 影武者 | 5 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 1 | | | | Tm-2a | | |
| ガードナー | 7 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 5 | | | | Tm-2a | | |
| グリーンガード | 9 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 7 | | | | Tm-2a | | |
| 耐病新交1号 | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | Tm-1 | | |
| ドクターK | 1 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 8 | | | | Tm-2a | | |
| バスバ | 7 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 1 | | | | Tm-2a | | |
| ヘルパーM | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | | Tm-1 | | |
| ボランチ | 9 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 3 | | | | Tm-2a | | |
| Bバリア | 9 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | 1 | | | | Tm-2a | | |
| BF興津101号 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| LS-89 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | Tm-1 | | |
| キャディ1号 | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | | 抵 | | 耐 | | | | | Tm-2a/+ | | トキタ種苗(株) |
| 足じまんZ | 6 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | | | 8 | | | | Tm-2a | | みかど協和(株) ※◎:抵抗性 ○:耐病性 (1~9の数値は 強弱の程度を示す (弱1←→強10)) |
| 足じまんダッシュ | 7 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | | | 5 | | | | Tm2 | | |
| 足じまんSS | 8 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | | 4 | | | | Tm2 | | |
| つよい根 | 5 | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | ○ | | | 2 | | | | Tm1 | | |
| マイティ | 耐 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 耐 | | 耐 | | | | | Tm | (株) むさし育種農場 | |
| デュエット0 | 抵 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm | | |
| KC07-3号 | | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | 抵 | | | 強耐 | | | | | Tm-2 | | |
| PFN1号 | 極強 | 抵 | | | | | 抵 | | | | | | | | | |
| バスター | | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 耐 | | 耐 | | | | | Tm2 | | |
| 新カッブルT | 抵 | 抵 | 抵 | | 抵 | 抵 | 抵 | | | | | | | Tm2 | | |
| PFN T1号 | 抵 | 抵 | | | | | 抵 | | | | | | | Tm2 | | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載
原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。
葉かび病の欄のアルファベット及び数値はレース名を示すが, レース名が不明なものは○又は耐で示す。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 ピーマン及び台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | TMV | ToMV | TSWV | PMMoV | 青枯病 | 疫病 | ネコフセンチュウ | 出典 (商社名) | |
|--------------------|-----|------|------|--------|-----|----|----------|---------------------|----------------|
| ピーマン | | | | | | | | | |
| にしき | | | | L1 | | | | (公財) 園芸植物育種研究所 | |
| ちぐさ | 抵 | | | L1 | | | | | |
| あきの | | | | L1 | | | | | |
| みはた2号 | 抵 | 抵 | | L3 | | | | | |
| 園研甘長 | | | | L1 | | | | | |
| さらら | | | | L3 | | | | | |
| みおぎ | | | | L3 | 抵 | | | | |
| L4みおぎ | | | | L4 | 抵 | | | | |
| T S Rみおぎ | | | 抵 | L3 | 抵 | | | | |
| みおぎグリーン | | | | L3 | 抵 | | | | |
| L3シグナル | | | | L3 | | | | | |
| あきの | 極強 | 極強 | | | | | | (株) サカタのタネ | |
| 翠玉二号 | 強 | 強 | | | | | | | |
| セニョリータ(レッド) | 抵 | 抵 | | | | | | | |
| セニョリータ・オレンジ | 抵 | 抵 | | | | | | | |
| セニョリータ・ゴールド | 抵 | 抵 | | | | | | | |
| ソニアレッド | 抵 | 抵 | | | | | | | |
| ソニアゴールド | 抵 | 抵 | | | | | | | |
| 山陽種苗(株) | | | | | | | | | |
| ジャポナガラピーマン神王 | | | | | | | | 山陽種苗(株) タキイ種苗(株) | |
| 京みどり | ○ | ○ | | | | | | | |
| 京波 | ○ | ○ | | | ○ | | | | |
| 京ひかり | ○ | ○ | | ○ : L3 | | | | | |
| 京まつり | ○ | ○ | | ○ : L3 | | | | | |
| 京鈴 | ○ | ○ | | ○ : L3 | | | | | |
| L4京鈴 | ○ | ○ | | ◎ : L4 | | | | | |
| 京ゆたか | ○ | ○ | | | | | | | |
| T M鈴波 | ○ | ○ | | ○ : L3 | | ○ | | | |
| エース | ○ | ○ | | | | | | | |
| ニューエース | ○ | ○ | | | | | | | |
| ピー太郎 | | | | | | | | | |
| フルービーレッドEX | ○ | ○ | | ○ : L3 | | | | | |
| フルービーイエロー | ○ | ○ | | ○ : L3 | | | | | |
| ワンダーベル | ○ | ○ | | | | | | | |
| レッドホルン | ○ | ○ | | ○ : L3 | | ○ | | | |
| イエローホルン | ○ | ○ | | ○ : L3 | | | | | |
| ぶちピープロ(70レッド) | | | | | | | | | トキタ種苗(株) |
| ぶちピープロ(73イエロー) | | | | | | | | | |
| ぶちピープロ(76オレンジ) | | | | | | | | | |
| ぶちピー(アップレッド) | | | | | | | | | |
| ぶちピー(ハニーイエロー) | | | | | | | | | |
| ぶちピー(マスコオレンジ) | | | | | | | | | |
| ブロッキー(イエロー) | | | | | | | | | |
| ブロッキー(レッド) | | | | | | | | | |
| ブロッキー(オレンジ) | | | | | | | | | |
| サラピー(イエロー) | | | | | | | | | |
| サラピー(レッド) | | | | | | | | | |
| とんがりパワー | | | | | | | | ナント種苗(株) | |
| でかつ!ピー 大型ピーマン | | | | | | | | | |
| (有) フタバ種苗卸部 | | | | | | | | | |
| パブリレッド | | | | | | | | 丸種(株) | |
| パブリゴールド | | | | | | | | | |
| パブリオレンジ | | | | | | | | | |
| パブリ娘レッド | | | | | | | | | |
| パブリ娘ゴールド | | | | | | | | | |
| パブリ娘オレンジ | | | | | | | | | |
| パブロングレッド | | | | | | | | | |
| パブロングゴールド | | | | | | | | | |
| ころすけ | | | | | | | | | |
| ひじり | | | | | | | | | |
| 西洋早生ピーマン | | | | | | | | | |
| カリフォルニアワンダー | | | | | | | | | |
| 伊勢ピーマン | | | | | | | | | |
| 台木 | | | | | | | | | |
| 台助 | | | | L3 | 抵 | | | | (公財) 園芸植物育種研究所 |
| バギー | 耐 | 耐 | | L3 | 強耐 | 強耐 | | | タキイ種苗(株) |
| 台パワー | | | | L3 | 抵 | 強耐 | 抵 | ナント種苗(株) | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載
原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

鹿児島県 I P M実践指標総論付表（抵抗性品種）

付表 なす台木の抵抗性又は耐病性の目安一覧

| 品種名 | 青枯病 | 半枯病 | 半身萎凋病 | ネコブセンチュウ | 出典 (商社名) |
|----------|-------|-----|-------|----------|-------------------------------------|
| 茄の命 | 耐 | 抵 | 抵 | | (株) 神田育種農場 |
| 茄の力 | 強 | 抵 | 強 | | |
| 耐病 V F | | ○ | ○ | | タキイ種苗 (株) ※○：耐病虫性 △：「赤ナス」より強い |
| ミート | △ | ○ | ○ | | |
| 台太郎 | ○ | ○ | | | |
| 赤ナス | | ○ | | | |
| トナシム | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| トルバム・ビガー | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| カレヘン | Ⅲ, Ⅳ耐 | | | | ナント種苗 (株) ※○：「カレヘン」と同程度 |
| ナクロス | ○ | | | | |
| アカナス | | 強抵 | | | (株) 渡辺採種場 |
| トルバム・ビガー | | | 強抵 | 強 | |

注) 「野菜品種名鑑2015年度版」((社) 日本種苗協会発行) に掲載されている商社及び「鹿児島県野菜適品種一覧表」(平成27年3月 鹿児島県農政部, 鹿児島県園芸振興協議会発行) に取扱品種が掲載されている商社のうち, 平成28年1月までに資料提供のあった商社の情報を掲載

原則として, 「抵」は抵抗性あり, 「耐」は耐病性あり, 「強」は耐病性が強い, 無印は抵抗性及び耐病性について公表されていない。強弱の程度は各商社の表記に準じている。

付表 各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表 (殺虫剤)

平成28年1月現在 (鹿児島県農政部食の安全推進課)

| 種類名 | 双翅目 | | 膜翅目 | | | | | | | | 半翅目 | | 脈翅目 | | 総翅目 | | 甲虫目 | | ダニ目 | | | | | | | | | | クモ目 | | | | | |
|----------|--------------|---|---------------|---------------|--------------|----------------------|------------------|--------------------|---|---|-----------------|---|----------------------|---|-----|---|-------------------|---|-----|-------------|-------------|---|---------------|-----------------|--------------|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|
| | ショウカ タマバエ | | コレマン アブラハチ | オンシツ ツクコハチ | サバク ツクコハチ | イデアヒメコハチ ハモクリコマハチ | ハモクリミドリ ヒメコハチ | ヨリタマコハチ類 その他寄生蜂 | | | タイリクヒメハチ カメシ | | クサカケ ^{ロウ} 類 | | | アリカ ^{タシマアサ} ミマ ハダ ^{ニアサ} ミマ | テントウムシ類 ハネカクシ類 | | | ミコ カブリダニ | チリ カブリダニ | | クダリス カブリダニ | スワススキー カブリダニ | その他 カブリダニ | | | | | | | | | |
| | 幼 | 成 | マ | 成 | 蛹 | 成 | 蛹 | 成 | 幼 | 成 | 成 | 蛹 | 成 | 幼 | 成 | 幼 | 成 | 幼 | 成 | 卵 | 幼 | 成 | 卵 | 幼 | 成 | 卵 | 幼 | 成 | 卵 | 成 | 卵 | 成 | 卵 | 成 |
| アクセル | ◎ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | |
| アタブロン | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| アブロード | △ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| ウララDF | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| エクシレル | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| オサダン | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| オマイト | ○ | ◎ | ◎ | △ | △ | △ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | △ | × | △ | × | | | | | | ◎ | | |
| カララ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| カウンター | | | ◎ | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ | |
| カスケード | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | △ | ◎ | | | | | △ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | | |
| カネマイト | | | ◎ | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| コルト | ◎ | | | | × | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| コロマイト | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| スターマイト | ◎ | ◎ | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ダニエモン | | | ◎ | | | | | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | △ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ダニゲッター | | | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ダニコング | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ | |
| ダニサラバ | | | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | | | | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ダニトロン | | | | | | | | | | × | | △ | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| チェス | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | |
| テデオン | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| デミリン | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | ◎ | |
| トリガード | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| トルネードエース | ◎ | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ニッソラン | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ノモルト | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| パロック | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| ファルコン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| ブレオ | | | ◎ | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| ブレバゾン | | | ◎ | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| フェニックス | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | ◎ | |
| ベネビア | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| マイトコーネ | | | | | | | | | | ◎ | | | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| マッチ | | △ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | △ | △ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| マトリック | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| モバント | | ◎ | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |
| ロムダン | | | | | | | | | | ◎ | | | | | ◎ | ◎ | | | | | ◎ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ◎ |

注) 本表に例示した農薬は、「鹿児島県IPM実践指標策定要領」に基づき編集した。

農薬の影響を評価する対象は、双翅目、膜翅目、半翅目、脈翅目、総翅目、甲虫目、ダニ目及びクモ目とし、表中に記載した天敵種は、各目の代表的な種を例示

表中の发育態の略記：幼虫→幼、成虫→成、マミ→マ

天敵等に対する影響の程度は、原則として「日本バイオリジカルコントロール協議会(日本BC協議会)」が公表する「天敵に対する農薬の影響目安の一覧表」に準じる。

【野外・半野外試験】◎：死亡率0~25%、○：25~50%、△：50~75%、×：75~100%、【室内試験】◎：死亡率0~30%、○：30~80%、△：80~99%、×：99~100%
農薬ハンドブック(日本植物防疫協会発行)より引用したデータは「◎：影響なし、極めて影響小さい(低い、少ない)、○：影響小さい(低い、少ない)、△：やや影響あり、×：強い影響あり又は影響あり」として扱う。

影響程度の記号が異なる发育態にまたがって表記されているものは、影響評価を受けた发育態が不明なもの。

農薬の影響は、気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)によっても変化することがあるため、表中の影響の程度はあくまでも目安として活用すること。

付表 各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表 (殺菌剤)

平成28年1月現在 (鹿児島県農政部の安全推進課)

| 種類名 | 双翅目 | | 膜翅目 | | | | | | | | | | 半翅目 | | 脈翅目 | | 総翅目 | | 甲虫目 | | ダニ目 | | | | | | | | | | クモ目 | | | | | | | |
|----------|---------------------------|---|---------------|---|---------------|---|--------------|---|------------------------------------|---|--|---|---------------------------------|---|-----------------|---|-----------------------|---|---|---|-------------------|---|-------------|---|-------------|---|----------------|---|-----------------|---|--------------|---|-----|---|---|---|---|--|
| | シヨクカ ¹ タマハエ | | コレマン アブラハチ | | オンシツ ツヤコハチ | | サバク ツヤコハチ | | 付アヒメコハチ ハモク ² リコマコハチ | | ハモク ² リミト ³ ヒメコハチ | | ヨウタコ ⁴ ハチ類 その他寄生蜂 | | タリカヒメハチ カメムシ | | クサカゲ ⁵ ワカメ | | アリカ ⁶ クサマアサ ⁷ ミカ ハタ ⁸ ニアサ ⁹ ミカ | | テントウムシ類 ハネカクシ類 | | ミコ カブリガニ | | チリ カブリガニ | | カカメリス カブリガニ | | スリムスキー カブリガニ | | その他 カブリガニ | | クモ類 | | | | | |
| | 幼 | 成 | マ | 成 | 蛹 | 成 | 蛹 | 成 | 幼 | 成 | 成 | 成 | 蛹 | 成 | 幼 | 成 | 幼 | 成 | 幼 | 成 | 幼 | 成 | 卵 | 幼 | 成 | 卵 | 幼 | 成 | 卵 | 成 | 卵 | 幼 | 成 | 卵 | 成 | | | |
| パスポート | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | |
| パスワード | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ビーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ビトリーン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ファンタジスタ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フェスティバル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プリント | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| フルビカ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| プロボーズ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ベルコート | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヘルシード | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ベンレート | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ポリオキシシAL | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マイコシールド | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マモロット | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モレスタン | △ | △ | ○ | ○ | ○ | △ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モンカット | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| モンセレン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヨネボン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ラリ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ランマン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リライアブル | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| リドミル | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ルビゲン | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロブラール | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ワークアップ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注) 本表に例示した農薬は、「鹿児島県IPM実践指標策定要領」に基づき編集した。

農薬の影響を評価する対象は、双翅目、膜翅目、半翅目、脈翅目、総翅目、甲虫目、ダニ目及びクモ目とし、表中に記載した天敵種は、各目の代表的な種を例示

表中の発育態の略記：幼虫→幼、成虫→成、マミ→マ

天敵等に対する影響の程度は、原則として「日本バイオリジカルコントロール協議会 (日本BC協議会)」が公表する「天敵に対する農薬の影響目安の一覧表」に準じる。

【野外・半野外試験】 ○：死亡率0～25%，○：25～50%，△：50～75%，×：75～100%，【室内試験】 ○：死亡率0～30%，○：30～80%，△：80～99%，×：99～100%
 農薬ハンドブック (日本植物防疫協会発行) より引用したデータは「◎：影響なし、極めて影響小さい (低い、少ない)，○：影響小さい (低い、少ない)，
 △：やや影響あり，×：強い影響あり又は影響あり」として扱う。

影響程度の記号が異なる発育態にまたがって表記されているものは、影響評価を受けた発育態が不明なもの。

農薬の影響は、気象条件 (温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等) によっても変化することがあるため、表中の影響の程度はあくまでも目安として活用すること。

鹿児島県 I P M 実践指標 （水稻）

鹿児島県 IPM 実践指標のねらい及び実施・確認上の留意点（水稲）

| 実践事項 | | ねらい及び実施・確認上の留意点 |
|------------------------------|-----|--|
| 発生予察 侵入病害虫対策 IPM の情報収集 | ねらい | IPM 技術の向上を図るため、実践者自らが発生予察及び最新の情報収集等を実施する。 関係機関及び団体等の指導者は、研修会や講習会の開催等を通じて積極的に情報を提供する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施した年月日 2 対象病害虫 3 活用した発生予察情報 4 参加した研修会や講習会と参加日 ※研修会や講習会に参加できなかった場合には、「鹿児島県 IPM ネットワーク」への加入で条件を満たすこととし、加入者であることを記載する。 5 その他活用した情報等 |
| 記帳管理 | ねらい | 効率的に次作の計画を作成し、技術の改善等を図るため、実施した作業の時期及び内容等を記録する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 実施の有無を記載することで条件を満たすが、記帳管理簿又は電子データ等は別途保存しておく。 |
| 健全種子の選別 | ねらい | 種子を通じた病害虫のまん延とほ場への持ち込みを防ぐため、塩水選を実施するとともに、定期的に種子更新を行う。 なお、種子更新は毎年行うことが望ましい。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 塩水選の実施の有無 2 種子更新を実施した場合はその旨を記録 |
| 適正な品種の選定 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 選定した品種と栽培面積 |
| ほ場及び周辺の管理 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 土壌及び施肥管理 | ねらい | 土壌の適正な物理性及び化学性の改善と保持を通じて、健全な植物体を育成するため、作物ごとの土壌改良基準及び施肥基準を遵守する。 |

| | | |
|--------------|-----|---|
| 土壌及び 施肥管理 | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 土壌診断を実施した場合には、診断実施機関及び診断ほ場面積 2 生育診断の場合には、実施の有無 3 作物ごとの施肥基準量の把握の有無 |
| 代かき作業 | ねらい | 農薬の効果を安定させるためにも、代かき作業を丁寧に行い、漏水を抑える。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 移植作業 | ねらい | 健全な植物体を育成するとともに、病虫害の発生しにくい環境を作るため、作期及び品種に応じ、適正な時期に、適正な栽植密度及び本数を移植する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 不要苗の除去 | ねらい | 病虫害の発生源とならないよう、不要な苗は除去する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 雑草管理 | ねらい | 病虫害の発生しにくい環境を作るため、ほ場及び周辺の雑草管理対策を実施する。 斑点米カメムシ対策には、まずは水田周辺のイネ科植物を管理することが重要な対策である。 なお、本項目の雑草管理対策とは、雑草の除去だけでなく、カバープランツの利用等の積極的な植生管理まで含む。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名 |
| 耕耘作業 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 侵入防止対策 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 温湯種子消毒 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |

| | | |
|-------------------------|-----|---|
| 微生物殺菌剤の利用 | ねらい | 種子への病原菌の侵入を防ぐため、拮抗作用を有する微生物由来の生物農薬を利用する。 |
| | 留意点 | 種子消毒を目的とした生物農薬については、IPM 実践指標総論を参照。 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 利用した資材名 |
| 土着天敵の保護 (発生予察に基づく防除) | ねらい | 土着天敵の保護を図るため、必要に応じた防除を実施する。 なお、付表に示す被害許容水準はあくまでも目安として活用し、実践者自身の経営における被害許容水準を持つことが重要である。 また、自ら観察を実施することで、水田に生息する土着天敵の種類を知ることも重要である。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 土着天敵の保護利用 (選択的農薬の利用) | ねらい | 各種害虫に対して化学合成農薬で防除を実施する際、土着天敵（クモ、ダニ、昆虫等）の保護利用が図られるよう、土着天敵に影響が小さい農薬（選択的農薬）を利用する。 なお、付表3の選択的農薬については、「鹿児島県 IPM 実践指標策定要領（IPM 実践指標に掲載する農薬の考え方）」に基づき、一定の要件を満たす農薬を例示した。 「鹿児島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の中で定める、化学合成農薬使用成分回数を目標とし、所定の回数の範囲内において、効果的に選択的農薬を利用できるように努めることとする。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由 ※選択的農薬を積極的に取り入れることがねらいであり、リスト以外の農薬の使用を制限するものではないが、リスト以外の農薬は、選択的農薬では防除できない、あるいは防除が困難な場合など、必要最小限の使用に努めること。 選択的農薬は、全ての天敵に対して影響がないものだけではなく、一定のグループ数の天敵に対して影響がないものを例示しており、影響の詳細については、IPM 実践指標総論の付表を参照すること。 |

| | | |
|--------------|-----|--|
| 苗箱施用剤による予防措置 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 農薬の使用全般 | ねらい | 本実践項目に記載する内容は、農薬の適正使用、農薬飛散防止対策及び関連法規の遵守等において必要なものを記載した。 なお、処理後の落水にあたっては、各薬剤で定められた指導基準を遵守すること。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |

鹿児島県 IPM 実践指標（水稻）

鹿児島県 IPM 実践指標（水稻）

| 実践のポイント | | | |
|--|-------|--|---|
| ①各種病害虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ウンカ類、ツマグロヨコバイ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する ●</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する ●</p> |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の選別 | 病原菌に侵されていない健全な籾を選別するため、塩水選を実施するとともに、定期的（1～3年ごと）に種子の更新を図る ● |
| | 6 | 適正な品種の選定 | いもち病等の病害の常発地では抵抗性の強い品種を、また、倒伏常発地では、耐倒伏性の高い品種を選定する（参考：付表1） ○ |
| | 7 | ほ場及び周辺の管理 | 農薬の効果向上と水質汚濁防止のため、畦畔の整備、畦塗りなどにより、漏水を防止する ● |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する ● |
| | 9 | 代かき作業 | 代かきは丁寧に実施し、田面をできるだけ均平にする ● |
| | 10 | 移植作業 | 作期や品種に応じた移植時期を遵守し、適正な栽植密度、本数を移植する ● |
| | 11 | 不要苗の除去 | 補植が終了した後は、不要な苗は本田内に残さない ● |
| 耕種的防除 | 12 | 斑点米カメムシ等の害虫の生息密度を下げるため、出穂前までに畦畔等の除草を行う ● | |
| | | 雑草の発生を抑制するために、稲刈り後早期に耕耘する ○ | |
| | | 機械除草及び生物利用等の除草剤を使用しない雑草管理対策を実施する ○ | |
| 13 | 耕うん作業 | ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ及びスクミリンゴガイ等の越冬個体群密度を低減させるために秋～春期に耕うんを行う ● | |
| 物理的防除 | 14 | 侵入防止対策 | スクミリンゴガイの生貝の進入を防ぐために、水路の清掃及び取水口へ金網等を設置する ○ |
| | 15 | 温湯種子消毒 | 種子伝染する病害虫の発生を防ぐために、温湯種子消毒を実施する ○ |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | 種子消毒時にタラロマイセス フラバス剤等を利用する ○ |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | <p>水田に生息する土着天敵を保護するため、病害虫発生予察情報や自らの観察と被害許容水準（参考：付表2）等に基づいて、必要に応じた防除を実施する ●</p> <p>各種害虫に対して化学合成農薬を使用する場合には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表3） ●</p> |
| 化学的防除 | 18 | 苗箱施用剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、苗箱施用剤を利用する ○ |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 薬剤散布後は、所定の期間落水しない（入水は可）（各薬剤の指導基準に準じる） ● |
| | | | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 水稻奨励品種の耐病性及び耐倒伏性の目安

| 作期 | 種別 | 品種名 | 耐倒伏性 | 耐病性 | | |
|-----|-----|---------------------|------|------|------|---------------|
| | | | | 葉いもち | 穂いもち | 白葉枯病 |
| 早期 | うるち | コシヒカリ | 弱 | やや弱 | やや弱 | 中 |
| | | イクヒカリ | 強 | — | — | 中 |
| | もち | 峰の雪もち | 強 | 中 | やや弱 | 中 |
| 普通期 | うるち | ヒノヒカリ | やや弱 | やや弱 | やや弱 | やや弱 |
| | | あきほなみ | やや強 | — | — | やや強 |
| | | はなさつま | 強 | やや弱 | 中 | 中 |
| | もち | サイワイモチ | 中 | — | — | 強 |
| | | さつま絹もち (鹿児島糯36号) | やや強 | — | — | やや強 ～ 中 |
| | | さつま雪もち | 強 | — | — | 中 |

(注1) 農作物奨励品種特性表（鹿児島県，平成27年3月）に準じて作成

(注2) 葉いもち，穂いもち耐病性の—は，真性抵抗性を持つと推定され，現状ではいもち病は発生しないが，侵害菌の動向に注意する。

付表2 水稻の各種病害虫に対して防除の目安となる密度

| 対象病害虫 | 時期 | 調査方法 | 要防除水準 | 防除時期 |
|--------|--------------------------|---------------------------|-------------------------------------|----------------------|
| セジロウンカ | 6月下旬～7月上旬 （普通期の本田初期） | 見取り （払い落とし）調査 | 飛来盛期～3日後 成虫数15頭/株以上 | 即時 |
| トビロウンカ | 6月（早期） | 予察灯 | 6月20日までの ウンカ類の誘殺数 1,000頭/半旬以上 | 7月中旬 |
| | 6～7月中旬（普通期） | 予察灯 | ウンカ類の誘殺数 5,000頭/半旬以上 | 7月下旬 ～ 8月上旬 |
| | 7月下旬～8月上旬 （普通期の本田中期） | 払い落とし調査 | 短翅雌成虫数 成虫20頭/100株以上 | 8月下旬 |
| コブノメイガ | 7月下旬～8月中旬 （普通期の本田中後期） | 本田あるいは畦畔雑草地 での成虫追い出し調査 | 成虫数 10頭/m ² 以上 | 成虫ピーク3日後 （とその7日後） |
| 紋枯病 | 幼穂形成期初期 | 葉鞘部病斑 見取り調査 | 発病株率 20%以上 | 即時 |
| | 穂揃い期～乳熟期 | 葉鞘部病斑 見取り調査 | 発病株率 40%以上 | 即時 |

付表3 天敵に影響の小さい農薬の目安

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------------------------------|-------|--------------------|
| ヨウ コン バカ イ | アプロード | クモ類 トンボ類 |
| | チェス | |
| チ ョ ウ ウ 目 害 虫 | フェルテラ | 寄生蜂 クモ類 トンボ類 |
| | マトリック | |
| | ロムダン | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県 IPM 実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

鹿児島県 IPM 実践指標（水稲）

鹿児島県 IPM 実践指標【水稲】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-------|--|---|-------|--|
| ①各種病害虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②ウンカ類、ツマグロヨコバイ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 自らのほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | | |
| | 3 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | | |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の選別 | 病原菌に侵されていない健全な粒を選種するため、塩水選を実施するとともに、定期的（1～3年ごと）に種子の更新を図る | ● | |
| | 6 | 適正な品種の選定 | いもち病等の病害の常発地では抵抗性の強い品種を、また、倒伏常発地では、耐倒伏性の高い品種を選定する（参考：付表1） | ○ | |
| | 7 | ほ場及び周辺の管理 | 農薬の効果向上と水質汚濁防止のため、畦畔の整備、畦塗りなどにより、漏水を防止する | ● | |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | 9 | 代かき作業 | 代かきは丁寧に実施し、田面をできるだけ均平にする | ● | |
| | 10 | 移植作業 | 作期や品種に応じた移植時期を遵守し、適正な栽植密度、本数を移植する | ● | |
| | 11 | 不要苗の除去 | 補植が終了した後は、不要な苗は本田内に残さない | ● | |
| | 12 | 雑草管理 | 斑点米カメムシ等の害虫の生息密度を下げるため、出穂前までに畦畔等の除草を行う | ● | |
| | | | 雑草の発生を抑制するために、稲刈り後早期に耕耘する | ○ | |
| | | | 機械除草及び生物利用等の除草剤を使用しない雑草管理対策を実施する | ○ | |
| 13 | 耕うん作業 | ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ及びスクミリンゴガイ等の越冬個体群密度を低減させるために秋～春期に耕うんを行う | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 侵入防止対策 | スクミリンゴガイの生貝の進入を防ぐために、水路の清掃及び取水口へ金網等を設置する | ○ | |
| | 15 | 温湯種子消毒 | 種子伝染する病害虫の発生を防ぐために、温湯種子消毒を実施する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | 種子消毒時にタラロマイセス フラバス剤等を利用する | ○ | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | 水田に生息する土着天敵を保護するため、病害虫発生予察情報や自らの観察と被害許容水準（参考：付表2）等に基づいて、必要に応じた防除を実施する | ● | |
| 各種害虫に対して化学合成農薬を使用する場合には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表3） | | | ● | | |
| 化学的防除 | 18 | 苗箱施用剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、苗箱施用剤を利用する | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 薬剤散布後は、所定の期間落水しない（入水は可） （各薬剤の指導基準に準じる） | ● | |
| | | | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 19 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（水稻）

鹿児島県 IPM 実践指標【水稻】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-------|--|-------------------------|-------|--|
| ①各種病害虫に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②ウンカ類、ツマグロヨコバイ及びビョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | ● | | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | | |
| 耕種の防除 | 5 | 健全種子の選別 塩水選の実施の有無 種子更新した場合にはその旨記載 | ● | | |
| | 6 | 適正な品種の選定 選定した品種と栽培面積を記載 | ○ | | |
| | 7 | ほ場及び 周辺の管理 | ● | | |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | | |
| | 9 | 代かき作業 | ● | | |
| | 10 | 移植作業 | ● | | |
| | 11 | 不要苗の除去 | ● | | |
| | 12 | 雑草管理 | 斑点米カメムシ等対策の除草の有無 | ● | |
| | | | 稲刈り後の早期耕耘の有無 | ○ | |
| | | | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ○ | |
| 13 | 耕うん作業 | ● | | | |
| 物理的防除 | 14 | 侵入防止対策 | ○ | | |
| | 15 | 温湯種子消毒 | ○ | | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 生物農薬を利用した場合には資材名を記載 | ○ | | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 18 | 苗箱施用剤による予防措置 | ○ | | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | ● | | |
| | | | ● | | |
| | | | ● | | |
| | | ● | | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 I P M 実践指標 （茶）

鹿児島県 IPM 実践指標のねらい及び実施・確認上の留意点（茶）

| 実践事項 | | ねらい及び実施・確認上の留意点 |
|-----------------------------|-----|--|
| 発生予察 侵入害虫対策 IPM の情報収集 | ねらい | IPM 技術の向上を図るため、実践者自らが発生予察及び最新の情報収集等を実施する。 関係機関及び団体等の指導者は、研修会や講習会の開催等を通じて積極的に情報を提供する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施した年月日 2 対象病虫害 3 活用した発生予察情報 4 参加した研修会や講習会と参加日 ※研修会や講習会に参加できなかった場合には、「鹿児島県 IPM ネットワーク」への加入で条件を満たすこととし、加入者であることを記載する。 5 その他活用した情報等 |
| 記帳管理 | ねらい | 効率的に次作の計画を作成し、技術の改善等を図るため、実施した作業の時期及び内容等を記録する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 実施の有無を記載することで条件を満たすが、記帳管理簿又は電子データ等は別途保存しておく。 |
| 健全苗の使用 | ねらい | 苗木を介したほ場への病虫害の持ち込みを防ぐため、適正な病虫害管理下で育成された苗木を使用するとともに、苗木の導入にあたっては、関連する法規を遵守すること。 また、実践者自らが苗木を育成する場合にも、適正な管理に努める。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 苗木を購入した場合には、購入年月日と購入先 2 苗木を自家育成した場合は、その旨を記録 |
| 抵抗性・耐病虫性 品種の利用 | ねらい | 病害等による被害を抑制するため、抵抗性又は耐病虫性を有する品種を利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した品種 |

| | | |
|----------------------------------|-----|--|
| 土壌及び 施肥管理 （土壌診断及び 生育診断） | ねらい | 土壌の適正な化学性や物理性などの保持や改善を通じて、健全な土壌環境や作物生産を図るため、土壌や樹齢などの土壌改良基準及び施肥基準を遵守する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 土壌診断を実施した場合には、診断実施機関及び診断ほ場面積 2 生育診断の場合には、実施の有無 3 樹齢ごとの施肥基準量の把握の有無 |
| 土壌及び 施肥管理 （良質堆肥の 施用） | ねらい | 土壌の適正な物理性や生物相などの保持や改善を図り、土壌の生産力を増進するため、良質な堆肥を施用する。堆肥は、新植前や改植前に施用するとともに、植栽後には毎年、あるいは隔年など、計画的に適量を施用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 堆肥の種類 2 堆肥の入手先 3 10a 当たりの施用量 |
| 防風対策の実施 マルチの利用 | ねらい | 健全な植物体の育成を通じて、病害虫の被害軽減を図るため、幼木園では防風対策を実施する。 また、幼木園の雑草抑制のためにマルチ（ポリエチレンフィルムや稲わら等）を利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した資材名 |
| 秋冬期防霜 の実施 | ねらい | 赤焼病の予防対策のために、秋冬期防霜を実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 雑草管理 | ねらい | 病害虫の発生しにくい環境を作るため、ほ場及び周辺の雑草管理対策を実施する。 なお、本項目の雑草管理対策とは、雑草の除去だけでなく、カバープランツの利用等の積極的な植生管理まで含む。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名 |
| 整せん枝 | ねらい | 樹勢回復及び病害虫の寄生・感染源除去のために、一番茶～三番茶後に整せん枝を実施する。 整せん枝の実施面積及び位置は、自らの経営の中で調整する。 地域と品種に適した時期に実施するよう努める。 |

| | | |
|----------------------------------|-----|---|
| 整せん枝 | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 実施面積 |
| 機械の整備 | ねらい | 摘採及び整せん枝で生じた粗い傷口からは、輪斑病菌など病原菌が侵入しやすいため、以下の点に留意する。 1 刈り刃は常に整備しておく。 2 機械の走行速度と刈り刃の回転数が適正な範囲内で作業を実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 作業時の天候 | ねらい | 茶樹が濡れた状態で摘採及び整せん枝等の管理作業を実施すると、病害の発生を助長するため、製茶工場の処理能力、品種及び気象条件等を考慮して計画的な作業を実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 気門封鎖剤の利用 | ねらい | 害虫を窒息死させる作用を有する農薬を気門封鎖剤として扱う（例えば、マシン油等）。本剤を有効に活用しながら、カンザワハダニやクワシロカイガラムシ等を防除する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 高圧水風防除洗浄機 サイクロン式吸引洗浄装置 の利用 | ねらい | 高圧水風防除洗浄機及びサイクロン式吸引洗浄装置により、カンザワハダニ等の微小な害虫への防除や、病害の罹病葉の除去を行う。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 ※導入にあたっては、一定の経費が必要であることから、選択項目とする。 |
| 水の利用 | ねらい | カンザワハダニやクワシロカイガラムシに対して散水による防除を実施する。 但し、畑地かんがい用水を利用する場合には、地域で定められた散水基準を遵守すること。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 ※水利用上の規則を遵守したかも含めて記録する。 |
| 交信かく乱剤の利用 | ねらい | ハマキムシ類の成虫の交尾を阻害し、次世代以降の密度を抑制するため、人工的に合成した性フェロモン剤（交信かく乱剤）を利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |

| | | |
|-------------------------|-----|---|
| 微生物殺虫剤 の利用 | ねらい | ハマキムシ類に対して顆粒病ウイルスを利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 微生物殺虫剤 の利用 (BT 剤) | ねらい | BT 剤は、微生物由来の生物農薬で、チョウ目（鱗翅目）害虫に対して有効であり、以下のメリットがあるため、積極的に利用する。 1 防除スケジュールの中のローテーションの一つの手段として用いることで、薬剤抵抗性発達の防止が図られる。 2 土着天敵に対して影響が小さい。 3 農薬のポジティブリスト制度に対応できる手段である。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 土着天敵の 保護利用 | ねらい | 各種害虫に対して化学合成農薬で防除を実施する際、土着天敵（クモ、ダニ、昆虫等）の保護利用が図られるよう、土着天敵に影響が小さい農薬（選択的農薬）を利用する。 なお、付表2の選択的農薬については、「鹿児島県 IPM 実践指標策定要領（IPM 実践指標に掲載する農薬の考え方）」に基づき、一定の要件を満たす農薬を例示した。 「鹿児島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の中で定める、化学合成農薬使用成分回数を目標とし、所定の回数の範囲内において、効果的に選択的農薬を利用できるように努めることとする。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由 ※選択的農薬を積極的に取り入れることがねらいであり、リスト以外の農薬の使用を制限するものではないが、茶は選択的農薬が多いことから、原則として付表2に示したもので体系化を図ることとし、リスト以外の農薬は、選択的農薬では防除できない、あるいは防除が困難な場合など、やむを得ない事情がある場合の使用に限る。 選択的農薬は、全ての天敵に対して影響がないものだけではなく、一定のグループ数の天敵に対して影響がないものを例示しており、影響の詳細については、IPM 実践指標総論の付表を参照すること。 |

| | | |
|--|-----|---|
| 病害虫の抵抗性 回避 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 農薬の使用 全般 | ねらい | 本実践項目に記載する内容は、農薬の適正使用、農薬飛散防止対策及び関連法規の遵守等において必要なものを記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| <p>その他</p> <p>物理的防除及び生物的防除で掲載したいいくつかの技術については、一部の地域に限定されるものもあるため、6項目のうちいずれか一つを実施する条件を設ける。</p> | | |

鹿児島県 IPM 実践指標（茶）

鹿児島県 IPM 実践指標（茶）

| 実践のポイント | | | | |
|--|-----------|--|---|---|
| ①各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 ②病害虫の薬剤抵抗性発達を防止するための物理的防除又は生物的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病虫性品種の利用 | 病害等に対して抵抗性又は耐病虫性を有する品種を利用する（参考：付表1） | ○ |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 8 | 防風対策（幼木園） | 幼木園では、障壁植物等により防風対策を実施する | ● |
| | 9 | 秋冬期防霜の実施 | 赤焼病の予防対策として、秋冬期防霜を実施する | ○ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | マルチの利用 | 幼木園では、雑草抑制のためにマルチを利用する | ● |
| | 12 | 整せん枝 | 樹勢回復及び病害虫の寄生・感染源除去のために、一番茶～三番茶後に整せん枝を実施する | ● |
| | 13 | 機械の整備 | 収穫及び整せん枝に用いる機械の刈り刃は常に整備しておくとともに、作業にあたっては、最適な回転数と速度で実施する | ● |
| 14 | 作業時の天候の選定 | 管理作業は、なるべく降雨時を避けられるように、計画的に作業を実施する | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カンザワハダニやクワシロカイガラムシ等に対して、気門封鎖剤を利用する | ☆ |
| | 16 | 高圧水風防除洗浄機 サイクロン式吸引洗浄装置 の利用 | カンザワハダニ等に対して、水や風の作用を応用した機械を利用する | ☆ |
| | 17 | 水の利用 | 散水可能な地域では、カンザワハダニやクワシロカイガラムシ等に対して、スプリンクラーを用いた散水による防除を実施する なお、地域で定められた散水基準がある場合には必ず守る | ☆ |
| 生物的防除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | チャハマキ及びチャノコカクモンハマキに対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | | | チャハマキ及びチャノコカクモンハマキに対して、顆粒病ウイルスを利用する | ☆ |
| 20 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2） | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 病害虫の抵抗性回避 | 病害虫の薬剤抵抗性発達を回避するため、同一成分及び同一系統の使用回数は年に1回とする | ● |
| | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目15～19の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つ以上を必ず実施する

付表1 鹿児島県のチャ奨励品種及び優良品種毎における抵抗性又は耐病虫性の目安

| 品種名 | 炭疽病 | 輪斑病 | 備考 |
|--------|-----|-------|----------------|
| くりたわせ | 4 | 4 | |
| ゆたかみどり | 5 | 3 | |
| さえみどり | 3 | 1 | |
| あさつゆ | 4 | 2 | |
| あさのか | 3 | 5 | |
| やぶきた | 1 | 1 | |
| はるもえぎ | 3 | 5 | |
| かなやみどり | 4 | 4 | |
| おくみどり | 1 | 3 | |
| はるみどり | 4 | 1 | |
| ゆめかおり | 2 | 5 | クワシロカイガラムシに耐虫性 |
| さえあかり | 4 | 5 | |
| つゆひかり | 5 | データなし | |
| さきみどり | 3 | 4 | |
| めいりよく | 4 | 5 | |
| なごみゆたか | 2 | 4 | |
| おくゆたか | 3 | 1 | |
| はるのなごり | 5 | 4 | |
| べにひかり | 5 | 5 | |
| べにふうき | 5 | 5 | |
| そうふう | 4 | 5 | |
| サンルージュ | 4 | 5 | |

注1) 「茶生産技術指針（第6版）」を一部改変して作成

注2) 5：強，4：やや強い，3：中，2：やや弱い，1：弱い

付表2 茶園の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|------------|-------------|--|
| アザミウマ類 | ウララDF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、カスミカメムシ類） |
| | エクシレルSE | |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| カクイワガシラロムシ | アブロードフロアブル | 寄生蜂 キムネタマキスイ テントウムシ類 タマバエ類 |
| ヒチャヨノコミバドリ | ウララDF | クモ類 |
| | エクシレルSE | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| ハダニ類 | カネマイトフロアブル | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カカシウマ、アザミウマ等） |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | ダニサラバフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チョウ目害虫 | アタブロン乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチプトカメムシ類） クモ類 |
| | エクシレルSE | |
| | カスケード乳剤 | |
| | サムコルフロアブル | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マトリックフロアブル | |
| | ロムダンフロアブル | |
| コチャシトラゲミ | ダニゲッターフロアブル | 寄生蜂 |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（茶）

鹿児島県 IPM 実践指標【茶】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------------------|-----------|--|---|-------|--|
| ①各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| ②病害虫の薬剤抵抗性発達を防止するための物理的防除又は生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病虫性品種の利用 | 病害等に対して抵抗性又は耐病虫性を有する品種を利用する（参考：付表1） | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 8 | 防風対策（幼木園） | 幼木園では、障壁植物等により防風対策を実施する | ● | |
| | 9 | 秋冬期防霜の実施 | 赤焼病の予防対策として、秋冬期防霜を実施する | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | マルチの利用 | 幼木園では、雑草抑制のためにマルチを利用する | ● | |
| | 12 | 整せん枝 | 樹勢回復及び病害虫の寄生・感染源除去のために、一番茶～三番茶後に整せん枝を実施する | ● | |
| | 13 | 機械の整備 | 収穫及び整せん枝に用いる機械の刈り刃は常に整備しておくとともに、作業にあたっては、最適な回転数と速度で実施する | ● | |
| 14 | 作業時の天候の選定 | 管理作業は、なるべく降雨時を避けられるように、計画的に作業を実施する | ● | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カンザワハダニやクワシロカイガラムシ等に対して、気門封鎖剤を利用する | ☆ | |
| | 16 | 高圧水風防除洗浄機 サイクロン式吸引洗浄装置 の利用 | カンザワハダニ等に対して、水や風の作用を応用した機械を利用する | ☆ | |
| | 17 | 水の利用 | 散水可能な地域では、カンザワハダニやクワシロカイガラムシ等に対して、スプリンクラーを用いた散水による防除を実施する なお、地域で定められた散水基準がある場合には必ず守る | ☆ | |
| 生物的防除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | チャハマキ及びチャノコカクモンハマキに対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | | | チャハマキ及びチャノコカクモンハマキに対して、顆粒病ウイルスを利用する | ☆ | |
| 20 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2） | ● | | |
| 化学的防除 | 21 | 病害虫の抵抗性回避 | 病害虫の薬剤抵抗性発達を回避するため、同一成分及び同一系統の使用回数は年に1回とする | ● | |
| | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目15～19の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つ以上を必ず実施する
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 19 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 2 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（茶）

鹿児島県 IPM 実践指標【茶】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------------------|----|----------------------------------|--|-------|--|
| ①各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| ②病害虫の薬剤抵抗性発達を防止するための物理的防除又は生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病虫性品種の利用 | | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 防風対策（幼木園） | | ● | |
| | 9 | 秋冬期防霜の実施 | | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | マルチの利用 | | ● | |
| | 12 | 整せん枝 | 実施面積を記載 | ● | |
| | 13 | 機械の整備 | | ● | |
| | 14 | 作業時の天候の選定 | | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ☆ | |
| | 16 | 高圧水風防除洗淨機 サイクロン式吸引洗淨装置 の利用 | | ☆ | |
| | 17 | 水の利用 | | ☆ | |
| 生物的防除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | | ☆ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | B T 剤を利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 20 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 病害虫の抵抗性回避 | | ● | |
| | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目15～19の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つ以上を必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標 （野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標のねらい及び実施・確認上の留意点（野菜）

| 実践事項 | | ねらい及び実施・確認上の留意点 |
|---------------------------------|-----|---|
| 発生予察 侵入病害虫対策 IPMの 情報収集 | ねらい | IPM技術の向上を図るため、実践者自らが発生予察及び最新の情報収集等を実施する。 関係機関及び団体等の指導者は、研修会や講習会の開催等を通じて積極的に情報を提供する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施した年月日 2 対象病害虫 3 活用した発生予察情報 4 参加した研修会や講習会と参加日 ※研修会や講習会に参加できなかった場合には、「鹿児島県 IPMネットワーク」への加入で条件を満たすこととし、加入者であることを記載する。 5 その他活用した情報等 |
| 記帳管理 | ねらい | 効率的に次作の計画を作成し、技術の改善等を図るため、実施した作業の時期及び内容等を記録する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 実施の有無を記載することで条件を満たすが、記帳管理簿又は電子データ等は別途保存しておく。 |
| 健全種苗の使用 | ねらい | 種苗を介したほ場への病害虫の持ち込みを防ぐため、適正な病害虫管理下で育成された種苗を使用するとともに、種苗の導入にあたっては、関連する法規を遵守すること。 また、実践者自らが採種及び育苗を実施する場合にも、適正な管理に努める。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 種苗を購入した場合には、購入年月日と購入先 2 自家採種及び育苗を実施した場合は、その旨を記録 |
| 接木苗の使用 抵抗性・耐病虫性 品種の利用 | ねらい | 病害や線虫による被害を抑制するため、抵抗性又は耐病虫性を有する台木を用いた接木苗又は品種を利用する。 抵抗性又は耐病虫性の程度について、各種苗会社が公表するデータを IPM 実践指標総論の付表に例示するので、目安として活用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 接木苗を使用した場合には実施の有無 2 栽培に供した品種（台木を含む） |

| | | |
|----------------------------------|-----|--|
| 土壌及び 施肥管理 （土壌診断及び 生育診断） | ねらい | 土壌の適正な化学性や物理性などの保持や改善を通じて、健全な土壌環境や作物生産を図るため、土壌、品目の土壌改良基準及び施肥基準を遵守する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 土壌診断を実施した場合には、診断実施機関及び診断ほ場面積 2 生育診断の場合には、実施の有無 3 品目ごとの施肥基準量の把握の有無 |
| 土壌及び 施肥管理 （耕うん） | ねらい | 十分な耕うんを行い、主要根群域を確保して、健全な作物生産を図る。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 土壌及び 施肥管理 （良質堆肥の 施用） | ねらい | 土壌の適正な物理性や生物相などの保持や改善を図り、土壌の生産力を増進するため、良質な堆肥を施用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 堆肥の種類 2 堆肥の入手先 3 10a 当たりの施用量 |
| 排水対策の実施 | ねらい | 健全な植物体の育成及び病害の予防対策のため、排水対策を実施する。各品目に適した水分条件、栽培時期及びほ場の立地条件等を考慮し、植物の根域を適切な土壌水分に保つように努める。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 防風対策の実施 | ねらい | 健全な植物体の育成を通じて、病害虫の被害軽減を図るため、必要な品目については、防風対策を実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 輪作の実施 緑肥作物の利用 | ねらい | 連作によって特定の病害虫が増殖するのを防ぐために、輪作又は緑肥作物を栽培する。この場合、田畑輪換も含むため、本県において田畑輪換を実施する品目については、その旨を記載した。 なお、線虫対策として栽培する緑肥作物を、特異的に対抗植物として扱い、線虫対策が必要な品目については併記した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 輪作又は緑肥として導入した植物 |

| | | |
|----------|-----|---|
| 雑草管理 | ねらい | <p>病虫害の発生しにくい環境を作るため、ほ場及び周辺の雑草管理対策を実施する。</p> <p>なお、本項目の雑草管理対策とは、雑草の除去だけでなく、カバープランツの利用等、積極的な植生管理まで含む。</p> |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名 |
| 罹病植物体の除去 | ねらい | <p>病気の感染源を除去することでそのまん延を防ぐため、発病が見られた株又は部位等は早めにはほ場外へ持ち出し、処分するよう努める。</p> |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施の有無 |
| 施設内環境の管理 | ねらい | <p>施設栽培では、施設内の環境を適正に保つように努めるとともに、必要に応じて循環扇等も利用する。</p> |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施の有無 |
| マルチの利用 | ねらい | <p>肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生抑制及び適正な温湿度管理を通じた健全な植物体の育成等のために、マルチを利用する。</p> <p>本項目でのマルチとはポリエチレンフィルム等を意味し、各品目の栽培技術に応じて、敷わら等の利用が必要なものについては、具体的にその旨を記載した。</p> <p>なお、熊毛地域のさつまいもについては、マルチを利用すると、いもの糖度が不十分となる場合があることから、本項目は選択項目とする。</p> |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 残渣処理 | ねらい | <p>病虫害の発生源を除去し、次作への被害を防ぐために、栽培終了後の残渣は適切に処分する。</p> <p>土壌中に残存しやすい病害を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーマン：トウガラシマイルドモットルウイルス (PMMoV) ・しょうが：根茎腐敗病 ・ばれいしょ：そうか病，粉状そうか病 ・さつまいも：紫紋羽病 ・アブラナ科野菜：根こぶ病，菌核病 |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施の有無 2 処理の方法 |

| | | |
|---------------|-----|---|
| 土壌消毒 | ねらい | IPM実践指標総論を参考に実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 処理の方法 |
| 気門封鎖剤の利用 | ねらい | 害虫を窒息死させる作用を有する農薬を気門封鎖剤として扱い、登録がある品目で、利用の機会が想定されるものについては本項目を記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 防虫ネットの利用 | ねらい | 施設栽培では、防虫ネットの利用によって栽培面で悪影響がない限りは、原則として必須項目とする。 また、特定の害虫に対する侵入防止対策が、生産上極めて重要な品目については、防虫ネットの目合いまで記載した（例：トマトのコナジラミ類）。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 障壁の設置 | ねらい | 本項目での障壁とは、露地栽培における防風対策と併せて、ほ場への害虫の侵入防止を図るために設置する防風ネットや植物等を意味する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 近紫外線除去フィルムの利用 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 光反射資材の利用 | ねらい | 害虫のほ場への侵入又は植物体への寄生を防ぐために、光反射資材を利用する。 マルチとしての利用が可能な資材、又は被覆用としての利用が可能な資材があるため、各品目の栽培体系に応じて実践内容を記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 (アルミ蒸着フィルム、白色ポリ不織布等) |
| 黄色灯の利用 | ねらい | ほ場に黄色灯を設置して、ヤガ類等に対する忌避効果をねらう。 費用面等も考慮して、本項目の実用性が見込める品目について記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |

| | | |
|---------------------|-----|--|
| 蒸し込み | ねらい | 施設内の病害虫を死滅させ、施設内での残存及び周辺への分散を防ぐために、栽培終了後に蒸し込みを実施する。 原則として、同一施設内において、年に2作以上作付けする品目では、年に1回以上実施することとする。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 交信かく乱剤の利用 | ねらい | チョウ目害虫の成虫の交尾を阻害し、次世代以降の密度を抑制するため、人工的に合成した性フェロモン剤（交信かく乱剤）を利用する。 費用面等も考慮して、本項目の実用性が見込める品目について記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 微生物殺菌剤の利用 | ねらい | 病原菌の植物体への侵入及び植物体上での増殖を防ぐために、拮抗作用を有する微生物由来の生物農薬を利用する。 実用性が見込める品目については本項目を記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 微生物殺虫剤の利用 | ねらい | 実践内容のとおり。 特定の害虫に対して、ウイルス剤の実用性が見込める場合には、その旨を記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 微生物殺虫剤の利用 （BT 剤） | ねらい | BT 剤は、微生物由来の生物農薬であり、チョウ目（鱗翅目）害虫に対して有効であることから、露地栽培では以下の主な目的又は理由により必須項目とする。 1 防除スケジュールの中のローテーションの一つの手段として用いることで、薬剤抵抗性発達の防止が図られる。 2 土着天敵に対して影響が小さい。 3 農薬のポジティブリスト制度に対応できる手段である。 露地栽培において、チョウ目害虫に対して2回以上防除を実施する場合には、1回以上 BT 剤を利用すること。 一方、施設栽培では、防虫ネットの利用が原則として必須項目となっており、この手段によって一定の密度抑制効果が見込まれることから、選択技術とする。 |

| | | |
|--------------------------|-----|--|
| 微生物殺虫剤の利用 (BT 剤) | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 天敵の利用 | ねらい | 本項目での「天敵」とは、害虫を捕食又は害虫へ寄生する節足動物類（クモ、ダニ、昆虫等）として定義する。 各品目での、技術の実用性及び普及実態等を考慮して、必須項目又は選択項目を位置付けた。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 ※本項目が必須となっている品目では、必ず資材名を記録すること。 |
| 土着天敵の保護利用 (選択的農薬の利用) | ねらい | 各種害虫に対して化学合成農薬で防除を実施する際、土着天敵（クモ、ダニ、昆虫等）の保護利用が図られるよう、土着天敵に影響が小さい農薬（選択的農薬）を利用する。 なお、付表の選択的農薬については、「鹿児島県 IPM 実践指標策定要領（IPM 実践指標に掲載する農薬の考え方）」に基づき、一定の要件を満たす農薬を例示した。 「鹿児島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の中で定める、化学合成農薬使用成分回数を目標とし、所定の回数範囲内において、効果的に選択的農薬を利用できるように努めることとする。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由 ※選択的農薬を積極的に取り入れることがねらいであり、リスト以外の農薬の使用を制限するものではないが、リスト以外の農薬は、選択的農薬では防除できない、あるいは防除が困難な場合など、必要最小限の使用に努めること。 選択的農薬は、全ての天敵に対して影響がないものだけでなく、一定のグループ数の天敵に対して影響がないものを例示してあり、影響の詳細については、IPM 実践指標総論の付表を参照すること。 |
| 土着天敵の保護利用 (天敵温存植物の利用) | ねらい | 栽培植物に影響のないソルゴー等をほ場周辺に植栽し、アブラムシ類やチョウ目害虫等の土着天敵を増殖させ、栽培植物の害虫防除に利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には植物名 |

| | | |
|------------------------|-----|---|
| 土壌処理剤による予防措置 | ねらい | 実践内容のとおり。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 農薬の使用全般 | ねらい | 本実践項目に記載する内容は、農薬の適正使用、農薬飛散防止対策及び関連法規の遵守等において必要なものを記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| その他（品目ごとに特異的に掲載した実践項目） | | |
| 夏季の湛水処理（にんじん） | ねらい | 難防除畑雑草の発生および有害線虫の増殖を抑制するため、播種前の7～8月に、畑地を約30日間湛水処理して還元状態にする。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 湛水処理時は、期間中の平均の1日当たり減水深が3cm程度になるように、鎮圧や代かきなどに努める。 ※畑地かんがい水を利用する場合は、水利権の確保が必要である。 |
| 温湯消毒の実施（らっきょう） | ねらい | 種苗伝染する病害虫防除のために、種球を47℃の温湯に30分～1時間浸漬する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 特定の病害虫に対する対策 | ねらい | 各品目において、特定の対策が必要な病害虫（雑草）については、必要に応じて記載した。 県又は関係機関・団体等の指導内容に基づいて実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（いちご [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|--|--|---|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ハダニ類に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全親株及び健全苗の確保に努める（※親株は極力毎年更新する） | ● | |
| | | 雨よけ高設ベンチ育苗を行う | ○ | |
| | 6 | 土壌改良及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う（土耕栽培） | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する（土耕栽培） | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培） | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ○ |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| 17 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ○ | |
| 生物的防除 | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、アブラムシ類及びコナジラミ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | ● |
| アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | | ○ | | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 育苗時にアブラムシ類、ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 23 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類、ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|--------------------------|---|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | チェス顆粒水和剤 | |
| | ベネビアOD | |
| ハ ダ ニ 類 | カネマイトフロアブル | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカカシラアザミウマ等） |
| | コロマイト乳剤・水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニサラバフロアブル | |
| | ダニトロンフロアブル | |
| | テデオン乳剤 | |
| | ニッソラン水和剤 | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アタブロン乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | カウンター乳剤 | |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードフロアブル トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |
| | モベントフロアブル | |
| | ロムダンフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【いちご [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---------------------------|---|---|------------------|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②ハダニ類に対する、天敵の利用 | | | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全親株及び苗の確保 | 健全親株及び健全苗の確保に努める (※親株は極力毎年更新する) | ● | | |
| | | 雨よけ高設ベンチ育苗を行う | ○ | | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | | |
| | | 十分な耕うんを行う（土耕栽培） | ● | | |
| | | | 良質な堆肥を施用する（土耕栽培） | ● | |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | | |
| | 8 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | | |
| | 9 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| | 10 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| | 11 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | | |
| 12 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | | |
| 物理的防除 | 13 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培） | ○ | | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | | |
| | 14 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | | |
| | 15 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ○ | | |
| | 16 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | | |
| 17 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ○ | | | |
| 生物的防除 | 18 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ | | |
| | 19 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、アブラムシ類及びコナジラミ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ | | |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる | ○ | | |
| | 20 天敵の利用 | ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | ● | | |
| アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | | ○ | | | |
| 21 土着天敵の保護利用 | 育苗時にアブラムシ類、ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | | |
| 化学的防除 | 22 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | | |
| | 23 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 12 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【いちご [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②ハダニ類に対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種の防除 | 5 | 健全親株及び健全苗の確保 | 健全親株及び健全苗の確保 ※種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 | ● | |
| | | 苗の確保 | 雨よけ高設ベンチ育苗の実施の有無 | ○ | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 10 | 施設内環境の管理 | | ● | | |
| 11 | マルチの利用 | | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 蒸し込み | | ○ | |
| 生物的防除 | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | 資材名を記載 | ● | |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（すいか）

| 実践のポイント | | | | |
|---|------------|--|--|---|
| ①病害及び線虫に対する、接木苗の使用等の耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために接木苗を用いる | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生の抑制のために、マルチを利用する | ● |
| 13 | リビングマルチの利用 | 雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類等を間作する | ○ | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的 防除 | 15 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 16 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類及びアブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的 防除 | 17 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 19 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的 防除 | 20 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 21 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|--------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等) |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | チェス水和剤・顆粒水和剤 | |
| ア ザ ミ ウ マ 類 | アタブロン乳剤 | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 (アカメガシワクダアザミウマ) 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類、カスミカメムシ類) |
| ハ ダ ニ 類 | カネマイトフロアブル | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等) 捕食性アザミウマ (ハダニアザミウマ、カカシワクダアザミウマ等) |
| | コロマイト乳剤・水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニトロンフロアブル | |
| | テデオン乳剤 | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アタブロン乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| | カスケード乳剤 | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレバソンフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【すいか】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|------------|-------------------------------------|--|-------|--|
| ①病害及び線虫に対する、接木苗の使用等の耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために接木苗を用いる | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 13 | リビングマルチの利用 | 雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類等を間作する | ○ | | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 16 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類及びアブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | | |
| 生物的防除 | 17 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、パチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | 鱗翅目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 19 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 20 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 21 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【すいか】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-----------------------------------|----------------|------------------|--|-------|--|
| ①病害及び線虫に対する、接木苗の使用等の耕種の防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種 的 防 除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 接木苗の使用 | | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には草種を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等 の除去 | | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | | ● | |
| 13 | リビングマルチ の利用 | 利用した場合には植物名を記載 | ○ | | |
| 14 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理 的 防 除 | 15 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載 | ○ | |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| 生物 的 防 除 | 17 | 微生物殺菌剤 の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 微生物殺虫剤 の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ● | |
| | 19 | 土着天敵の 保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学 的 防 除 | 20 | 土壌処理剤による 予防措置 | | ○ | |
| | 21 | 農薬の 使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（トマト・ミニトマト【施設】）

| 実践のポイント | | | |
|--|--|---|-------|
| ①病害及び線虫に対する、抵抗性・耐病虫性品種等の耕種的防除を中心とした対策 ②コナジラミ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的 事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● |
| | 7 抵抗性・耐病虫性品種の利用 | 病害及び線虫等の対策のために、抵抗性又は耐病虫性を有する穂木及び台木を利用する | ● |
| | 8 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う（土耕栽培） | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する（土耕栽培） | ● |
| | 9 排水対策の実施 | 排水対策を実施する（土耕栽培） | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 13 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（土耕栽培） | ● | |
| 14 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的 防除 | 15 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培） | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する（土耕栽培） | ○ |
| | 16 気門封鎖剤の利用 | コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 17 防虫ネットの利用 | コナジラミ類の侵入を防ぐために、目合いが0.4mm以下の防虫ネットを設置する | ● |
| | 18 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 19 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| 20 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的 防除 | 21 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病及びうどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 22 微生物殺虫剤の利用 | コナジラミ類、アブラムシ類及びアザミウマ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 23 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| ハモグリハエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | ○ | |
| 24 土着天敵の保護利用 | 3月以降のハモグリハエ類に対して、土着の寄生蜂を利用する | ○ | |
| 化学的 防除 | 25 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 26 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【トマト・ミニトマト〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---------------------------------------|--|---|-------|--|
| ①病害及び線虫に対する、抵抗性・耐病虫性品種等の耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②コナジラミ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 白らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● | |
| | 7 抵抗性・耐病虫性品種の利用 | 病害及び線虫等の対策のために、抵抗性又は耐病虫性を有する種木及び台木を利用する | ● | |
| | 8 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う（土耕栽培） | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する（土耕栽培） | ● | |
| | 9 排水対策の実施 | 排水対策を実施する（土耕栽培） | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 12 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 13 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（土耕栽培） | ● | | |
| 14 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 15 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する（土耕栽培） | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する（土耕栽培） | ○ | |
| | 16 気門封鎖剤の利用 | コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 17 防虫ネットの利用 | コナジラミ類の侵入を防ぐために、目合いが0.4mm以下の防虫ネットを設置する | ● | |
| | 18 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 19 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | |
| 20 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | | |
| 生物的防除 | 21 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病及びうどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 22 微生物殺虫剤の利用 | コナジラミ類、アブラムシ類及びアザミウマ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ | |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 23 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | ○ | | |
| 24 土着天敵の保護利用 | 3月以降のハモグリバエ類に対して、土着の寄生蜂を利用する | ○ | | |
| 化学的防除 | 25 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 26 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 22 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 12 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【トマト・ミニトマト [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---------------------------------------|-----------|---------------|---|-------|
| ①病害及び線虫に対する、抵抗性・耐病虫性品種等の耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②コナジラミ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | / | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | / | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | / | ● |
| | 7 | 抵抗性・耐病虫性品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ● |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断は場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 耕うんの実施の有無 | ● |
| | 9 | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● |
| | 9 | 排水対策の実施 | / | ● |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | / | ● |
| | 12 | 施設内環境の管理 | / | ● |
| | 13 | マルチの利用 | / | ● |
| 14 | 残渣処理 | / | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | / | ○ |
| | 17 | 防虫ネットの利用 | / | ● |
| | 18 | 近紫外線除去フィルムの利用 | / | ○ |
| | 19 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 20 | 蒸し込み | / | ● |
| 生物的防除 | 21 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 22 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 23 | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 23 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 24 | 土着天敵の保護利用 | / | ○ | |
| 化学的防除 | 25 | 土壌処理剤による予防措置 | / | ○ |
| | 26 | 農薬の使用全般 | / | ● |
| 26 | 農薬の使用全般 | | / | ● |
| 26 | 農薬の使用全般 | / | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（にがうり [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|---|----------|--|---|---|
| ①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用 ②アブラムシ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 発生予察 | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ☆ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 13 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ☆ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ☆ |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 17 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 18 | 近紫外線除去フィルム の利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| 19 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | |
| 20 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるために、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的防除 | 21 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 22 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 23 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| 化学的防除 | 24 | 土壌処理剤による 予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 25 | 農薬の 使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は15の耕種的防除又は物理的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|--------------------------------------|--------|--|---|-------|
| ①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用 | | | | |
| ②アブラムシ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容を記録する | ● |
| 耕種 的防 除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ☆ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 13 | マルチの利用 | 肥料と土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理 的防 除 | 15 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ☆ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ☆ |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 17 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 18 | 近紫外線除去 フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 19 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| 20 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるために、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物 的防 除 | 21 | 微生物殺菌剤 の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 22 | 微生物殺虫剤 の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 23 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| 化学 的防 除 | 24 | 土壌処理剤による 予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 25 | 農薬の 使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目9又は15の耕種的防除又は物理的防除のいずれか一つを必ず実施する
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-----------|
| ●の数 | ●の 実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の 実施数 |
| 7 | |
| ☆の数 | ☆の 実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--------------------------------------|--------|-------------------|--|-------|--|
| ①線虫に対する、耕種防除及び物理的防除の利用 | | | | | |
| ②アブラムシ類の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための物理的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 接木苗の使用 | | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ☆ | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| | 12 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| 13 | マルチの利用 | | ● | | |
| 14 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ☆ | |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 17 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| | 18 | 近紫外線除去 フィルムの利用 | | ○ | |
| | 19 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 蒸し込み | | ● | |
| 生物的防除 | 21 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 22 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 23 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 24 | 土壌処理剤による 予防措置 | | ○ | |
| | 25 | 農薬の 使用全般 | | ● | |
| | | | ● | | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は15の耕種防除又は物理的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（にがうり [露地]）

| 実践のポイント | | | |
|--|----------|--|---|
| ①線虫に対する、耕種的防除及び物理的防除の利用 | | | |
| ②アブラムシ類の侵入防止及び増殖抑制対策のための物理的防除の利用 | | | |
| ③ハダニ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する ●</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する ●</p> |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する ● |
| | | | 十分な耕うんを行う ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する ☆ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目17の実施で条件を満たす） ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する ☆ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する ☆ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する ○ |
| | 16 | 障壁の設置 | アブラムシ類等の侵入防止を図るために、ほ場の周囲にソルゴーを栽培するか、又は防風ネットを設置し、防風対策と併せて障壁として利用する ● |
| 17 | 光反射資材の利用 | アブラムシ類等の侵入と定着を防ぐために、光反射性のマルチを利用する ○ | |
| 生物的防除 | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する ○ |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる ● |
| | 20 | 土着天敵の保護利用 | ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） ● |
| 化学的防除 | 21 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する ○ |
| | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は14の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

付表1 ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|--------|------------|--|
| ハダニ類 | ダニトロンフロアブル | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | ニッソラン水和剤 | 捕食性アザミウマ (ハダニアザミウマ, アカガシウマアザミウマ等) |
| チョウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり〔露地〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|----------|--|--|-------|--|
| ①線虫に対する、耕種の防除及び物理的防除の利用 | | | | | |
| ②アブラムシ類の侵入防止及び増殖抑制対策のための物理的防除の利用 | | | | | |
| ③ハダニ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ☆ | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目17の実施で条件を満たす） | ● | | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ☆ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ☆ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 16 | 障壁の設置 | アブラムシ類等の侵入防止を図るために、ほ場の周囲にソルゴーを栽培するか、又は防風ネットを設置し、防風対策と併せて障壁として利用する | ● | |
| 17 | 光反射資材の利用 | アブラムシ類等の侵入と定着を防ぐために、光反射性のマルチを利用する | ○ | | |
| 生物的防除 | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 20 | 土着天敵の保護利用 | ハダニ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 22 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は14の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 4 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にがうり [露地]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|------|------------------|--|-------|--|
| ①線虫に対する、耕種の防除及び物理的防除の利用 | | | | | |
| ②アブラムシ類の侵入防止及び増殖抑制対策のための物理的防除の利用 | | | | | |
| ③ハダニ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種 的 防 除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 接木苗の使用 | | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ☆ | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等 の除去 | | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | | ● | |
| 13 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理 的 防 除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載 | ☆ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 16 | 障壁の設置 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 生物 的 防 除 | 18 | 微生物殺菌剤 の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤 の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 20 | 土着天敵の 保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学 的 防 除 | 21 | 土壌処理剤による 予防措置 | | ○ | |
| | 22 | 農薬の 使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目9又は14の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM実践指標（ピーマン [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|---|----------|---|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p> | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害対策のために、接木苗を用いる | ○ |
| | 7 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ● |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 9 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 17 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| 18 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | |
| 19 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的防除 | 20 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 22 | 天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● |
| | | | アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する | ○ |
| | | | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| 23 | 土着天敵の利用 | ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | ○ | |
| | | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する | ○ | |
| 24 | 土着天敵の利用 | ジャガイモヒゲナガアブラムシ等に対して、ギファブラバチを利用する | ○ | |
| | | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| 25 | 農薬の使用全般 | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ピーマン [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--------------|---|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害対策のために、接木苗を用いる | ○ |
| | 7 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ● |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 9 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 17 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| 18 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | |
| 19 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的防除 | 20 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 22 | 天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● |
| | | | アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する | ○ |
| アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | | | ○ | |
| 23 | 土着天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する | ○ | |
| | | ジャガイモヒゲナガアブラムシ等に対して、ギフアブラバチを利用する | ○ | |
| 24 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| 25 | 農薬の使用全般 | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 15 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ピーマン〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|---------|-------------------|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | | ● |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | | ○ |
| | 7 | 抵抗性・耐病性 品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ● |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● |
| | | | 耕うんの実施の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● |
| | 9 | 排水対策の実施 | | ● |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● |
| | 11 | 罹病植物体等 の除去 | | ● |
| | 12 | 施設内環境の 管理 | | ● |
| 13 | 残渣処理 | | ● | |
| 物理的 防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載 | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | | ● |
| | 17 | 近紫外線除去 フィルムの利用 | | ○ |
| | 18 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 19 | 蒸し込み | | ● | |
| 生物的 防除 | 20 | 微生物殺菌剤 の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 21 | 微生物殺虫剤 の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 22 | 天敵の利用 | 利用した資材名を記載 | ● |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | |
| 23 | 土着天敵の利用 | | ○ | |
| 化学的 防除 | 24 | 土壌処理剤による 予防措置 | | ○ |
| | 25 | 農薬の 使用全般 | | ● |
| | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（きゅうり [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p> | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● |
| | 7 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ● |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 9 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 13 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 17 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 18 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 19 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| 20 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的防除 | 21 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | | | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボアベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | 22 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | | | アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● |
| | | | アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する | ○ |
| | | | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| 23 | 天敵の利用 | ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | ○ | |
| | | ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| 化学的防除 | 24 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 25 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【きゅうり [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-------------------------------------|---|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● | |
| | 7 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ● | |
| | 8 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 9 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 12 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 13 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | | |
| 14 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 15 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 16 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 17 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 18 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 19 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | |
| 20 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | | |
| 生物的防除 | 21 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 22 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ | |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 23 天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● | |
| | | アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する | ○ | |
| アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | | ○ | | |
| ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | | ○ | | |
| | | ハモグリハエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| 化学的防除 | 24 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 25 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| 農薬の飛散防止対策に努める | | ● | | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 23 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 13 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【きゅうり〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|--------------------------------|------|---|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 接木苗の使用 | ● | |
| | 7 | 抵抗性・耐病性 品種の利用 栽培に供した品種を記載 | ● | |
| | 8 | 土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 9 | 排水対策の実施 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 カバープランツ等を利用した場合には草種を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の 除去 | ● | |
| | 12 | 施設内環境の 管理 | ● | |
| | 13 | マルチの利用 | ● | |
| | 14 | 残渣処理 | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 16 | 気門封鎖剤の利用 | ○ | |
| | 17 | 防虫ネットの利用 | ● | |
| | 18 | 近紫外線除去 フィルムの利用 | ○ | |
| | 19 | 光反射資材の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 20 | 蒸し込み | ● | | |
| 生物的防除 | 21 | 微生物殺菌剤 の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 22 | 微生物殺虫剤 の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 23 | 天敵の利用 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 24 | 土壌処理剤による 予防措置 | ○ | |
| | 25 | 農薬の 使用全般 | ● | |
| | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（なす【施設】）

| 実践のポイント | | | | |
|---|---------|--|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 11 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的 防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| 18 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的 防除 | 19 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | | | アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ☆ |
| | 21 | 天敵の利用 | アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する | ○ |
| | | | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| ハダニ類に対して、カブリダニ類等の天敵を利用する | | | ○ | |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | | ○ | |
| 22 | 土着天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する | ☆ | |
| 化学的 防除 | 23 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 24 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目21（スワルスキーカブリダニ）又は22の生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（なす〔施設〕）（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|--------------------------------|---------|--|---|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | 病害及び線虫等の対策のために、接木苗を用いる | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 11 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| 18 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的防除 | 19 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病及び灰かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ホーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 21 | 天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ☆ |
| | | | アザミウマ類に対して、タイリクヒメハナカメムシを利用する | ○ |
| | | | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| ハダニ類に対して、カブリダニ類等の天敵を利用する | | | ○ | |
| 22 | 土着天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、タバコカスミカメを利用する | ☆ | |
| 化学的防除 | 23 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 24 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目21（スワルスキーカブリダニ）又は22の生物的防除のいずれかを必ず実施する
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 12 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（なす〔施設〕）（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|--------------------------------|---------|------------------|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②アザミウマ類やコナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 接木苗の使用 | | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には草種を記載 | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | | ● |
| | 11 | 施設内環境の管理 | | ● |
| 12 | マルチの利用 | | ● | |
| 13 | 残渣処理 | | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 18 | 蒸し込み | | ● |
| 生物的防除 | 19 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 21 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | |
| 22 | 土着天敵の利用 | 利用した場合には天敵の種類を記載 | ☆ | |
| 化学的防除 | 23 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ |
| | 24 | 農薬の使用全般 | | ● |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目21（スワルスキーカブリダニ）又は22の生物的防除のいずれかを必ず実施する
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（オクラ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|---|---|---|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ○ |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 18 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| | | アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ● | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|-------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | チェス顆粒水和剤 | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アタブロン乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【オクラ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 マルチの利用 | 肥料と土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | | |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する | ● | | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 15 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | | |
| 生物的防除 | 16 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ○ | |
| | 17 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 18 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | | ● | | |
| 化学的防除 | 19 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| 20 農薬の使用全般 | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 22 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【オクラ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|------|---|-------|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種子の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | ● | |
| | 8 | 防風対策 | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等 の除去 | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | ● | |
| 13 | 残渣処理 | ● | | |
| 物理的 防除 | 14 | 土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | ○ | |
| 生物的 防除 | 16 | 交信かく乱剤 の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤 の利用 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 18 | 土着天敵の 保護利用 選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載 利用した植物名を記載 | ● | |
| ● | | | | |
| 化学的 防除 | 19 | 土壌処理剤による 予防措置 | ○ | |
| | 20 | 農薬の 使用全般 | ● | |
| | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（かぼちゃ）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|--|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 防風対策 | 障壁植物等により、防風対策を実施する | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 15 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| 16 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネット等で被覆する | ○ | |
| 生物的防除 | 17 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤を利用する | ○ |
| | 18 微生物殺虫剤の利用 | コナジラミ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 19 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる | ● | |
| | アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する （※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ● | |
| 化学的防除 | 20 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 21 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|----------|--|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| チョウ目害虫 | ベネビアOD | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| ハモグリバエ類 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 クモ類 |
| | トリガード液剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼちゃ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--------------------------------|-----------|--|--|-------|--|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | | |
| 物理的 防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネット等で被覆する | ○ | | |
| 生物的 防除 | 17 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病等に対して、バチルス剤を利用する | ○ | |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | コナジラミ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ | |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 19 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる | ● | | |
| | | アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ● | | |
| 化学的 防除 | 20 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 22 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼちゃ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|---|--|-------|--|
| ①病害及び線虫に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 防風対策 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | | ● | |
| | 13 | 残渣処理 | | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネット等で被覆する | ○ | |
| 生物的防除 | 17 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 19 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 利用した植物名を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 20 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（ごぼう）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を使用する | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 10 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | |
| | 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 13 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 化学的防除 | 14 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ● |
| | 15 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ごぼう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を使用する | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 10 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | | |
| | 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的防除 | 13 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 化学的防除 | 14 | 土壌処理剤による 予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ● | |
| | 15 | 農薬の 使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 17 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 4 | |

鹿児島県 IPM 実践指標【ごぼう】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|----------------------------------|--------|------------------|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | | ● |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● |
| | 7 | 排水対策 | | ● |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ○ |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● |
| 10 | マルチの利用 | | ○ | |
| 11 | 残渣処理 | | ● | |
| 物理的 防除 | 12 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ |
| 生物的 防除 | 13 | 微生物殺虫剤 の利用 | 利用した資材名を記載 | ● |
| 化学的 防除 | 14 | 土壌処理剤による 予防措置 | | ● |
| | 15 | 農薬の 使用全般 | | ● |
| | | | | ● |
| | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さといも）

| 実践のポイント | | | | |
|----------------------------------|--------|-------------------------------------|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種いもを用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | |
| | 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| 生物的防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|--------|-------------|--|
| チョウ目害虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| | トルネードエースDF | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県 IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さといも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|-------------------------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種 的 防 除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種いもを用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理 的 防 除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 14 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | | |
| 生物 的 防 除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学 的 防 除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-----------|
| ●の数 | ●の 実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の 実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標【さといも】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|----------------------------------|------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| | 11 | マルチの利用 | | ○ | |
| 12 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（しょうが）

| 実践のポイント | | | | |
|----------------------------------|--------|-------------------------|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ○ |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 12 | 敷わらの利用 | 雑草抑制や病害予防のために、敷わら等を利用する | ● | |
| | 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97） | ● |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|--------|-------------|--|
| チョウ目害虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しょうが】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------|-------------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ○ | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 | 敷わらの利用 | 雑草抑制や病害予防のために、敷わら等を利用する | ● | | |
| | 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97） | ● | |
| 物理的 防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的 防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的 防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 19 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しょうが】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|----------------------------------|--------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 防風対策 | | ○ | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 12 | 敷わらの利用 | | ● | | |
| 13 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（だいこん）

| 実践のポイント | | | | |
|---|----------|--|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 発生予察 | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 土壌消毒 | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、菌核病に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 18 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| 20 | 農薬の使用全般 | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|--------|-------------|--|
| チョウ目害虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | アタブロン乳剤 | |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソソフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県 IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【だいこん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|---|--|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ | |
| | 7 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | | |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる（参考：p97） | ● | | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 15 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、菌核病に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ | |
| | 17 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 18 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 19 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 20 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 8 | |

鹿児島県 IPM 実践指標【だいこん】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 12 | マルチの利用 | | ○ | | |
| 13 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 18 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 20 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（にんじん）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | |
| | 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 14 | 夏季の湛水処理 | 夏季に湛水を実施する | ○ |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【にんじん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|--|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | | |
| | 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | |
| | 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的 防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 14 | 夏季の湛水処理 | 夏季に湛水を実施する | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的 防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 化学的 防除 | 17 | 土壌処理剤による 予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 18 | 農薬の 使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-----------|
| ●の数 | ●の 実施数 |
| 17 | |
| ○の数 | ○の 実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標【にんじん】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|----------------------------------|--------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②チョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ○ | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 11 | マルチの利用 | | ○ | | |
| 物理的防除 | 12 | 残渣処理 | | ● | |
| | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 夏季の湛水処理 | | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（ばれいしょ）

| 実践のポイント | | | |
|--|---|--|-------|
| ①病害対策のための健全種苗の使用 ②病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ③アブラムシ類によるウイルス媒介を防ぐための予防及び土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全無病な優良種苗を使用するため、植物防疫法に基づく種ばれいしょの検査に合格したもの、または鹿児島県ばれいしょ原種ほ等設置要領に基づいて生産された種いもを用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ○ |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 15 米ぬかの使用 | そうか病の発生防止対策のために、米ぬか等を利用する | ○ |
| | 16 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● |
| 化学的防除 | 17 疫病対策 | 気温の変化と植物の生育ステージに応じて予防主体の防除を実施する | ● |
| | | 産地毎に設定されている、疫病対策農薬のローテーション散布を実施する | ● |
| | 18 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| 農薬の飛散防止対策に努める | | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|----------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | チェス顆粒水和剤 | |
| | ベネビアOD | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ばれいしょ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|--|---|--|-------|-------|
| ①病害対策のための健全種苗の使用 ②病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ③アブラムシ類によるウイルス媒介を防ぐための予防及び土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全無病な優良種苗を使用するため、植物防疫法に基づく種ばれいしょの検査に合格したもの、または鹿児島県ばれいしょ原種ほ等設置要領に基づいて生産された種いもを用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ○ | |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害やセンチュウ対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ○ | | |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97） | ● | | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的防除 | 15 米ぬかの使用 | そうか病の発生防止対策のために、米ぬか等を利用する | ○ | |
| | 16 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 17 疫病対策 | 気温の変化と植物の生育ステージに応じて予防主体の防除を実施する | ● | |
| | | 産地毎に設定されている、疫病対策農薬のローテーション散布を実施する | ● | |
| | 18 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ばれいしょ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|--------|------------------|--|----------------|---|
| ①病害対策のための健全種苗の使用 ②病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ③アブラムシ類によるウイルス媒介を防ぐための予防及び土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した購入年月日と購入先を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 防風対策 | | ○ | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 12 | マルチの利用 | | ○ | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 生物的防除 | 15 | 米ぬかの使用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 16 | | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 17 | 疫病対策 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（さつまいも）

| 実践のポイント | | | |
|------------------------------------|---|--|-------|
| ①病害対策のための健全苗及び種いもの使用 ②土着天敵の保護利用 | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全苗及び種いもを使用する | ● |
| | 6 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害の対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する（参考：付表1） | ○ |
| | 7 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 15 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類、ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 17 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2） | ● |
| 化学的防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ● |
| | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 鹿児島県のさつまいも奨励品種における抵抗性又は耐病虫性の目安

| 品種名 | 黒斑病 | 帯状粗皮病 | かいよう病 | ネコブセンチュウ | ネグサレセンチュウ |
|------------------|-----|-------|-------|----------|-----------|
| コガネセンガン | 弱 | やや強 | やや強 | やや弱 | 弱 |
| 高系14号 (ベニサツマ) | 弱 | 弱 | 弱 | やや弱 | 強 |
| ベにはるか | 中 | やや弱 | やや弱 | 強 | やや強 |

注)「農作物奨励品種特性表」(平成27年3月 鹿児島県, 鹿児島県米・麦・大豆等生産対策協議会発行)より引用

付表2 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|--------|-------------|---|
| チョウ目害虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 捕食性カメムシ類 (ハリクチプトカメムシ類) |
| | アタブロン乳剤 | |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |
| | ロムダンフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さつまいも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------------------|----------|--|--|-------|--|
| ①病害対策のための健全苗及び種いもの使用 ②土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を使用する | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害の対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する（参考：付表1） | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣及びほ場内に残ったいもは、ほ場外に持ち出す等次作に影響がないよう適切に処分する（参考：p97） | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | | |
| 15 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類、ハダニ類及びコナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2） | ● | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ● | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さつまいも】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------------------|------|------------------|--|-------|--|
| ①病害対策のための健全苗及び種いもの使用 ②土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | | ● | |
| 13 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | | ● | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（アスパラガス [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|--|-------------------------------------|---|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 8 罹病植物体等の除去 | 発病した茎葉及び整枝後の残渣等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 9 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 10 残渣処理 | 栽培終了後は、茎葉を地際部より短く刈り取り、ほ場外に持ち出し処分する | ● | |
| 物理的防除 | 11 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 12 気門封鎖剤の利用 | コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 13 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 14 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 15 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ |
| 16 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウに対して、黄色灯を利用する | ☆ | |
| 生物的防除 | 17 交信かく乱剤の利用 | ハスモンヨトウに対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 18 微生物殺虫剤の利用 | ハスモンヨトウに対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤を利用する | ○ |
| 19 天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ○ | |
| 化学的防除 | 20 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 21 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【アスパラガス〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|--|-------------------------------------|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 8 罹病植物体等の除去 | 発病した茎葉及び整枝後の残渣等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 9 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 10 残渣処理 | 栽培終了後は、茎葉を地際部より短く刈り取り、ほ場外に持ち出し処分する | ● | | |
| 物理的防除 | 11 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 12 気門封鎖剤の利用 | コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 13 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 14 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 15 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| 16 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウに対して、黄色灯を利用する | ☆ | | |
| 生物的防除 | 17 交信かく乱剤の利用 | ハスモンヨトウに対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 18 微生物殺虫剤の利用 | ハスモンヨトウに対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤を利用する | ○ | |
| 19 天敵の利用 | アザミウマ類及びコナジラミ類に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ○ | | |
| 化学的防除 | 20 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 21 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 17 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 8 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【アスパラガス〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|----------|----------------|--|-------|---|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 8 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 9 | 施設内環境の管理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 10 | 残渣処理 | | ● | |
| | 11 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 12 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 13 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| | 14 | 近紫外線除去フィルムの利用 | | ○ | |
| | 15 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 黄色灯の利用 | | ☆ | } |
| | 17 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 19 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | | |
| 化学的防除 | 20 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

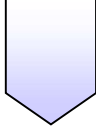
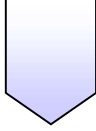
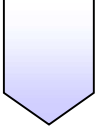
鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（たまねぎ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ネギハモグリバエ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 14 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 15 | 土着天敵の保護利用 | ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1） | ○ |
| 化学的防除 | 16 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 15 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させる植栽管理のイメージ

| 時期 | 作業 |
|-----------|--|
| 9月 | <p>● たまねぎの栽培ほ場周辺にアブラナ科植物（菜の花など）を播種</p>  <p>ナモグリバエがアブラナ科植物で発生</p> |
| 10月上中旬 | <p>ナモグリバエに土着の寄生蜂が寄生</p>  |
| 10月下旬～11月 | <p>● たまねぎ定植</p>  <p>たまねぎでネギハモグリバエが発生するとアブラナ科植物から土着の寄生蜂だけが移動してくる</p> |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【たまねぎ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|---|-------|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②ネギハモグリバエ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 14 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 15 | 土着天敵の保護利用 | ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1） | ○ |
| 化学的防除 | 16 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 15 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 19 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 4 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【たまねぎ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ネギハモグリバエ及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 11 | マルチの利用 | | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 14 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 15 | 土着天敵の保護利用 | 利用した場合には植物名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 16 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 15 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（らっきょう）

| 実践のポイント | | | | |
|---------------------------------------|-----------|---------------------------|---|---|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②健全種球の確保 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種球の使用 | 健全種球を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により防風対策を実施する | ○ |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| | 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 14 | 温湯消毒の実施 | ネダ二類等の対策として種球の温湯消毒を実施する | ○ |
| 化学的防除 | 15 | 土壌処理剤による 予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 16 | 農薬の 使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【らっきょう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---------------------------------------|------|-------------------------------|---|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②健全種球の確保 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種球の使用 | 健全種球を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により防風対策を実施する | ○ |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| | 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● |
| 物理的 防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 14 | 温湯消毒の実施 | ネダニ類等の対策として種球の温湯消毒を実施する | ○ |
| 化学的 防除 | 15 | 土壌処理剤による 予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、植付前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 16 | 農薬の 使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-----------|
| ●の数 | ●の 実施数 |
| 17 | |
| ○の数 | ○の 実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【らっきょう】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---------------------------|-----------|------------------|--|-------|--|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②健全種球の確保 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種球の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 防風対策 | | ○ | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 温湯消毒の実施 | | ○ | |
| 化学的防除 | 15 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 16 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（レタス）

| 実践のポイント | | | | |
|---|---------|-------------------------------------|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| | 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生の抑制のために、マルチを利用する | ● |
| 13 | リビングマルチ | 雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類を間作する | ○ | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる | ● |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|-------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | ベネビアOD | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| | アタブロン乳剤 | |
| | カウンター乳剤 | |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソソフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |
| | ロムダンフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【レタス】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|---------|-------------------------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| 13 | リビングマルチ | 雑草抑制及び各種害虫の土着天敵の保護のために、畦間にムギ類を間作する | ○ | | |
| 14 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 18 | 農薬処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の農薬処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【レタス】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|---------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | | ● | |
| 13 | リビングマルチ | 利用した場合には植物名を記載 | ○ | | |
| 14 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 15 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する


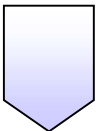
鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（根深ねぎ）

| 実践のポイント | | | | |
|--|-----------|-------------------------------------|---|---|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 | | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種の防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| 生物的防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1） | ○ |
| 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2） | | | ● | |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させる植栽管理のイメージ

| 時期 | 作業 |
|-----|---|
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> ● 前作終了→アブラナ科植物（シロカラシ又は菜の花）を播種  |
| 2月 | <p>ナモグリバエがアブラナ科植物で発生</p>   |
| 3月 | <p>ナモグリバエに土着の寄生蜂が寄生</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ねぎの栽培ほ場周辺にハゼリソウを播種  <p>ハゼリソウにナモグリバエ及び寄生蜂が移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アブラナ科植物すき込み    |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> ● ねぎ定植  <p>ねぎでネギハモグリバエが発生すると ハゼリソウから土着の寄生蜂だけが移動してくる</p>  |
| 7月 | ハゼリソウ枯死 |

付表2 ネギアザミウマ及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-------------|---|
| ネギアザミウマ | アタブロン乳剤 | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、カスミカメムシ類） |
| | ウララDF | |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| チョウ目害虫 | アタブロン乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【根深ねぎ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|-------------------------------------|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 14 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | | |
| 生物的防除 | 15 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 16 | 土着天敵の保護利用 | ネギハモグリバエの土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にアブラナ科又はハゼリソウ科の植物を植栽する（参考：付表1） | ○ | |
| 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表2） | | | ● | | |
| 化学的防除 | 17 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 18 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【根深ねぎ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-----------------------------------|----|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性 品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ○ | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等 の除去 | | ● | |
| | 12 | 残渣処理 | | ● | |
| 物理的 防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの 方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| 生物的 防除 | 15 | 微生物殺虫剤 の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 16 | 土着天敵の 保護利用 | 利用した場合には植物名を記載 | ○ | |
| 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | | | ● | | |
| 化学的 防除 | 17 | 土壌処理剤による 予防措置 | | ○ | |
| | 18 | 農薬の 使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（こまつな〔施設〕）

| 実践のポイント | | | |
|--|-------------------------------------|---|-------|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 9 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 10 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 11 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 12 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 13 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 14 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 15 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 16 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ |
| | 17 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ |
| 18 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ | |
| 生物的防除 | 19 交信かく乱剤の利用 | コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 21 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | ○ | |
| 化学的防除 | 22 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 23 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【こまつな〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|-------------------------------------|---|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| | | 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| | 17 | 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ | |
| 18 | 蒸し込み | 施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 21 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | | ○ | | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 9 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【こまつな [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|----------|---------------|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● |
| | 8 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | | ● |
| 10 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| 物理的防除 | 11 | 残渣処理 | | ● |
| | 12 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | | ● |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | | ○ |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 17 | 黄色灯の利用 | | ☆ |
| | 18 | 蒸し込み | | ○ |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ |
| | 21 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ |
| | 23 | 農薬の使用全般 | | ● |
| | | | ● | |
| | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（しゅんぎく [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|--|----------|----------------------|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| | 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ |
| 生物的防除 | 17 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラハチ等の天敵を利用する | ○ |
| | | | ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | ○ |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しゅんぎく〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|----------|----------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| | 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 17 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| | | | ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 8 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【しゅんぎく〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|--|------|----------------|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種子の使用 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | ● | |
| | | ● | | |
| | | ● | | |
| | 7 | 排水対策の実施 | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | ● | |
| | 10 | 施設内環境の管理 | ● | |
| 11 | 残渣処理 | ● | | |
| 物理的 防除 | 12 | 土壌消毒 | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | ● | |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | ○ | |
| 生物的 防除 | 17 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的 防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | ○ | |
| | 19 | ● | | |
| | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（チンゲンサイ [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|--|-------------------------------------|---|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 9 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| 10 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 11 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 12 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 13 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 14 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 15 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 16 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ |
| | 17 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ |
| 18 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ | |
| 生物的防除 | 19 交信かく乱剤の利用 | コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 21 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | ○ | |
| 化学的防除 | 22 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 23 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【チンゲンサイ〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|-------------------------------------|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | | |
| 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| | 17 | 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ | |
| 18 | 蒸し込み | 施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 21 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | | ○ | | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 9 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【チンゲンサイ〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|---------------|--|-------|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 10 | 施設内環境の管理 | | ● | | |
| 11 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 黄色灯の利用 | | ☆ | } |
| | 18 | 蒸し込み | | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | } |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 21 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（ほうれんそう [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|--|---|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 べと病及び萎凋病に対して、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ● |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う 良質な堆肥を施用する | ● ● |
| | 8 | 排水対策の実施 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 雑草管理 ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● |
| | 11 | 施設内環境の管理 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 12 | 残渣処理 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 15 | 防虫ネットの利用 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 16 | 近紫外線除去フィルムの利用 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 17 | 光反射資材の利用 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ |
| | 18 | 黄色灯の利用 ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ |
| 生物的防除 | 19 | 蒸し込み 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ |
| | 20 | 交信かく乱剤の利用 ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 22 | 天敵の利用 アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する ホウレンソウケナガコナダニに対して、ククメリスカブリダニを利用する | ○ ○ ○ |
| 23 | | 土壌処理剤による予防措置 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | | 24 | 農薬の使用全般 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける |
| 農薬の飛散防止対策に努める | ● | | |
| 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目18、20及び21の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ほうれんそう【施設】】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|--|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | べと病及び萎凋病に対して、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 11 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 16 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| | 18 | 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ | |
| 19 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ | | |
| 生物的防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 22 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | | | ○ | | |
| | | ホウレンソウケナガコナダニに対して、ククメリスカブリダニを利用する | ○ | | |
| 化学的防除 | 23 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 24 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目18、20及び21の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 19 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 10 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ほうれんそう [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|------|---------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | / | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | / | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ● | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | / | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 罹病植物体等の除去 | / | ● | |
| | 11 | 施設内環境の管理 | / | ● | |
| 12 | 残渣処理 | / | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | / | ○ | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | / | ● | |
| | 16 | 近紫外線除去フィルムの利用 | / | ○ | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 黄色灯の利用 | / | ☆ | |
| | 19 | 蒸し込み | / | ○ | |
| 生物的防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 22 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 23 | 土壌処理剤による予防措置 | / | ○ | |
| | 24 | 農薬の使用全般 | / | ● | |
| | | | / | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目18、20及び21の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（みずな [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|--|----------|---------------------------------------|--|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する ● 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する ● |
| 耕種の防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する ● |
| | | | 十分な耕うんを行う ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する ● |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する ● |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する ● |
| 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ ● | |
| 11 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる ● | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する ○ |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する ○ |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために防虫ネットを設置する ● |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する ○ |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する ○ |
| | 17 | 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する ☆ |
| 18 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する ☆ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる ☆ |
| | 21 | 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する ○ |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する ○ |
| | 23 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【みずな〔施設〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する | ● | |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 9 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 10 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 11 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 12 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 13 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 14 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために防虫ネットを設置する | ● | |
| | 15 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 16 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| | 17 黄色灯の利用 | ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、黄色灯を利用する | ☆ | |
| 18 蒸し込み | 施設内の病虫害を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 交信かく乱剤の利用 | コナガ、ハスモンヨトウ及びヨトウガ等に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 21 天敵の利用 | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| 化学的防除 | 22 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種または定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 23 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
 ☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する
 申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
 実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 8 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 3 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【みずな〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|---------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②微小害虫類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除及び生物的防除の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 10 | 施設内環境の管理 | | ● | | |
| 11 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| | 15 | 近紫外線除去フィルムの利用 | | ○ | |
| | 16 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 黄色灯の利用 | | ☆ | |
| | 18 | 蒸し込み | | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 21 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17、19及び20の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（葉ねぎ〔施設〕）

| 実践のポイント | | | | |
|--|-----------|---------------------------|---|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種 的 防 除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| | 10 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● |
| 物 理 的 防 除 | 11 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 12 | 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 13 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 14 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ |
| | 15 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ |
| | 16 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ● |
| 生 物 的 防 除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | | | ☆ | |
| 化 学 的 防 除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17又は18（BT剤）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【葉ねぎ [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|--|---------------------------|---|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 9 罹病植物体等の除去 | 発病の著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | | |
| | 10 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的防除 | 11 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 12 気門封鎖剤の利用 | アブラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 13 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 14 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ○ | |
| | 15 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを利用する | ○ | |
| | 16 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、最低年に1回は蒸し込みを行う | ● | |
| 生物的防除 | 17 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 18 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類等に対して、ポーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ | |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| 化学的防除 | 19 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 20 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目17又は18（BT剤）の生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【葉ねぎ [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|--|----|---------------|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類及びチョウ目害虫の侵入防止・増殖抑制・放出防止対策のための、物理的防除の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● |
| | 8 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | | ● |
| | 10 | 残渣処理 | | ● |
| 物理的防除 | 11 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ |
| | 12 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ |
| | 13 | 防虫ネットの利用 | | ● |
| | 14 | 近紫外線除去フィルムの利用 | | ○ |
| | 15 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 16 | 蒸し込み | | ● |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ |
| | 18 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ☆ | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ |
| | 20 | 農薬の使用全般 | | ● |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目17又は18（B T 剤）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（キャベツ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 14 | 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 15 | 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤等の利用を取り入れる | ☆ |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する | | | ○ | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|-------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | ベネビアOD | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチプトカメムシ類） クモ類 |
| | アタブロン乳剤 | |
| | カウンター乳剤 | |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【キャベツ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|--|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97） | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的防除 | 14 | 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 15 | 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ | |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤又はウイルス剤等の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する | | | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを困む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【キャベツ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 8 | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 14 | 交信かく乱剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | } |
| | 15 | 微生物殺菌剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | } |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 利用した場合には植物名を記載 | | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | ● | |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（はくさい）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 13 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 14 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 15 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ |
| | 16 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 17 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する | | ○ | |
| 化学的防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|-------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | ベネビアOD | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソソフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【はくさい】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● | |
| | 6 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ | |
| | 7 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | | |
| 12 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97） | ● | | |
| 物理的 防除 | 13 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的 防除 | 14 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ | |
| | 15 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ | |
| | 16 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 17 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する | | ○ | | |
| 化学的 防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 19 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【はくさい】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 12 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 14 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 15 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 利用した場合には植物名を記載 | | | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆：下記の14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 I P M実践指標（ブロッコリー）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|--|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 I P Mの情報収集 | I P Mに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、I P Mの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 11 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 13 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 生物的防除 | 14 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 15 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ |
| | 16 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、B T剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 17 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する | | ○ | |
| 化学的防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 アブラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|----------------------------|-------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | ベネビアOD | |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | アクセルフロアブル | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 (クチブトカメムシ類) クモ類 |
| | アタブロン乳剤 | |
| | カウンター乳剤 | |
| | カスケード乳剤 | |
| | トルネードエースDF | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソソフロアブル | |
| | ベネビアOD | |
| | マッチ乳剤 | |
| マトリックフロアブル | | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ブロッコリー】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | ● | |
| | | 病虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫対策 | 新たな侵入病虫の警戒に備えるため、病虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 | 健全種苗を用いる | ● |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 | 病害対策のために、抵抗性又は耐病性を有する品種を利用する | ○ |
| | 7 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病が著しい株等は、早めにほ場外へ持ち出し処分する | ● | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む（参考：p97） | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 生物的防除 | 14 | 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、交信かく乱剤を利用する | ☆ |
| | 15 | 微生物殺菌剤の利用 | 軟腐病、黒腐病、菌核病等に対して非病原性細菌剤又は糸状菌剤を利用する | ○ |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する | | | ○ | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫等の初期密度の抑制等の観点から、定植前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 | 農薬の使用全般 | 病虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【ブロッコリー】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種苗の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 抵抗性・耐病性品種の利用 栽培に供した品種を記載 | ○ | |
| | 7 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 8 | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 8 | 排水対策の実施 | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 14 | 交信かく乱剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | } |
| | 15 | 微生物殺菌剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | } |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 利用した場合には植物名を記載 | | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | ● | |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
☆は実践項目14又は16の生物的防除のいずれかを必ず実施する
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さやいんげん [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|--|-------------------------------------|---|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②コナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 9 罹病植物体等の除去 | 罹病株及び罹病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 10 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 11 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | |
| | 12 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● |
| 物理的防除 | 13 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 14 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 15 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● |
| | 16 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ☆ |
| | 17 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ |
| | 18 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● |
| 生物的防除 | 19 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 21 天敵の利用 | コナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ☆ |
| アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | | ○ | |
| ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | | ○ | |
| | | ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | ○ |
| 化学的防除 | 22 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 23 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残渣やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16の物理的防除又は21（スワルスキーカブリダニ）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さやいんげん [施設]）（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------|--------|--|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②コナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 10 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 11 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分し、施設内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐために、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 16 | 近紫外線除去フィルムの利用 | 害虫の侵入防止及び侵入後の増殖抑制のために、近紫外線除去フィルムを利用する | ☆ | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、施設の周囲に光反射シートを設置するか、光反射資材を用いた防虫ネットを設置する | ○ | |
| 18 | 蒸し込み | 施設内の病害虫を死滅させるため、栽培終了後に蒸し込みを行う | ● | | |
| 生物的防除 | 19 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類、コナジラミ類及びアブラムシ類等に対して、ボーベリア剤又はパーティシリウム剤等を利用する | ○ | |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 21 | 天敵の利用 | コナジラミ類等に対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ☆ | |
| | | | アブラムシ類に対して、アブラバチ等の天敵を利用する | ○ | |
| ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | | | ○ | | |
| | | ハモグリバエ類に対して、ヒメコバチ等の天敵を利用する | ○ | | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16の物理的防除又は21（スワルスキーカブリダニ）の生物的防除のいずれかを必ず実施する申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| ●の数 | ●の実施数 |
|-----|-------|
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 11 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM実践指標（さやいんげん [施設]）（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------|--------|----------------|--|-------|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②コナジラミ類等の微小害虫に対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には草種を記載 | ● | |
| | 9 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| | 10 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| 11 | マルチの利用 | | ● | | |
| 12 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| | 16 | 近紫外線除去フィルムの利用 | | ☆ | } |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 蒸し込み | | ● | |
| 生物的防除 | 19 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 21 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | } |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 利用した場合には資材名を記載 | | | ○ | | |
| 21 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | | |
| | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | | |
| | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | | |
| 化学的防除 | 22 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 23 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は実践項目16の物理的防除又は21（スワルスキーカブリダニ）の生物的防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（さやいんげん [露地]）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|---|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 15 気門封鎖剤の利用 | コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 微生物殺虫剤の利用 | コナジラミ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 17 土着天敵の保護利用 | ハモグリバエ類及びハダニ類等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| | アブラムシ類等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴーを植栽する（※実践項目8でソルゴーを用いる場合には条件を満たす） | ○ | |
| 化学的防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ハモグリバエ類、ハダニ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-------------|--|
| ハモグリバエ類 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 クモ類 |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| ハダニ類 | コロマイト乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アマガシクマアザミウマ等） |
| | ダニトロンフロアブル | |
| | ニッソラン水和剤 | |
| チョウ目害虫 | フェニックス顆粒水和剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さやいんげん [露地]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | |
|--------------------------------|--|--|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 マルチの利用 | 肥料と土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する | ● |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 15 気門封鎖剤の利用 | コナジラミ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| 生物的防除 | 16 微生物殺虫剤の利用 | コナジラミ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 17 土着天敵の保護利用 | ハモグリバエ類及びハダニ類等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| | | アブラムシ類等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴーを植栽する（※実践項目8でソルゴーを用いる場合には条件を満たす） | ○ |
| 化学的防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【さやいんげん [露地]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|-------|
| ①病害及び線虫に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | ● | |
| | 8 | 防風対策 | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | ● | |
| 12 | マルチの利用 | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 残渣処理 | ● | |
| | 14 | 土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | ○ | |
| | 16 | 微生物殺虫剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 17 | 土着天敵の保護利用 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| | 利用した場合には植物名を記載 | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | ● | |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（そらまめ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|--|---|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p> | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす） | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | |
| 物理的 防除 | 14 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 15 | 光反射資材の利用 | 9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する | ● | |
| 生物的 防除 | 16 | アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ | |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 17 | 土着天敵の保護利用 | ハモグリハエ類及びチョウ目に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| | | アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ○ | |
| 化学的 防除 | 18 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 19 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ハモグリバエ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-------------|--|
| ハモグリバエ類 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 クモ類 |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| チョウ目害虫 | フェニックス顆粒水和剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | プレオフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【そらまめ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|---|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす） | ● | | |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は腐熟させる | ● | | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 15 光反射資材の利用 | 9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する | ● | | |
| 生物的防除 | 16 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ | |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 17 土着天敵の保護利用 | ハモグリバエ類及びチョウ目に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| | アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 22 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【そらまめ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 防風対策 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | | |
| 12 | マルチの利用 | | ● | | |
| 13 | 残渣処理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 光反射資材の利用 | | ● | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | 利用した資材名を記載 | ● | | |
| | 17 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 利用した場合には植物名を記載 | | | ○ | | |
| 化学的防除 | 18 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 19 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（実えんどう）

| 実践のポイント | | | | |
|--|-----------|--|---|---|
| ①病害に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する（平張施設は当該条件を満たす） | ● |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす） | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 15 | 光反射資材の利用 | アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する | ○ | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 18 | 土着天敵の保護利用 | ハモグリバエ類及びチョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| | | アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ○ | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 ハモグリバエ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-------------|--|
| ハモグリバエ類 | プレオフロアブル | 寄生蜂 クモ類 |
| | プレバソンフロアブル | |
| チョウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【実えんどう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|--|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する（平張施設は当該条件を満たす） | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生の抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす） | ● | | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 15 | 光反射資材の利用 | アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する | ○ | | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類に対して、ポーベリア剤を利用する | ○ | |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 18 | 土着天敵の保護利用 | ハモグリバエ類及びチョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ● | | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【実えんどう】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用及び微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 8 | 防風対策 | | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | | ● | |
| 12 | マルチの利用 | | ● | | |
| 物理的防除 | 13 | 残渣処理 | | ● | |
| | 14 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| 生物的防除 | 15 | 光反射資材の利用 | | ○ | |
| | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 18 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| | | 利用した場合には植物名を記載 | ○ | | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | | ○ | |
| | 20 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標（スナップえんどう）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|---|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 十分な耕うんを行う | ● |
| | | 良質な堆肥を施用する | ● |
| | 7 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 8 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する（※平張施設は当該条件を満たす） | ● |
| | 9 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 12 マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病害虫発生抑制のために、マルチを利用する（※実践項目15の実施で条件を満たす） | ● |
| 13 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | |
| 物理的防除 | 14 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| 15 光反射資材の利用 | 9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する | ● | |
| 生物的防除 | 16 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ |
| | 17 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類に対して、ボーベリア剤を利用する | ○ |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| 18 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| | アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する（※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ○ | |
| 化学的防除 | 19 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病害虫の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ |
| | 20 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|--------|-------------|--|
| チョウ目害虫 | アタブロン乳剤 | 寄生蜂 ゴミムシ類 ハサミムシ類 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | カスケード乳剤 | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | フェニックス顆粒水和剤 | |
| | プレオフロアブル | |
| | プレバソンフロアブル | |
| | マトリックフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【スナップえんどう】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|---|---|-------|--|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 | 健全種子を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 十分な耕うんを行う | ● | |
| | | | 良質な堆肥を施用する | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 8 | 防風対策 | 障壁植物や防風ネット等により、防風対策を実施する （※平張施設は当該条件を満たす） | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 | 土壌病害や線虫対策として輪作（田畑輪換を含む）を実施するか、連作する場合には休耕期間中に緑肥作物を栽培する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | 肥料と作土の流亡防止、雑草や病虫害発生抑制のために、マルチを利用する （※実践項目15の実施で条件を満たす） | ● | |
| 13 | 残渣処理 | 栽培終了後の残渣は、早めに適切に処分する。ほ場内に残った残渣は早めにすき込む | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| 15 | 光反射資材の利用 | 9月までに播種する作型については、アザミウマ類等の侵入を防ぐために、光反射マルチを利用する | ● | | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 | うどんこ病、灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | アザミウマ類に対して、ポーベリア剤を利用する | ○ | |
| | | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| 18 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる （参考；付表1） アブラムシ類及びチョウ目害虫等の土着天敵を誘引及び定着させるため、ほ場の周辺にソルゴー等の植物を植栽する （※実践項目8でソルゴー等を用いる場合には条件を満たす） | ● ○ | | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | 農薬飛散防止対策、土着天敵の保護、省力化、病虫害の初期密度の抑制等の観点から、播種前後の土壌処理剤（粒剤等）を利用する | ○ | |
| | 20 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 22 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（野菜）

鹿児島県 IPM 実践指標【スナップえんどう】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|-------|
| ①病害に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アザミウマ類等に対する、光反射マルチの利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全種子の使用 種苗を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家採種及び育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | 耕うんの実施の有無 | ● | |
| | 7 | 排水対策の実施 | ● | |
| | 8 | 防風対策 | ● | |
| | 9 | 輪作の実施 緑肥作物の利用 輪作又は緑肥として導入した植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 雑草管理 カバープランツ等を利用した場合は植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 罹病植物体等の除去 | ● | |
| | 12 | マルチの利用 | ● | |
| 13 | 残渣処理 | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 土壌消毒 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 15 | 光反射資材の利用 | ● | |
| 生物的防除 | 16 | 微生物殺菌剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 18 | 土着天敵の保護利用 選択的農業以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 利用した場合には植物名を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 19 | 土壌処理剤による予防措置 | ○ | |
| | 20 | 農薬の使用全般 | ● | |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 I P M 実践指標 （果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標のねらい及び実施・確認上の留意点（果樹）

| 実践事項 | | ねらい及び実施・確認上の留意点 |
|----------------------------------|-----|---|
| 発生予察 侵入病虫害対策 IPMの 情報収集 | ねらい | IPM技術の向上を図るため、実践者自らが発生予察及び最新の情報収集等を実施する。 関係機関及び団体等の指導者は、研修会や講習会の開催等を通じて積極的に情報を提供する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施した年月日 2 対象病虫害 3 活用した発生予察情報 4 参加した研修会や講習会と参加日 ※研修会や講習会に参加できなかった場合には、「鹿児島県 IPMネットワーク」への加入で条件を満たすこととし、加入者であることを記載する。 5 その他活用した情報等 |
| 記帳管理 | ねらい | 効率的に次作の計画を作成し、技術の改善等を図るため、実施した作業の時期及び内容等を記録する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 実施の有無を記載することで条件を満たすが、記帳管理簿又は電子データ等は別途保存しておく。 |
| 健全苗の使用 | ねらい | 苗木を介したほ場への病虫害の持ち込みを防ぐため、適正な病虫害管理下で育成された苗木を使用するとともに、苗木の導入にあたっては、関連する法規を遵守すること。 また、実践者自らが苗木を育成する場合にも、適正な管理に努める。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 苗木を購入した場合には、購入年月日と購入先 2 苗木を自家育成した場合は、その旨を記録 |
| 土壌及び 施肥管理 (土壌診断及び 生育診断) | ねらい | 土壌の適正な化学性や物理性などの保持や改善を通じて、健全な土壌環境や作物生産を図るため、土壌、品目や樹齢などの土壌改良基準及び施肥基準を遵守する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 土壌診断を実施した場合には、診断実施機関及び診断ほ場面積 2 生育診断の場合には、実施の有無 3 品目ごとの施肥基準量の把握の有無 |

| | | |
|---------------------------|-----|--|
| 土壌及び 施肥管理 （良質堆肥の施用） | ねらい | 土壌の適正な物理性や生物相などの保持や改善を図り、土壌の生産力を増進するため、良質な堆肥を施用する。堆肥は、新植前や改植前に施用するとともに、植栽後には毎年、あるいは隔年など、計画的に適量を施用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 堆肥の種類 2 堆肥の入手先 3 10a 当たりの施用量 |
| 適地での 栽培 | ねらい | 永年作物である果樹では、日当たり、排水、伏流水の有無、風当たり及び潮風の有無等について植栽前に判断し、樹勢の衰弱に伴う病害虫の被害等を未然に防ぐことが重要であり、生産上不可欠な項目として記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 排水対策の実施 | ねらい | 健全な植物体の育成及び病害の予防対策のため、排水対策を実施する。各品目に適した水分条件、栽培時期及びほ場の立地条件等を考慮し、植物の根域を適切な土壌水分に保てるように努める。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 防風対策の実施 | ねらい | 健全な植物体の育成を通じて、病害虫の被害軽減を図るため、露地栽培については防風対策を実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した資材名 |
| 雑草管理 | ねらい | 病害虫の発生しにくい環境を作るため、ほ場及び周辺の雑草管理対策を実施する。 なお、本項目の雑草管理対策とは、雑草の除去だけでなく、草生栽培（カバープランツの利用を含む）等の積極的な植生管理まで含む。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名 |
| 土壌流亡防止 対策 | ねらい | 健全な植物体の育成を通じて、病害虫の被害軽減を図るため、草生栽培（カバープランツの利用を含む）等によって土壌流亡の防止を図る。 |

| | | |
|------------------|-----|--|
| 土壌流亡防止 対策 | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 カバープランツを利用した場合には植物名 |
| 整枝・せん定 | ねらい | 主に以下の点を目的に、各品目に応じた適切な条件で整枝・せん定を行う。 1 栽培管理作業に便利な樹形に整える。 2 隔年結果を防止することで、安定した収穫量を確保し、経済年齢（樹齢）を長く維持する。 3 樹冠全体への採光を確保することで、高品質な果実を生産する。 4 病害虫の発生源を除去する。 5 採光及び通風を確保することで、病害虫の増殖や伝染を抑制する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 罹病植物体の 除去 | ねらい | 病気の感染源を除去することでそのまん延を防ぐため、発病が見られた樹又は部位等は早めにはほ場外へ持ち出し、処分するよう努める。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 花殻落とし | ねらい | 灰色かび病等の病気の発生を未然に防ぐため、感染源となりやすい花殻（花弁、花冠、花糸等）は、ふるい落とす。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| ほ場又は施設内 環境の管理 | ねらい | 露地栽培では、ほ場内の通風と採光を適切に管理する。施設栽培では、施設内の環境を適正に保つように努めるとともに、必要に応じて循環扇等も利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| マルチの利用 | ねらい | 雑草や病害虫発生の抑制及び適正な土壌水分管理等を通じた健全な植物体の育成等のために、マルチを利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 気門封鎖剤の 利用 | ねらい | 害虫を窒息死させる作用を有する農薬を気門封鎖剤として扱い（例えば、マシン油等）、登録がある品目で、利用の機会が想定されるものについては本項目を記載した。 |

| | | |
|---------------------|-----|--|
| 気門封鎖剤の利用 | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| ビニル被覆 | ねらい | 風雨による病原菌の伝染防止及び果実の品質安定化等を目的として、ビニル被覆による屋根掛け栽培を行う。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 袋かけ | ねらい | 病害虫の果実への付着や加害を防ぐため、果実に袋かけを行う。 品目ごとの適切な時期に実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| ネット被覆栽培 防虫ネットの利用 | ねらい | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを利用する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 ※防虫ネットは4 mm 程度の目合いでも条件を満たす。 |
| 捕殺 | ねらい | 食入性害虫の食入痕を発見した場合には捕殺する |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 光反射資材の利用 | ねらい | 害虫のほ場への侵入又は植物体への寄生を防ぐために、光反射資材を利用する。 炭酸カルシウム微粉末剤（ホワイトコート）の散布は、収穫3～4ヶ月前まで、回数は2回以内とする。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 黄色灯の利用 | ねらい | ほ場に黄色灯を設置して、ヤガ類等に対する忌避効果をねらう。 費用面等も考慮して、本項目の実用性が見込める品目について記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 交信かく乱剤の利用 | ねらい | チョウ目害虫の成虫の交尾を阻害し、次世代以降の密度を抑制するため、人工的に合成した性フェロモン剤（交信かく乱剤）を利用する。 費用面等も考慮して本項目の実用性が見込める品目について記載した。 |

| | | |
|-------------------------|-----|---|
| 交信かく乱剤 の利用 | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 微生物殺菌剤 の利用 | ねらい | 病原菌の植物体への侵入及び植物体上での増殖を防ぐために、拮抗作用を有する微生物由来の生物農薬を利用する。 実用性が見込める品目については本項目を記載した。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 微生物殺虫剤 の利用 (BT 剤) | ねらい | <p>BT 剤は、微生物由来の生物農薬であり、チョウ目（鱗翅目）害虫に対するとして有効であることから、露地栽培では以下の主な目的又は理由により必須項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 防除スケジュールの中のローテーションの一つの手段として用いることで、薬剤抵抗性発達の防止が図られる。 2 土着天敵に対して影響が小さい。 3 農薬のポジティブリスト制度に対応できる手段である。 <p>露地栽培において、チョウ目害虫に対して2回以上防除を実施する場合には、1回以上 BT 剤を利用すること。</p> <p>一方、施設栽培では、防虫ネットの利用が原則として必須項目となっており、この手段によって一定の密度抑制効果が見込まれることから、選択技術とする。</p> |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 |
| 天敵の利用 | ねらい | 本項目での「天敵」とは、害虫を捕食又は害虫へ寄生する節足動物類（クモ、ダニ、昆虫等）として定義した。 各品目での、技術の実用性及び普及実態等を考慮して、必須項目又は選択項目を位置付けた。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 2 利用した場合には資材名 ※本項目が必須となっている品目では、必ず資材名を記録すること。 |

| | | |
|---------------|-----|---|
| 土着天敵の 保護利用 | ねらい | <p>各種害虫に対して化学合成農薬で防除を実施する際、土着天敵（クモ、ダニ、昆虫等）の保護利用が図られるよう、土着天敵に影響が小さい農薬（選択的農薬）を利用する。</p> <p>なお、付表の選択的農薬については、「鹿児島県 IPM 実践指標策定要領（IPM 実践指標に掲載する農薬の考え方）」に基づき、一定の要件を満たす農薬を例示した。</p> <p>「鹿児島県持続性の高い農業生産方式の導入に関する指針」の中で定める、化学合成農薬使用成分回数を目標とし、所定の回数の範囲内において、効果的に選択的農薬を利用できるように努めることとする。</p> |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <p>1 実施の有無</p> <p>2 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由</p> <p>※選択的農薬を積極的に取り入れることがねらいであり、リスト以外の農薬の使用を制限するものではないが、リスト以外の農薬は、選択的農薬では防除できない、あるいは防除が困難な場合など、必要最小限の使用に努めること。</p> <p>選択的農薬は、全ての天敵に対して影響がないものだけでなく、一定のグループ数の天敵に対して影響がないものを例示してあり、影響の詳細については、IPM 実践指標総論の付表を参照すること。</p> |
| 農薬の使用 全般 | ねらい | <p>本実践項目に記載する内容は、農薬の適正使用、農薬飛散防止対策及び関連法規の遵守等において必要なものを記載した。</p> |
| | 留意点 | <p>自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容</p> <p>1 実施の有無</p> |

| | | |
|------------------------|-----|---|
| その他（品目ごとに特異的に掲載した実践項目） | | |
| 芽かき （マンゴー） | ねらい | マンゴーでスワルスキーカブリダニを利用してアザミウマ類の密度を抑制するためには、果実生育期に、新梢でのアザミウマ類の増殖を防ぐ必要があるため、新梢の芽かきを実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |
| 特定の実践項目 | ねらい | 各品目において、特定の対策が必要な病虫害（雑草）については、必要に応じて記載した。 県又は関係機関・団体等の指導内容に基づいて実施する。 |
| | 留意点 | 自主点検シート又は記帳管理簿等へ記録する内容 1 実施の有無 |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（うめ）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|---|-------|
| ①かいよう病及び黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的 事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ |
| | 12 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● |
| | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する | ○ |
| | 13 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | |
| 15 ネットによる被害防止対策 | 収穫作業の省力化とアカマダラケシキスイの被害防止対策のために樹冠下に収穫用ネットを設置する（※完熟用梅） | ○ | |
| 物理的 防除 | 16 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 17 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的 防除 | 18 交信かく乱剤の利用 | コスカシバに対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 19 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的 防除 | 20 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類及びカイガラムシ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
 (注)「コルト顆粒水和剤」は小粒核果類での登録

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------------------------------|------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類, タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 (ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等) |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| カ イ ガ ラ ム シ 類 | アプロードフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 ※但し, アプロードはベダリアテントウの幼虫には影響がある |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので, 詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表(各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表)」を参考にしながら, 影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【うめ】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------------|--|---|-------|--|
| ①かいよう病及び黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● | |
| | | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する | ○ | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 | ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | | |
| 15 | ネットによる被害防止対策 | 収穫作業の省力化とアカマダラケシキスイの被害防止対策のために樹冠下に収穫用ネットを設置する（※完熟用梅） | ○ | | |
| 物理的防除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 17 | 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | コスカシバに対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 19 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【うめ】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------------|-----------|--|-------|--|
| ①かいよう病及び黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種 的 防 除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ○ | |
| | 14 | ほ場内環境の管理 | | ● | |
| 15 | ネットによる被害防止対策 | | ○ | | |
| 物理 的 防 除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 17 | 捕殺 | | ● | |
| 生物 的 防 除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学 的 防 除 | 20 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（すもも）

| 実践のポイント | | | |
|---|---------------------------|--|-------|
| ①黒斑病、ふくろみ病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的 事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ |
| | 12 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● |
| | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する | ○ |
| 13 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | |
| 物理的 防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 ネット被覆の利用 | ヤガ類、カメムシ類の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する | ○ |
| | 17 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的 防除 | 18 交信かく乱剤の利用 | コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 19 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的 防除 | 20 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
 （注）「ウララDF」「コルト顆粒水和剤」は小粒核果類での登録

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------------------------------|--------------|--|
| ア ブ ラ ム シ 類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| カ イ ガ ラ ム シ 類 | アプロードフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 ※但し、アプロードはベダリアテントウの幼虫には影響がある |
| チ ョ ウ 目 害 虫 | エクシレルSE | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ） クモ類 |
| | サムコルフロアブル | |
| | フェニック্সフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【すもも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|-------------------------------|--|-------|--|
| ①黒斑病、ふくろみ病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● | |
| 夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する | | | ○ | | |
| 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| 14 | ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | | |
| 物理的 防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 | ネット被覆の利用 | ヤガ類、カメムシ類の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する | ○ | |
| | 17 | 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的 防除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 19 | 土着天敵の保護利用 | アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的 防除 | 20 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-----------|
| ●の数 | ●の 実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の 実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【すもも】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | |
|---|----------|-----------|--|-------|
| ①黒斑病、ふくろみ病に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②アブラムシ類、カイガラムシ類及びチョウ目害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載 | ● |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● |
| | 4 | 記帳管理 | | ● |
| 耕種 的 防 除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● |
| | 9 | 防風対策 | | ● |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ○ |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● |
| | | | | ○ |
| 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| 14 | ほ場内環境の管理 | | ● | |
| 物理 的 防 除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● |
| | 16 | ネット被覆の利用 | | ○ |
| | 17 | 捕殺 | | ● |
| 生物 的 防 除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ |
| | 19 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載 | ● |
| 化学 的 防 除 | 20 | 農薬の使用全般 | | ● |
| | | | | ● |
| | | | | ● |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（なし）

| 実践のポイント | | | |
|------------------------|----------------------|--|-------|
| ①黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | |
| ③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ |
| | 12 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● |
| | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する | ○ |
| | 13 粗皮削り | 病虫害の発生源を除去するため、冬季に粗皮削りを実施する | ○ |
| | 14 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 15 花殻落とし | 灰色かび病等による果面の汚損を防止するため、幼果期に、果実に付着している花弁等の花殻を落とす | ● |
| 16 ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | |
| 17 周辺寄主植物の除去 | 園周辺のビャクシン類は除去する | ● | |
| 物理的防除 | 18 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類やカイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 19 袋かけ | 病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う | ○ |
| | 20 ネット被覆の利用 | 害虫の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する | ○ |
| | 21 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 22 黄色灯の利用 | ヤガ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ |
| 生物的防除 | 23 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 24 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 25 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的防除 | 26 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-------------|--|
| ハダニ類 | カネマイトフロアブル | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカアザミウマ等） |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | ダニサラバフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| アブラムシ類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| カイガラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| チヨウ目害虫 | エクシレルSE | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | サムコルフロアブル | |
| | ファルコンフロアブル | |
| | フェニックスフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なし】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|------------------------|--|--|-------|-------|
| ①黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | |
| ③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的 事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的 防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ | |
| | 12 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● | |
| | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した不要な徒長枝の間引きを実施する | ○ | |
| | 13 粗皮削り | 病害虫の発生源を除去するため、冬季に粗皮削りを実施する | ○ | |
| 14 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| 15 花殻落とし | 灰色かび病等による果面の汚損を防止するため、幼果期に、果実に付着している花弁等の花殻を落とす | ● | | |
| 16 ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | | |
| 17 周辺寄主植物の除去 | 園周辺のビャクシン類は除去する | ● | | |
| 物理的 防除 | 18 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類やカイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 19 袋かけ | 病害虫の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う | ○ | |
| | 20 ネット被覆の利用 | 害虫の侵入を防止するため、園全体をネットで被覆する | ○ | |
| | 21 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 22 黄色灯の利用 | ヤガ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | | |
| 生物的 防除 | 23 交信かく乱剤の利用 | チョウ目害虫に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 24 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 25 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的 防除 | 26 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 23 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 8 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なし】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------|----|-----------|--|-------|--|
| ①黒星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| ③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ○ | |
| | 13 | 粗皮削り | | ○ | |
| | 14 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 15 | 花殻落とし | | ● | |
| | 16 | ほ場内環境の管理 | | ● | |
| | 17 | 周辺寄主植物の除去 | | ● | |
| 物理的防除 | 18 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 19 | 袋かけ | | ○ | |
| | 20 | ネット被覆の利用 | | ○ | |
| | 21 | 捕殺 | | ● | |
| | 22 | 黄色灯の利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 23 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 24 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 25 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農業以外を使用した場合には、農業名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 26 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（ぶどう [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|-----------------------------------|--------|-------------------------------------|---|---|
| ①褐斑病，灰色かび病及びべと病に対する，耕種の防除を中心とした対策 | | | | |
| ②チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対する，土着天敵の保護利用 | | | | |
| ③チョウ目害虫に対する，微生物殺虫剤の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し，病害虫の発生の動向を把握する</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する</p> | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため，病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど，IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために，土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策 | 防風ネット等により防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ |
| | 12 | 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● |
| | 13 | 粗皮削り | 病害虫の発生源を除去するため，冬季に粗皮削りを実施する | ● |
| | 14 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び巻きづる等は，早めにはほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 15 | 花殻落とし | 灰色かび病等による果面の汚損を防止するため，開花終了後，果粒や果梗に付着している花殻を落とす | ● |
| | 16 | ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● |
| 17 | マルチの利用 | 雑草や病害虫発生の抑制，生育促進及び湿度管理等のためにマルチを利用する | ○ | |
| 物理的防除 | 18 | 袋かけ | 病害虫の果実への付着や直接加害を防ぐため，果実に袋かけを行う | ○ |
| | 19 | 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的防除 | 20 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病に対して，バチルス剤を利用する | ○ |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に，BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | 22 | 土着天敵の保護利用 | チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対して化学合成農薬を散布する際には，土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的防除 | 23 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて，適正な散布に努め，過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに，残液やタンクの洗浄水は適切に処理し，河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目，○は選択項目

付表1 チャノキイロアザミウマ及びハダニ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|------------|-------------|--|
| アチザミノウキマイロ | エクシレルSE | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類, カスミカメムシ類） |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| ハダニ類 | オマイト水和剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類, オオメカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ, アカメガシワクダアザミウマ等） |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | ダニサラバフロアブル | |
| | ニッソラン水和剤 | |
| | マイトコーネフロアブル | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用すること。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぶどう【施設】】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|--------|-------------------------------------|---|-------|--|
| ①褐斑病、灰色かび病及びびへと病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対する、土着天敵の保護利用 ③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策 | 防風ネット等により防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● | |
| | 13 | 粗皮削り | 病虫害の発生源を除去するため、冬季に粗皮削りを実施する | ● | |
| | 14 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び巻きづる等は、早めには場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 15 | 花殻落とし | 灰色かび病等による果面の汚損を防止するため、開花終了後、果粒や果梗に付着している花殻を落とす | ● | |
| | 16 | ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | |
| 17 | マルチの利用 | 雑草や病虫害発生の抑制、生育促進及び温度管理等のためにマルチを利用する | ○ | | |
| 物理的防除 | 18 | 袋かけ | 病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う | ○ | |
| | 19 | 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 20 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ | |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | 21 | 土着天敵の保護利用 | チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 22 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぶどう〔施設〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------------------|--------|-----------|--|-------|--|
| ①褐斑病、灰色かび病及びびべと病に対する、耕種の防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②チャノキイロアザミウマ及びハダニ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| ③チョウ目害虫に対する、微生物殺虫剤の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 粗皮削り | | ● | |
| | 14 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 15 | 花殻落とし | | ● | |
| | 16 | ほ場内環境の管理 | | ● | |
| 17 | マルチの利用 | | ○ | | |
| 物理的防除 | 18 | 袋かけ | | ○ | |
| | 19 | 捕殺 | | ● | |
| 生物的防除 | 20 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合は資材名を記載 | ○ | |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 22 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 23 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（もも）

| 実践のポイント | | | | |
|---|----------|--|--|---|
| ①黒星病、せん孔細菌病及び灰星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ |
| | 12 | 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● |
| | | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した徒長枝の間引きを実施する | ○ |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 | 花殻落とし | 灰星病等による腐敗を防止するため、幼果期に、果実及び枝に付着した花弁等の花殻を落とす | ● | |
| 15 | ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | |
| 物理的防除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 17 | ビニル被覆 | ビニル被覆栽培を行う | ○ |
| | 18 | 袋かけ | 病害虫の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う | ○ |
| | 19 | 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 21 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|---------------|--|
| チョウ目害虫 | エクシレルSE | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチプトカメムシ類） クモ類 |
| | サムコルフロアブル | |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| アブラムシ類 | ウララDF | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類、オオメカメムシ類等） |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| カイガラムシ類 | アプロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬及び気門封鎖剤は共通の選択的農薬として扱う。

注3) 土壌処理剤は対象外とする。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【もも】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|--|---|-------|--|
| ①黒星病、せん孔細菌病及び灰星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | 冬季のせん定により罹病枝を除去する | ● | |
| | | | 夏季のせん定により樹冠内部に発生した徒長枝の間引きを実施する | ○ | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 | 花殻落とし | 灰星病等による腐敗を防止するため、幼果期に、果実及び枝に付着した花弁等の花殻を落とす | ● | | |
| 15 | ほ場内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | | |
| 物理的防除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 17 | ビニル被覆 | ビニル被覆栽培を行う | ○ | |
| | 18 | 袋かけ | 病虫害の果実への付着や直接加害を防ぐため、果実に袋かけを行う | ○ | |
| | 19 | 捕殺 | 食入性害虫やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | コスカシバ、シンクイムシ類及びハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 21 | 土着天敵の保護利用 | チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類等に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【もも】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|-----------|--|-------|--|
| ①黒星病、せん孔細菌病及び灰星病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チョウ目害虫、アブラムシ類及びカイガラムシ類に対する、土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病虫害、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ○ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | | | | ○ | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| 14 | 花殻落とし | | ● | | |
| 15 | ほ場内環境の管理 | | ● | | |
| 物理的 防除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 17 | ビニル被覆 | | ○ | |
| | 18 | 袋かけ | | ○ | |
| | 19 | 捕殺 | | ● | |
| 生物的 防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的 防除 | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（温州みかん [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|---|----------|------------------------|--|
| ①灰色かび病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | <p>自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する ●</p> <p>病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する ●</p> |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する ● |
| | 10 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う ● |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する ● |
| | 12 | 花殻落とし | 灰色かび病等による果面の汚損を防ぐため、開花期に、感染源となりうる花殻を落とす ● |
| 13 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ ● | |
| 物理的防除 | 14 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する ● |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する ● |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う ○ |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する ○ |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる ○ |
| | 20 | 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する ● |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----------|---|--|-------|--|
| ①灰色かび病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 | 花殻落とし | 灰色かび病等による果面の汚損を防ぐため、開花期に、感染源となりうる花殻を落とす | ● | | |
| 13 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 物理的防除 | 14 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 4 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----|-----------|--|-------|--|
| ①灰色かび病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 12 | 花殻落とし | | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| 生物的防除 | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 20 | 天敵の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM実践指標（温州みかん [露地]）

| 実践のポイント | | | |
|---|----------|--|-------|
| ①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | ● |
| | | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | 2 | 発生予察 | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| 3 | 侵入病虫害対策 | ● | |
| 4 | IPMの情報収集 | ● | |
| 5 | 記帳管理 | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | ● |
| | 6 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | | 土壌及び施肥管理 | ● |
| | 7 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | 8 | 良質な堆肥を計画的に施用する | ○ |
| | 9 | 適地での栽培 | ● |
| | 10 | 排水対策の実施 | ● |
| | 11 | 防風対策の実施 | ● |
| | 12 | 雑草管理 | ● |
| | 13 | 土壌流亡防止対策 | ☆ |
| | 14 | 整枝・せん定 | ● |
| 15 | 罹病植物体の除去 | ● | |
| 物理的防除 | 16 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 17 | 気門封鎖剤の利用 | ● |
| | 18 | カミキリムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| 19 | 黄色灯の利用 | ○ | |
| 生物的防除 | 20 | チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | ○ |
| | 21 | 黄色灯の利用 | ○ |
| | 22 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ |
| 化学的防除 | 23 | 交信かく乱剤の利用 | ○ |
| | 24 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| 化学的防除 | 25 | 微生物殺虫剤の利用 | ● |
| | | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 26 | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 化学的防除 | 27 | 土着天敵の保護利用 | ● |
| | | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| 化学的防除 | 28 | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |
| | | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆は、実践項目11又は15の耕種的防除のいずれかを必ず実施する

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「みかん」又は「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|--|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アプロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、功効シワダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チヨウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん [露地]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|--|-------|
| ①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ☆ |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ |
| 15 | マルチの利用 | 雑草や病虫害発生の抑制、土壌水分管理等のためにマルチを利用する | ☆ | |
| 物理的防除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 17 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 18 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| | | | チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | ○ |
| 19 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 22 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 23 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目11又は15の耕種的防除のいずれかを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 2 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【温州みかん〔露地〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------------|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①そうか病及びかいよう病に対する耕種の防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種の防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ☆ | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| | 15 | マルチの利用 | | ☆ | |
| 物理的防除 | 16 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 17 | 捕殺 | | ● | |
| | 18 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 19 | 黄色灯の利用 | | ○ | | |
| 生物的防除 | 20 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 21 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 22 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 23 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目11又は15の耕種の防除のいずれかを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（不知火 [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|-------------------------------------|-------|---------------------------|--|---|
| ①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| | 13 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 物理的防除 | 14 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病等に対して、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 20 | 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火 [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------|--|-------|-------|
| ①耕種の防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種の防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 11 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| | 13 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 物理的防除 | 14 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 15 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 16 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 17 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 18 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病等に対して、ハチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 19 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 20 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● | |
| 化学的防除 | 21 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火 [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------------------|----|-----------|--|-------|--|
| ①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 12 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的 防除 | 13 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| 生物的 防除 | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的 防除 | 20 | 天敵の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | ● | | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（不知火 [露地]）

| 実践のポイント | | | | |
|--|-----------|--|--|---|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす。 | ○ | |
| 物理的 防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| | | | チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | ○ |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的 防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してポーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的 防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|---|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アブロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカメガシワクダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チョウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火 [露地]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|--|--|-------|--|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす。 | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | | ○ | | |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【不知火〔露地〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------------|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種の防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（きんかん [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|-------------------------------------|-------|---------------------------|--|---|
| ①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 12 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| | 13 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● |
| 物理的防除 | 14 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病等の対策として、バチルス剤等を利用する | ○ |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 20 | 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------------------|-------|---------------------------|--|-------|--|
| ①耕種の防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種の防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| | 13 | 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 物理的防除 | 14 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病等の対策として、バチルス剤等を利用する | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 20 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 5 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|-------------------------------------|----|-----------|--|-------|--|
| ①耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 12 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的 防除 | 14 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 15 | 防虫ネットの利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| 生物的 防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 化学的 防除 | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（きんかん [露地]）

| 実践のポイント | | | |
|---|--|--|-------|
| ①黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 白らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| 13 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| 物理防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| | 18 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ |
| 生物的防除 | 19 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学防除 | 22 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|--|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アブロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカカシワクダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チョウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [露地]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|-------|
| ①黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| | 12 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 13 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| | 18 黄色灯の利用 | ヤカ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 19 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【きんかん [露地]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（たんかん）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|--|---|
| ①黒点病及びそうか病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにはほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| | | | チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | ○ |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|---|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アプロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カキシツカダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チヨウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【たんかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|--|--|-------|--|
| ①黒点病及びそうか病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | | |
| 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | | ○ | | |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【たんかん】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①黒点病及びそうか病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（かぼす）

| 実践のポイント | | | | |
|---|-----------|--|--|---|
| ①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにはほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| | | | チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | ○ |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|---|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アプロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カカシツカダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チヨウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼす】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------------|-----------|--|--|-------|--|
| ①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | | |
| 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | | ○ | | |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【かぼす】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（小みかん）

| 実践のポイント | | | | |
|-------------------------------|-----------|--|--|---|
| ①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的 事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的 防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| 物理的 防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する（※栽培期間中に屋根かけを行わない場合は、炭酸カルシウム剤の利用も可能） | ○ |
| | 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ |
| 生物的 防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的 防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|---|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アブロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカメガシワクダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チョウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【小みかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|---|--|--|-------|-------|
| ①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| | 12 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 13 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する（※栽培期間中に屋根かけを行わない場合は、炭酸カルシウム剤の利用も可能） | ○ | |
| | 18 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 19 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【小みかん】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|----|-----------|--|--------|--|
| ①そうか病及びかいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日, 対象病害虫, 活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には, 診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には, 実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| 生物学的防除 | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | |
| | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 利用した場合には資材名を記載 | ● ○ | |
| 化学的防除 | 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には, 農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目, ○は選択項目
斜線の項目については, 右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については, ○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（なつみかん）

| 実践のポイント | | | |
|--|--|--|-------|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種の防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| 13 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| 物理的防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | ○ | |
| 生物的防除 | 18 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 19 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 20 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 21 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「なつみかん」又は「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|--|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマハエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アプロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマハエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、アカガシワクダアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チョウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチフトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | ノーモルト乳剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なつみかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | |
|--|--|--|-------|-------|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| | 実践項目 | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| | 12 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 13 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | ○ | | |
| 生物的防除 | 18 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 19 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 20 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 21 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【なつみかん】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|----|-----------|--|-------------|--|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 利用した場合には資材名を記載 | ○ ○ | |
| 生物的防除 | 18 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 利用した場合には資材名を記載 | ● ○ | |
| | 20 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | | ● ● ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（ぼんかん）

| 実践のポイント | | | | |
|------------------------------|-----------|--|--|---|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策 | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| | 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| | | | チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルウシム剤を利用する | ○ |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんぎつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|---|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アブロードフロアブル アブロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アブロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カカシウマ、アザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | バロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チヨウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぼんかん】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|--|--|-------|--|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | | |
| 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルウム剤を利用する | | | ○ | | |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【ぼんかん】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①かいよう病及び黒点病に対する耕種の防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種の防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（レモン [施設]）

| 実践のポイント | | | |
|---|---------------------------|--|-------|
| ①かいよう病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②ミカンハダニに対する、天敵の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らは場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 10 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| 11 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めには場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | |
| 物理的防除 | 13 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 14 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ☆ |
| | 15 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| 生物的防除 | 16 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ☆ |
| | 17 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ |
| | 18 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ☆ |
| 化学的防除 | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | ☆：下記の14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれかを必ず実施する | | |
|--------------------------|----------------------|--|-------|-------|
| ①かいよう病に対する、耕種の防除を中心とした対策 | | | | |
| ②ハダニ類に対する、天敵の利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | | |
| 耕種防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 11 罹病植物体の除去 | 発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 12 施設内環境の管理 | 施設内の換気や通風を良好にして多湿を防ぐ | ● | | |
| 物理的防除 | 13 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 14 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ☆ | |
| | 15 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| 生物的防除 | 16 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ☆ | |
| | 17 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ☆ | |
| | 18 天敵の利用 | ミカンハダニに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ☆ | |
| 化学的防除 | 19 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む

実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 18 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 1 | |
| ☆の数 | ☆の実施数 |
| 4 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--------------------------|----|-----------|--|-------|---|
| ①かいよう病に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②ハダニ類に対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 11 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 12 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | | ☆ | } |
| | 15 | 捕殺 | | ● | |
| 生物的防除 | 16 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 17 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| | 18 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ☆ | |
| 化学的防除 | 19 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

☆：実践項目14及び16～18の物理的防除又は生物的防除のいずれか一つを必ず実施する

斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載

実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（レモン [露地]）

| 実践のポイント | | | | |
|------------------------------|-----------|--|--|---|
| ①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病虫害の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病虫害防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病虫害対策 | 新たな侵入病虫害の警戒に備えるため、病虫害防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● |
| 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病虫害の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| 物理的防除 | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにはほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● |
| | 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ |
| | | | | |
| | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | | ○ | |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● |
| | | | カミキリムシ類に対してボーベリア剤を利用する | ○ |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考；付表1） | ● | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病虫害・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

付表1 各種害虫の土着天敵に影響が小さいと考えられる農薬の例
（「かんきつ」に登録のある農薬）

| 害虫種 | 農薬名 | 保全の対象とする土着天敵 |
|---------|-----------------------------|--|
| アブラムシ類 | コルト顆粒水和剤 | 寄生蜂 テントウムシ類 ヒラタアブ類、タマバエ類 クサカゲロウ類 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| アザミウマ類 | ウララ50DF | カブリダニ類 テントウムシ類 捕食性アザミウマ類 （アカメガシワクダアザミウマ等） 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） |
| | カスケード乳剤 | |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| | デミリン水和剤 | |
| | マッチ乳剤 | |
| カイガラムシ類 | アプロードフロアブル アプロードエースフロアブル | 寄生蜂 テントウムシ類 |
| | コルト顆粒水和剤 | |
| サビダニ類 | アプロードエースフロアブル | 捕食性ダニ類 |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |
| ハダニ類 | カスケード乳剤 | カブリダニ類 ケシハネカクシ類 テントウムシ類 ハダニタマバエ 捕食性カメムシ類 （ヒメハナカメムシ類等） 捕食性アザミウマ （ハダニアザミウマ、カキシツカアザミウマ等） |
| | カネマイトフロアブル | |
| | コロマイト水和剤 | |
| | スターマイトフロアブル | |
| | ダニエモンフロアブル | |
| | ダニゲッターフロアブル | |
| | ダニコングフロアブル | |
| | パロックフロアブル | |
| | マイトコーネフロアブル | |
| チヨウ目害虫 | カスケード乳剤 | 寄生蜂 捕食性カメムシ類 （クチブトカメムシ類） クモ類 |
| | デミリン水和剤 | |
| | フェニックスフロアブル | |
| | マッチ乳剤 | |

注1) 一部のグループの天敵に対しては影響がある選択的農薬もあるので、詳細は「鹿児島県IPM実践指標総論の付表（各種天敵への影響から選定した選択的農薬の目安表）」を参考にしながら、影響の小さいものから優先して使用するよう心がける。

注2) 生物農薬、気門封鎖剤及び炭酸カルシウム剤は共通の選択的農薬として扱う。

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン〔露地〕】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|------------------------------|-----------|--|--|-------|--|
| ①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | 草生栽培等によって土壌流亡の防止を図る | ● | |
| 12 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | | |
| 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | | |
| 14 | 花殻落とし | 灰色かび病の発生を防ぐために、花がらをふるい落とす | ○ | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | カイガラムシ類やハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ● | |
| | 16 | 捕殺 | カミキリムシ類やその食入痕を発見した場合には捕殺（刺殺）する | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 害虫の侵入を防ぐために、ほ場又は周囲に光反射シートを設置する | ○ | |
| チャノキイロアザミウマに対して炭酸カルシウム剤を利用する | | | ○ | | |
| 18 | 黄色灯の利用 | ヤガ類やカメムシ類の侵入を防止するため、黄色灯を設置する | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ● | |
| | | | カミキリムシ類に対してポーベリア剤を利用する | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 各種害虫に対して化学合成農薬を散布する際には、土着天敵に影響の小さい殺虫剤を防除スケジュールの中に取り入れる（参考：付表1） | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 21 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 7 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【レモン〔露地〕】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|---|-----------|-----------------------------------|--|-------|--|
| ①かいよう病に対する耕種的防除を中心とした対策 ②各種害虫に対する土着天敵の保護利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策の実施 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 土壌流亡防止対策 | | ● | |
| | 12 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 花殻落とし | | ○ | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ● | |
| | 16 | 捕殺 | | ● | |
| | 17 | 光反射資材の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 18 | 黄色灯の利用 | | ○ | | |
| 生物的防除 | 19 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| | | | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 21 | 土着天敵の保護利用 | 選択的農薬以外を使用した場合には、農薬名とそれを使用した理由を記載 | ● | | |
| 化学的防除 | 22 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標（マンゴー）

| 実践のポイント | | | |
|--|---------------------------------|--|-------|
| ①炭疽病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマに対する、天敵の利用 | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 |
| 一般的事項 | 1 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| 4 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● |
| | 10 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| | 11 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● |
| | 12 芽かき | アザミウマ類の増殖を防ぐため、果実肥大期に発生した新梢の芽かきを実施する | ● |
| 13 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 施設内環境の管理 | 施設内の通風や採光を良好にするなどして、多湿・結露を防ぐ | ● | |
| 物理的防除 | 15 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 16 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ○ |
| 生物的防除 | 17 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ |
| | 18 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ |
| | 19 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ |
| | 20 天敵の利用 | チャノキイロアザミウマに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● |
| 化学的防除 | 21 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【マンゴー】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|----------|------------------------------|--|-------|--|
| ①炭疽病に対する、耕種の防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 防風対策 | 防風垣や防風ネット等により、防風対策を実施する | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 11 | 整枝・せん定 | 樹冠内部の通風及び採光の確保と病害虫の寄生・感染源除去等のために整枝せん定を行う | ● | |
| | 12 | 芽かき | アザミウマ類の増殖を防ぐため、果実肥大期に発生した新梢の芽かきを実施する | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | 発病部位及び枯葉、枯枝は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 14 | 施設内環境の管理 | 施設内の通風や採光を良好にするなどして、多湿・結露を防ぐ | ● | | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ○ | |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | ハマキムシ類に対して、性フェロモン剤を用いた交信かく乱による防除を行う | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 灰色かび病に対して、バチルス剤を利用する | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | チョウ目害虫に対する防除スケジュールの中に、BT剤の利用を取り入れる | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | チャノキイロアザミウマに対して、スワルスキーカブリダニを利用する | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 19 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【マンゴー】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|--|----|-----------|--|-------|--|
| ①炭疽病に対する、耕種的防除を中心とした対策 ②チャノキイロアザミウマに対する、天敵の利用 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須/選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 防風対策 | | ● | |
| | 10 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 11 | 整枝・せん定 | | ● | |
| | 12 | 芽かき | | ● | |
| | 13 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| | 14 | 施設内環境の管理 | | ● | |
| 物理的防除 | 15 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 16 | 防虫ネットの利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 17 | 交信かく乱剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 18 | 微生物殺菌剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 19 | 微生物殺虫剤の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| | 20 | 天敵の利用 | 利用した資材名を記載 | ● | |
| 化学的防除 | 21 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
実施の有無については、○又は×を記載する

鹿児島県 IPM 実践指標（パッションフルーツ [施設]）

| 実践のポイント | | | | |
|--------------------------|----------|--------------------------------|--|---|
| ①ウイルス病に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● |
| 10 | 罹病植物体の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| | 11 | 施設内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | アブラムシ類等の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ○ |
| 生物的防除 | 15 | 天敵の利用 | ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | ○ |
| 化学的防除 | 16 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● |

※●は必須項目、○は選択項目

鹿児島県 IPM 実践指標（果樹）

鹿児島県 IPM 実践指標【パッションフルーツ [施設]】（実践指標確認シート 計画 ・ 実績 ）

| 実践のポイント | | | | | |
|--------------------------|----------|------------------|--|-------|--|
| ①ウイルス病に対する、耕種的防除を中心とした対策 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 自らほ場の観察を実施し、病害虫の発生の動向を把握する | ● | |
| | | | 病害虫防除所等が発表する発生予察情報及び気象情報を活用する | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | 新たな侵入病害虫の警戒に備えるため、病害虫防除所等が公表する情報の収集に努める | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | IPMに係る技術情報が得られる研修会や講習会等へ参加するなど、IPMの情報収集に努める | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | 各農作業の実施日及び作業内容等を記録する | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 新植及び改植時には健全な苗木を用いる | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌改良基準及び施肥基準を遵守するために、土壌診断や生育診断を実施する | ● | |
| | | | 良質な堆肥を計画的に施用する | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | 新植及び改植時には適地を選定する | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | 排水対策を実施する | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | ほ場及び周囲の雑草管理対策を実施する | ● | |
| | 10 | 罹病植物体の除去 | 発病株及び発病部位等は、早めにほ場外へ持ち出し適切に処分する | ● | |
| 11 | 施設内環境の管理 | 園内の通風と採光を適切に管理する | ● | | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 有機物を利用した土壌還元消毒を実施する | ○ | |
| | | | 太陽熱消毒を実施する | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | ハダニ類等に対して、気門封鎖剤を利用する | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | アブラムシ類等の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する | ○ | |
| 生物防除 | 15 | 天敵の利用 | ハダニ類に対して、カブリダニ類を利用する | ○ | |
| 化学的防除 | 16 | 農薬の使用全般 | 病害虫・雑草の発生状況や植物の生育状況に応じて、適正な散布に努め、過剰な防除を避ける | ● | |
| | | | 農薬の飛散防止対策に努める | ● | |
| | | | 散布器具及びタンク等の洗浄は十分に行うとともに、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し、河川等へ流入しないようにする | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目

申請時には標題の計画又は実績のいずれかを囲む
実施の有無については、○又は×を記載する

| | |
|-----|-------|
| ●の数 | ●の実施数 |
| 15 | |
| ○の数 | ○の実施数 |
| 6 | |

鹿児島県 IPM 実践指標【パッションフルーツ [施設]】（農業者用自主点検シート）

| 実践のポイント | | | | | |
|----------------------------|----------|----------|--|-------|--|
| ①ウイルス病に対する、耕種的防除を中心とした予防対策 | | | | | |
| 実践項目 | | 実践内容 | 必須／選択 | 実施の有無 | |
| 一般的事項 | 1 | 発生予察 | 実施年月日、対象病害虫、活用した発生予察情報等を記載 | ● | |
| | 2 | 侵入病害虫対策 | | ● | |
| | 3 | IPMの情報収集 | 参加した研修会や講習会と参加日を記載 | ● | |
| | 4 | 記帳管理 | | ● | |
| 耕種的防除 | 5 | 健全苗の使用 | 苗木を購入した場合には購入年月日と購入先を記載 自家育苗を実施した場合はその旨を記載 | ● | |
| | 6 | 土壌及び施肥管理 | 土壌診断を実施した場合には、診断機関と診断ほ場面積を記載 生育診断の場合には、実施の有無 作物毎の施肥基準量の把握の有無 | ● | |
| | | | 堆肥の種類、堆肥の入手先、10a当たりの施用量を記載 | ● | |
| | 7 | 適地での栽培 | | ○ | |
| | 8 | 排水対策の実施 | | ● | |
| | 9 | 雑草管理 | カバープランツ等を利用した場合には植物名を記載 | ● | |
| | 10 | 罹病植物体の除去 | | ● | |
| 11 | 施設内環境の管理 | | ● | | |
| 物理的防除 | 12 | 土壌消毒 | 土壌還元消毒又は太陽熱消毒を実施した場合には、実施したどちらかの方法を記載 | ○ | |
| | 13 | 気門封鎖剤の利用 | | ○ | |
| | 14 | 防虫ネットの利用 | | ○ | |
| 生物的防除 | 15 | 天敵の利用 | 利用した場合には資材名を記載 | ○ | |
| 化学的防除 | 16 | 農薬の使用全般 | | ● | |
| | | | | ● | |
| | | | | ● | |

※●は必須項目、○は選択項目
 斜線の項目については、右端欄に実施の有無のみを記載
 実施の有無については、○又は×を記載する